

第5章 美術博物館の歩み

1 美術博物館の事業と活動

(1) 美術博物館の整備事業

① 建築としての特徴

美術博物館は、昭和54年6月に吉田城址のある豊橋公園内に開館した。豊かな風合いを見せる煉瓦と陽光をふんだんに取り入れるガラスに覆われた外観が公園の緑に映える。館内からは中央に設けられた池と中庭を通して裏庭までを見通すことができ、それが建物の特徴の1つとなっている。



【美術博物館 正面(南側)】

屋根の棟に相当する部分がくぼんだ「反りのスカイライン」は建築意匠の見どころで、雨水は池と中庭に集まり、自然の循環を象徴するかのようである。一方で、ガラス1枚を隔てて自然を取り入れることは、外気の影響を受けやすく、館内の温湿度を一定に保つことが難しいという弱点もあった。

② 収蔵庫・特別展示室の増築

平成10年代になると作品や資料の収蔵スペース不足が深刻な課題となった。また、中村正義、星野眞吾など郷土作家の作品を常時展示でき、かつ重要文化財など貴重な資料の展示に十分な機能を備えた展示室が必要となり、平成28年度に既存建物の北側に収蔵庫と展示室などを増築した。収蔵面積は従来の2倍となり、外気の影響を受けにくい建物構造と雨水の適切な処理によって収蔵展



【美術博物館 増築棟(北側)】

示環境を整える一方、館内を南北へ見通せるデザインは踏襲した。展示棟の軽やかな白と収蔵庫棟の重厚なグレーを対比させながら、旧館の煉瓦をわずかにのぞかせる北側からの美術博物館の表情もまた、豊橋公園の新たな見どころとなっている。

(2) コレクションの充実

①収集の方向性と展開

美術 開館当初から中村正義など郷土作家の作品を核として収集してきたが、平成年間には周縁作家も取り上げ、東三河から愛知県、さらに中部地方へと対象地域を広げ、約400点から約1,700点まで収蔵作品数が拡大した（一括寄贈資料を除く）。郷土関連作家作品が充実した現在、館の特性となる新たなテーマを設け、収集活動を展開していく方向にある。

歴史 市内各地域に残る近世区有文書や吉田藩主大河内家資料、郷土史家近藤恒次氏の収集資料を核としながら、豊橋を中心に東三河に関する資料を収集対象としてきた。近年、生活様式の変化や継承する人材不足などの理由で、文化財の処分を考える人も増えており、貴重な資料を消滅・散逸させないために情報収集や調査を行うことが重要となっている。

②購入（作品・資料）

美術 洋画では、岸田劉生作品の受贈を端緒として、「清宮氏肖像」など劉生作品4点を購入したほか、関連作家である中川一政、木村荘八、椿貞雄、河野通勢らの作品を収蔵した。また、愛知県ゆかりの作家として、荻須高德、三岸節子、島田章三など著名な洋画家や荒川修作、桑山忠明ら現代作家



【岸田劉生「清宮氏肖像」】

にも範囲を広げた。

日本画では、「うしろの人」など中村正義の代表作のほか、正義の師である中村岳陵の代表作「流紋」「貴妃賜浴」などを購入した。関連作家を収蔵することで、正義の画業を多角的に捉えることができるコレクションを築いている。また、戦後日本写真の第一人者である東松照明、豊橋出身の山岳写真家である水越武の作品収集を行った。



【中村正義「うしろの人」】

歴史 東海道に関する資料として揃いものの浮世絵や東海道図屏風、街道図、そのほか当地で始まった「ええじゃないか」に関する浮世絵を収集した。明治以降の豊橋の地図も集中的に収集し、充実したコレクションとなっている。また、何らかの理由で市外に流出した貴重な文化財を市民の手に取り戻すことも美術博物館の役割である。これらには、長沢芦雪「隻履達磨図」(旧正宗寺蔵)、「銅経筒」(旧普門寺蔵)、「自江戸至長崎東海道山陽道四国九州街道ノ図」(旧藩主家蔵)などがある。

③寄贈・寄託(作品・資料)

美術 戦後当地方で活躍した郷土作家の遺贈などが増え、平川敏夫、大森運夫、星野眞吾などの画業を通観できるコレクションが形成された。その一方で、個人コレ



【長沢芦雪「隻履達磨図」】



【横山大観「春嶺」】

クターからの寄贈もあり、近代日

本画の巨匠・横山大観の「春嶺」などを収蔵したほか、東山魁夷や片岡球子など著名作家を多数含む後藤和子氏のコレクションの一括寄贈を受けた。

寄託作品では、中村正義のコレクターとして知られた小松三郎氏遺族から、絶筆を含む絵画や挿画、書などの貴重なコレクションを受託している。

歴史 豊橋市街に保存されていた資料は、昭和20年の豊橋空襲によって失われたものが多いが、戦災を免れ当館にもたらされるものもある。吉田藩士関係では、多くの地図コレクションを含む柴田家資料や江戸詰の藩士であった大嶋家文書の収蔵により、藩務や文化活動についての理解が進んだ。そのほか松尾芭蕉が伊良湖を訪れた時に記した懐紙、吉田神社の神主家石田家の一連の資料、寺社所有の文化財などの寄贈・寄託を受け、文化や祭礼、宗教に関する資料も充実した。

(3) 展覧会活動

①美術系展覧会

郷土作家の顕彰 石河彦男、平川敏夫、大森運夫、森清治郎、森緑翠、富安昌也、仲谷孝夫、高畑郁子、松井守男の画業を回顧したほか、他館との共同企画として、中村正義、星野眞吾、水越武、野田弘志の回顧展を開催した。また、「豊橋近代日本画展」では明治から戦前期の日本画家の動向を概観した。

コレクションを核とした展開 コレクションの充実によりさまざまなテーマによるコレクション展が可能となったほか、他館へ貸し出しを行い、相互に交流



【岡本太郎と中村正義「東京展」】

を深めている。浜松市美術館、飯田市美術博物館、新潟市美術館などのほか、姉妹都市であるアメリカのトリード美術館やドイツのヴォルフスブルグ市立美術館で当館のコレクション展が開催された。また、コレクションを核とした展覧会として、川崎市岡本太郎美術館との共同企画「岡本太郎と中村正義『東京展』」、当館の写実系コレクションを母体とした「ニッポンの写実 そっくりの魔力」展、革新的な日本画の展開を追った「NIHON画－新たな地平を求めて－」展を開催した。これらの展覧会は今後の活動の新たな指標となった。

幅広い層へのアピール 「印象派の巨匠展－ケルン市立美術館所蔵－」など国内外の名品展はじめ、今なお人気の「放浪の天才画家 山下清展」などを開催し、幅広い層の希望に答えてきた。

近年はサブカルチャーへの関心から「造形集団 海洋堂の軌跡－サブカルチャーと現代－」展、「ハローキティアート展」や、絵本やマンガの原画展など多様な展覧会を開催している。メディアアートによる「魔法の美術館」展は、参加型の展示を行い多くの家族連れで賑わった。



【「魔法の美術館」会場風景】

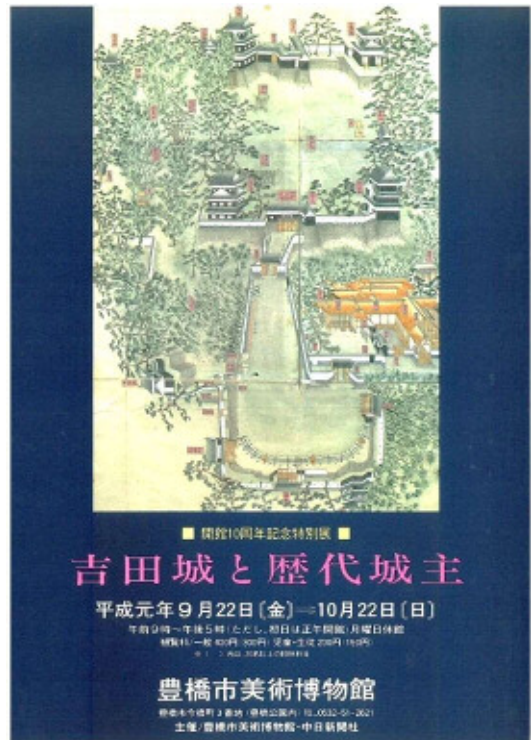
美術の規定がボーダレスとなった現在、気軽にアートに親しめ、幅広い層にアピールする多様な展覧会が求められている。

②歴史系展覧会

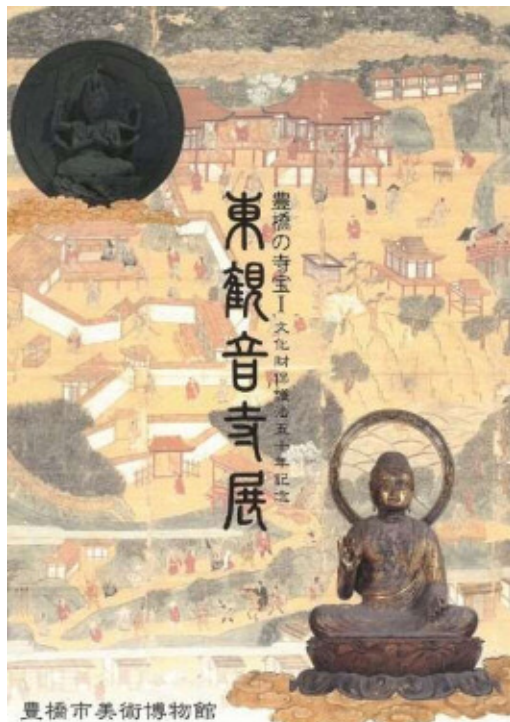
地域の歴史・文化に関する展覧会 この地域で活躍した画家を紹介する小企画展を継続して開催し、その成果を「郷土画人展Ⅰ・Ⅱ」として、恩田石峰など江戸時代の画家、渡辺小華を中心とした明治時代の画家に分けてまとめた。

また、「吉田城と歴代城主」展をはじめとする吉田城関連の企画展を通して近世豊橋の歴史や文化活動を紹介した。

「おかげまいりとええじゃないか」では豊橋が発祥とされる幕末の運動を紹介し、「歴史の道－東海道展－」は二川宿本陣資料館の研究成果を取り入れて近世交通史に関する大規模な展示となった。近代以降では戦争と軍隊、印刷物などのテーマで企画展を開催した。



【吉田城と歴代城主展】



【「東観音寺展」図録】

地域の寺社に残る文化財の紹介 東観音寺、普門寺、赤岩寺、正宗寺、吉田神社など文化財を多数所蔵する寺社や、安海熊野社の能面・能装束、あるいは金工、仏典などのテーマで文化財を紹介する展示を行っている。これらの展示を通じて文化財に対する新たな認識が生じ、展示資料の修理や文化財指定が行われるといった成果につながった。また、石巻神社の大般若経を中心とした展覧会は、県内の学生たちの長期にわたる調査をもとに開催し、他の機関との連携が実を結んだものである。

コレクションの特徴を活かす展示 「鬼・オニ・ONI展」は、歴史、民俗、考古、美術の各分野から多様な資料を展示し好評を得た。「美術館」と「博物館」が融合した当館のコレクションを活かす分野横断的なテーマ設定による展示は、その後のコレクション名品展「ナイン・ストーリーズ」でも取り入れ、9つのテーマに基づいて美術を中心に歴史、考古、民俗のさまざまな資料を組み合わせ全館で紹介した。

(4) 普及活動

①学校との連携「鑑賞授業」

平成 21 年度から市内小中学校を対象に美術博物館で本物の作品や資料に触れる「鑑賞授業」を行ってきた。展覧会鑑賞のほか、バックヤードツアーなども実施している。市外小中学校のほか高等学校・大学も含めると、これまでに約 40 校（小学校 21、中学校 15、高等学校 1、大学 1、他 2）、約 5,500 人の児童生徒が参加している。

②子ども向けプログラムの実施

平成 13 年度から子ども向けの美術ワークショップを実施している。当初は収蔵品展において豊橋市立小中学校図工美術研究部の協力を得て行ったが、企画展に際して関係する作家を招くほか、作家と子どもの共同制作も行うようになった。

また、近年は制作体験ばかりでなく、作品を観ることの楽しさを伝える探検型の鑑賞プログラムを開催している。



【「鬼・オニ・ONI」展】



【「自然と幻想の博物誌」ワークショップ】

③ボランティアガイドの活動



【ボランティアガイドによる作品解説】

平成 13 年度の収蔵品展「人のかたち」から「美術博物館友の会」会員を対象に作品解説を行うボランティアガイドを募り、翌年から対象を一般に広げた。

応募者は半年間の養成講座を受け、トークの鍛錬を積み、展覧会で鑑賞者を前に実演を行った上で、ガイドとして認定される。以後 5 年ごとに新規ガイドを募り、常時 10 人から 15 人ほどが活動を行ってきた。作品を鑑賞しながら気軽に会話を楽しむコミュニケーションの場として、来館者に親しまれている。

応募者は半年間の養成講座

④美術博物館友の会の活動

「豊橋市美術博物館事業に協力し、会員の教養を高めるとともに相互の親睦を深め、文化の向上を図ること」を目的として昭和 62 年度に発足した「美術博物館友の会」は、研修旅行の催行や会報「風伯」の発行、講座や講演会の開催など多くの自主事業を行っている。

平成 15 年度から展覧会と連動したミュージアムコンサートを開催しており、平成 29 年度以降は豊橋交響楽団の協力を得て北庭で野外コンサートを開催し好評を博している。



【豊橋交響楽団による野外コンサート】

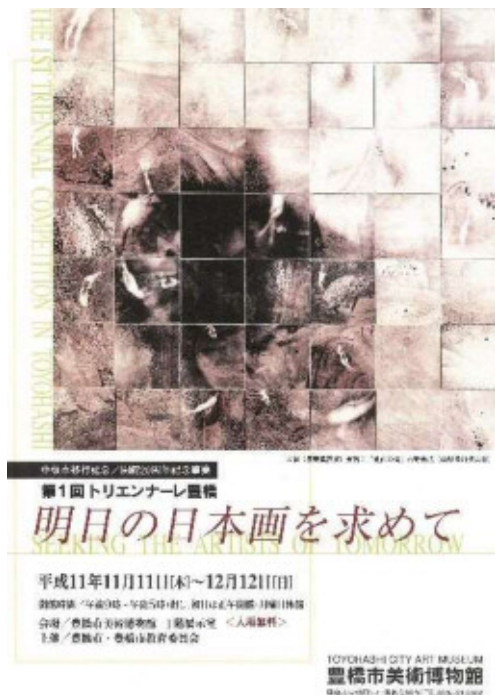
そのほか平成 19 年度から豊橋まつり（子ども造形パラダイス）に合わせて児童生徒を対象とするアートイベント「すきな絵をさがそう」を開催するなど広く普及に努め、美術博物館の活動に欠かせないサポーター的存在となっている。



【すきな絵をさがそう】

(5) 星野眞吾・高畑郁子美術振興基金設立と「トリエンナーレ豊橋」の開始

平成8年8月、市内の日本画家・星野眞吾氏から「優れた若い美術作家の発



掘と育成、かつ新しい美術運動の発祥の地として豊橋市を PR できる事業に活用してほしい」と1億円が寄附され、星野眞吾美術振興基金を設置した（現：星野眞吾・高畑郁子美術振興基金）。基金の活用事業として、全国公募展「トリエンナーレ豊橋 星野眞吾賞展—明日の日本画を求めて—」を平成11年度から3年ごとに継続して開催している。本展は「従来の概念にとらわれない日本画」を募集規定に掲げ、革新的な制作活動を行う新進作家の発掘と顕彰に努めており、豊橋市美術博物館の特色ある展覧会の1つとなっている。

【第1回展リーフレット】

(6) 民俗資料収蔵室の活用

昭和19年建造の旧多米小学校校舎を利用した民俗資料収蔵室では、昭和40年代から地域の農耕・漁労・製糸などに関する民具の収集・保存を行い、一般公開を行ってきた。平成に入ると施設や資料を活用した普及事業が活発化した。近年は地元自治会や校区文化協会などを中心とする「ふるためネット」と連携し、「七夕飾りをつくろう」「くどうす体験」ほか、さまざまなイベントを開催し、市民が生活文化やアートに親しむ場所として好評を博している。また、平成18年公開の映画「早咲きの花」のロケに使用されるなど、木造の建物の景観は歴史的情緒があり、建築史的意義から平成28年2月には国の登録有形文化財に登録された。



【くどうす体験 石臼と杵で餅つき】

2 文化財の保存と活用

(1) 文化財の指定

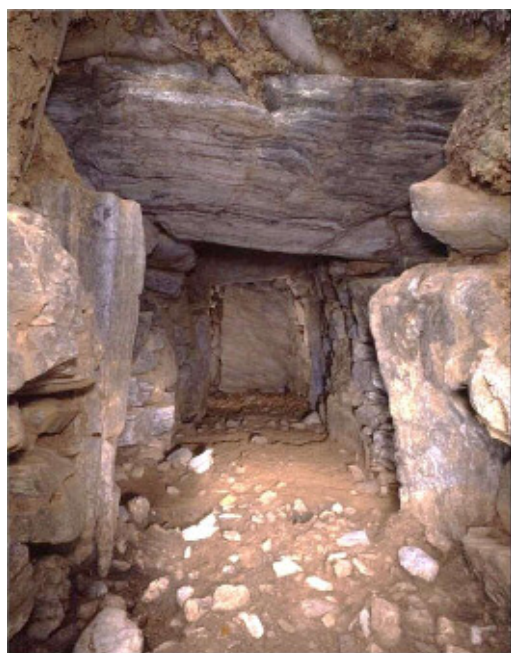
文化財は国民の共有財産とみなされ、文化財保護法や県・市の文化財保護条例により保護されている。文化財は地域の歴史文化の象徴であり、アイデンティティーや誇りでもある。令和元年12月31日現在、豊橋市には130件の指定文化財がある。内訳は、国指定22件、国登録9件、県指定16件、市指定83件である。豊橋市には建造物や美術工芸品、有形・無形民俗文化財、史跡・天然



【国指定：豊橋ハリストス正教会聖堂】

記念物などの文化財があり、無形文化財や名勝、伝統的建造物群保存地区はない。多種多様な文化財がバランスよく存在することが豊橋市の特徴である。

このうち主な文化財として、平成20年6月に豊橋ハリストス正教会聖使徒福音者馬太聖堂が県指定から、平成24年9月に愛知県馬越長火塚古墳出土品が未指定から、平成28年3月に馬越長火塚古墳群が県指定から、それぞれ国指定になった。ハリストス正教会聖堂はまちなかにあって印象的な鐘楼をもつ、優美な大正時代の教会建築であり、馬越長火塚古墳出土品及び同古墳群は、東海地方を代表する後期の首長墓とその出土品として高く評価されたものである。



【国指定：馬越長火塚古墳群】

県指定では、平成4年2月に葦毛湿原が天然記念物に、平成5年2月に普門寺所蔵の不動明王・二童子各立像、平成28年1月に赤岩寺所蔵の金剛杵がそれぞれ有形文化財になった。葦毛湿原は身近な自然として市民に親しまれており、豊橋市が一部の土地を買い上げ、管理を行っている。近年、外部からの土砂の流入に伴う森林の進出により、湿原が



【登録有形文化財：愛知大学旧本館】

縮小しつつあるため、豊橋市では平成24年度から大規模植生回復作業に着手している。

国の登録有形文化財は、主に建造物を対象にする緩やかな文化財保護のシステムである。豊橋市では平成10年9月に豊橋市公会堂ほか登録されて以来、9件22棟の建物が登録された。陸軍第十五師団司令部だった愛知大学旧本館、懐かしい木造校舎の

面影を残す豊橋市民俗資料収蔵室、栄光の水道事業を物語る豊橋市上水道施設など、主に豊橋市の近代以降の歴史を物語る建造物群が登録されている。

（２）文化財の保存修理

文化財には、長い年月の中で劣化やき損が生じるものがあり、これを保存するだけでなく、修理して後世に伝える必要がある。平成元年度以降では、東観音寺の多宝塔（国指定）、賀茂神社の本殿（県指定）で屋根の葺替え工事を行ったほか、ハリストス正教会聖堂で屋根の修理や外壁塗装などを行っている。また普門寺の不動明王・二童子各立像（県指定）は、修理により過去の容姿を取り戻し、普門寺を代表する仏像の1つになっている。文化財を本来の姿に戻し長く伝えるという意味においては、葦毛湿原の大規模植生回復作業やナガバノイシモチソウ（市指定）の大規模植生回復作業、普門寺の大杉や春日神社の槇、玉泉寺の榎（いずれも市指定）などの樹勢回復作業も修理の一環ととらえている。

文化財の修理は基本的に所有者が行うものであるが、豊橋市でも修理方法の指導・助言、補助金の支出などを通じて積極的に支援している。



【植生回復が進む葦毛湿原】

近年、文化財の災害による被災が続いている。豊橋市でも国史跡瓜郷遺跡復元住居の火災に伴う建て替え、県史跡前芝の燈明台の突風被害に伴う修復など

を行った。また平成 23 年度には市内の赤岩寺において、火災のため市指定の仏像 3 体が焼失するという出来事があった。災害からの文化財の保護は、日頃の防災意識と周辺環境を含めた現状の把握が大切である。

（3）埋蔵文化財の対応

埋蔵文化財とは、集落跡（遺跡）や古墳、貝塚、窯跡、城館跡など、祖先たちの活動の痕跡であり、豊橋市では 1,420 か所が確認されている。この数は愛知県内で最も多く、とりわけ古墳の数は 740 基と愛知県の約 4 分の 1 を占め、原始・古代から続く豊かな歴史を物語っている。

埋蔵文化財は土地にかかる文化財であり、発掘調査しなければその価値が見いだせないため、悉皆的な保護措置がとられている。開発行為により遺跡が滅失する場合は、文化財保護法及び関連法令により緊急に発掘調査を行って記録の上で保存する（記録保存）と規定されている。



【牟呂坂津地区の発掘調査】

豊橋市では、遺跡の集中地域である牟呂地区、牛川西部地区、牟呂坂津地区において区画整理事業が進められ、事業の進捗に合わせた緊急発掘調査を行ってきた。牟呂地区は昭和 56 年度から平成 9 年度、牛川西部地区は平成 14 年度以降現在まで、牟呂坂津地区は平成 18 年度以降現在まで、長期間にわたり発掘調査を続けており、多くの遺跡で記録上の保存措置が図られた。主な調査成果として、牟呂地区では縄文時代の干し貝加工を目的とする貝塚群、古墳時代の前方後方墳や前方後円墳、古代の寺院と豪族の館跡、中世の館跡や城跡などが、牛川西部地区では 1 万年前の住居跡や弥生時代の環濠集落、古墳や中世の墓地などが、牟呂坂津地区では最古の干し貝加工場と海に臨む環濠集落、三河地方最古級の古墳などが発見されるなど、開発の代償として重要な知見が数多く得られている。



【前芝の燈明台の被災状況】

区画整理事業地内の埋蔵文化財からは、縄文時代から近世までの長い歴史を連綿とたどることができ、文献記録が残らない地域の歴史を通観できる稀有な成果をもたらした。このほか、県や市の公共施設建設に伴う吉田城址の調査、民間開発に伴う古墳の調査なども行い、それぞれで成果を収めている。



【普門寺旧境内の確認調査】

こうした開発対応のための緊急発掘調査とは別に、近年は計画的な発掘調査を行うことで埋蔵文化財の価値づけと保護・活用をはかる確認調査にも取り組んでいる。平成17年1月から平成20年度に行った馬越長火塚古墳群の確認調査では、出土品及び古墳本体の国指定に結びつく成果をあげた。また雲谷町にある普門寺の裏山に展開する山岳寺院の遺構・普門寺旧境内についても平成19



【吉田城址の確認調査】

年12月から平成26年度に確認調査を行い、平安時代から近世まで続く、東海地方最大級の遺構群の実態が明らかになっている。平成28年11月からは吉田城址の確認調査に着手しており、東三河の中心かつ東海道の要として機能した吉田城の実態が明らかになりつつある。

今後は記録保存を目的とする調査から、埋蔵文化財の保存と活用を目的とする調査へと業務の主軸をシフトしていくことが必要となっている。

（４）文化財の活用

文化財の活用は、文化財保護法の精神からも保護とならぶ重要な業務である。活用にはさまざまな方法があり、調査研究の成果を活かした展覧会や講座・シンポジウムの開催、パンフレットなど広報物の作成、発掘調査の現地説明会、史跡の保存整備などが手法として有効である。



【講座で作った勾玉】

「東海大土偶展」「みかわの城ー吉田城と天下人ー」展、「とよはしの豪族ーさとがえり・牟呂王塚古墳と姫塚古墳」展を開催した。中でも「普門寺と国境のほとけ」展では、普門寺旧境内の総合調査の成果として出土品だけでなく彫刻や絵画、古文書など文化財を数多く展示し好評を得た。

また講座では、体験を中心に文化財に親しむ「とよはし歴史探訪」を開催し、「勾玉づくり」「トンボ玉づくり」「土器づくり」などのワークショップやバスを利用した「史跡めぐり」「戦争遺跡めぐり」「文化財めぐり」などを開催し、文化財の魅力を親しみやすく伝えている。

シンポジウムでは、平成 17 年度に「吉田城シンポジウム」を開催して吉田城址の研究と再評価を進め、会場である豊橋市公会堂は多くの市民で賑わった。埋蔵文化財活用事業として平成 29 年度から着手した「とよはしシンポジウム」でも、吉田城や古墳を取り上げた最新の研究成果をわかりやすく伝え、多数の参加者があった。



【第 1 回とよはしシンポジウム】

文化財全般や吉田城址、馬越長火塚古墳群、普門寺旧境内、戦争遺跡を取り上げたものなど多数のパンフレットを作成しており、イベントなどで配布を行っている。市民の自発的な文化財探訪にも有効に活用されており、展覧会の実施などを機会にその種類を増やしている。

発掘調査の現地説明会は、調査の状況をありのままに見学できることが魅力



【瓜郷遺跡】

を地表面に復元するもので、原始古代の世界を体感するうえで有効な手法である。周辺市町の多くが史跡公園の有効な活用を進めており、保存活用計画が策定された馬越長火塚古墳群を含めて早期に実現する必要がある。



【文化財サポーターの活動】

は、市民が主体的に文化財に関わる姿勢が重要であり、サポーター各自の価値観を尊重しながら、柔軟な運営を行っていくことを理想としている。

（５）これからの文化財保護

文化財は地域の象徴であり、市民にとって郷土の誇りにも精神的な支えにもなりうる。また地域振興や観光振興にも寄与するものと期待される。今後は、より広い視野のもとに文化財を総合的に評価し、活用する姿勢が求められる。そのためにも、多くの市民を文化財の保存と活用の担い手へと育成する必要がある。全国的な均質化・平準化が進む時代にあつて、文化財は地域の特色を象徴するものとして注目されている。市民の宝として、今後は、計画性と積極性をもった文化財の保存と活用を進めていくことが求められている。

である。近年は参加者が 300 人を超える場合があり、徐々に市民に周知されてきている。

史跡整備は豊橋市が最も遅れをとっている事業である。瓜郷遺跡では、史跡公園整備を見据え平成 25 年度から着手した用地の買い上げが進み、ようやく半分ほどの用地を確保した。史跡整備は、地中にあつて見えない遺跡

以上の活用事業に対し、文化財を愛護する人を育成する事業はまだ緒に着いたばかりである。平成 28 年度から募集を開始した文化財サポーターは、毎月 1 回の定例会で知識の習得に努めながら、さまざまな活用事業の担い手や補助者として成長しつつある。文化財の意義を市民に伝えるために

3 二川宿本陣資料館の事業と活動

(1) 二川宿本陣資料館の開館

二川宿本陣資料館は、平成3年8月1日に近世交通史上貴重な文化財である二川宿本陣の保存活用と、近世交通史ならびに地域の歴史文化を調査研究する資料館として開館された。

二川宿本陣は、江戸時代後期の文化4年（1807年）から明治3年（1870年）の本陣廃止に至るまで本陣職を務めた馬場家の遺構である。昭和60年度に馬場家から建物遺構ならびに敷地の寄付を受けたことにより、昭和62年度に豊橋市の史跡に指定し、翌年から3か年をかけて改修復原工事が実施された。本陣建物は、明治以降馬場家が酒造業や、味噌・醤油の醸造業を始めたことにより大きな改造が行われていたほか、大名が宿泊する上段の間のある書院棟が取り壊されていたため、残された間取図や木材の痕跡調査などにより主屋・玄関棟・土蔵等は改修復原し、書院棟は新築復原された。

工事は、豊橋技術科学大学の小野木重勝教授（当時）の指導監修により、国指定重要文化財建造物の修理に準じて行われ、江戸時代末期の安政年間の本陣がもっとも整備された時代の姿となった。

また、本陣建物の背後に、江戸時代の交通をテーマとする資料館を建設し、東海道・二川宿・本陣の3つのコーナーにより構成される常設展示が設けられ、街道の風景、旅人の様子、二川宿の町並み、本陣の利用などを紹介することとなった。さらに、浮世絵版画を中心とする美術や、江戸時代の交通や地域の歴史を深く掘り下げたテーマによる企画展を順次開催している。

東海道の宿場町で本陣の全容を見ることができるのは、二川宿本陣馬場家と滋賀県草津市の草津宿本陣田中家の2軒のみであり、近世交通史上大変貴重な文化財である。



【二川宿本陣の外観】



【資料館常設展示】

（２）二川宿総合調査報告書の刊行

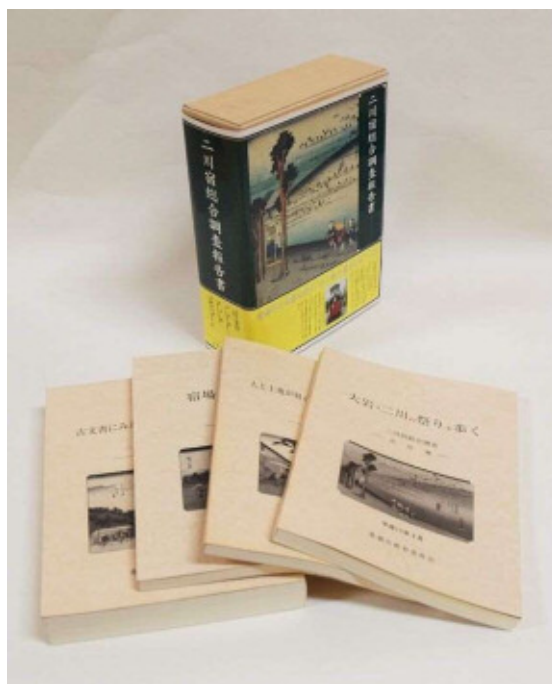
二川宿に関する調査を文献資料・地理・民俗・町並み及び建築物の各分野から総合的に行い、資料の発掘、保存、成果の報告を行う事業として「二川宿総合調査」を平成6年度から平成10年度までの5か年で行った。その背景には、二川宿の町並みも、家屋の建替えや世代交代が進み、江戸時代の宿場町の記録である建築物、古文書、民具などが失われていく状況があった。

調査は、教育委員会から委託を受けた二川宿総合調査団が実施し、文献資料を愛知大学の渡辺和敏教授、地理を愛知大学の藤田佳久教授、民俗を愛知大学の印南敏秀助教授、町並み・建築物を豊橋技術科学大学の小野木重勝名誉教授が担当した（役職は調査当時のもの）。

文献資料調査では、二川宿に伝来する江戸時代後期以降の古文書を博搜して史料集を編さんした。地理調査では、二川宿地域をフィールドワークして土地利用の変遷や人口の動きなど地理学的な視点から多面的に分析がなされた。民俗調査では、毎年10月に開催される二川八幡神社と大岩神明宮の例大祭を調査し、二川宿の民俗について祭礼を通じて検討された。町並み・建造物調査では、二川宿の町並みを概観するとともに、主要な土蔵を建築学的所見から考察を行った。

調査の成果である二川宿総合調査報告書は、文献資料編を「古文書にみる江戸時代の二川宿」、地理編を「人と土地が刻んだ地域システムを追う」、民俗編を「大岩・二川の祭りを歩く」、町並み・建築物編を「宿場のまちといえ」と題して4分冊で、平成11年3月に刊行した。

報告書の刊行によって、それまで判然としなかった事実が数多く明らかになり、学術研究の向上に資することができたとともに、その成果は二川宿本陣資料館の展示などに活用された。



【二川宿総合調査報告書】

(3) 二川宿本陣資料館リニューアルオープン

二川宿本陣の東隣に位置する旅籠屋「清明屋」は、江戸中期頃から旅籠屋を営んだ家で、昭和58年度に実施した町並み調査で、主屋のほか繋の間、奥座敷まで完全に残す貴重な旅籠屋遺構であるとの結果が報告され、交通史上貴重な文化財であると位置づけられた。

平成11年度に土地購入及び建物寄附により公有地化、平成12年度には建物基本調査、復原計画図面作成を行い、豊橋市有形文化財の指定を受け、平成13年度に改修復原工事実施設計、平成14年度に解体工事、平成15年度と平成16年度には改修復原工事を実施した。主屋は工事の結果、瓦に残る文字から文化14年(1817年)建築であることが判明



【旅籠屋「清明屋」内部】

した。また、背後にあった土蔵・裏座敷は取り壊されていたため、土蔵は鉄筋コンクリート、裏座敷は木造で新築復原した。清明屋の復原により大名の宿「本陣」と庶民の宿「旅籠屋」が一緒に見学できる全国初の施設となった。

また、旅籠屋「清明屋」の公開に合わせ、平成15年度に企画展示室・收藏庫の増築工事、平成16年度には平成3年度オープン以来、初めての常設展示更新、元企画展示室の講義室への改装など、常設展示物製作、資料館改装工事を行った。常設展示はテーマやコーナーはそのままに、映像や体験できる展示物



【記念式典テープカット】

を増やし、楽しみながら学べる展示内容となり、企画展示室や講義室の新設に伴って、より内容の充実した企画展や講座の開催が可能となった。

平成17年4月29日にリニューアルオープン記念式典を行った。二川中学校吹奏楽部演奏、「大名行列」の雅姫・琴姫を招待してのテープカットに続き、来賓・地元小中学生の見学、一般公開、記念イベントとして林美也子箏コンサート「現代の響き」を開催した。また、企画展示室では、リニューアルオープン記念展「東海道五十三次一屏風・浮世絵・道中図一」を開催した。

(4) 二川宿本陣資料館の企画展

開館以来、東海道を中心とする江戸時代の交通、二川宿に関する郷土の歴史・文化をテーマとする企画展を中心に開催してきた。

主なものとして、平成4年度から始めた「東海道五十三次宿場展」は、東海道の宿場を江戸日本橋から京三条大橋まで順次紹介していくもので、全14回にも及んだ。また、多くの史跡や文化財がある二川地区に伝来する歴史資料を中心に紹介した「郷土資料展」も6回にわたり開催し、いずれもリピーターの獲得につなげることができた。

一方、「池田遙邨展－昭和東海道と山頭火－」「－没後20年－関野準一郎の東海道五十三次展」「山下清の東海道五十三次展」など、東海道を描いた美術作家にもスポットをあて、歴史愛好家だけでなく、多数の美術愛好家の来館もあった。なかでも、「棟方志功の東海道五十三次展」は、「東海道棟方板画」全64点を中心に、最初の板画集である「星座の花嫁板画集」、典型的な棟方美人画である「門世の柵」、最後の板画作品となった「捨身飼虎の柵」など、棟方板画を語る上で欠かせない作品を紹介した。また、「歴史の道－姫街道展－」は、「本陣に泊まった大名たち展」「琉球使節展」「動物の旅展－ゾウとラクダ－」「たべあるき東海道展」などとともに、資料館の調査研究の成果を紹介した企画展である。

人気漫画家の作品を紹介した「水木しげるの妖怪道五十三次展」では、「ゲゲゲの鬼太郎」の実写版映画公開、テレビアニメ放映の年と重なり、夏休み期間でもあったことから非常に多く家族連れが訪れた。当時のアンケートでは、期間中来館者の約6割が初めての来館であったことがわかっている。今後もより多くの方に本陣資料館に足を運んでもらえるような魅力ある企画展を開催していく予定である。



【棟方志功の東海道五十三次展】

（５）大名行列などイベントの開催

二川宿本陣資料館では、毎年秋季に、地域住民と協働して大名行列を開催している。大名行列は、街道風俗絵巻として旧東海道を練り歩くもので（雨天時は二川小学校体育館で実施）、三河吉田藩主松平伊豆守の行列を再現したものである。行列は、一般公募により選出された雅姫・琴姫をはじめ、約300名の地域住民により構成された。行列本体に先導して、地域の小学生による鼓笛隊や手踊り、奴踊りが華を添えている。

このほかにも、「二川宿本陣まつり」として、「琴のしらべ」「本陣茶会」「本陣句会」「和本つくり講座」「古文書講座」など各種イベントが開催されている。

「本陣句会」は、最後の本陣当主であった馬場梅土をはじめ二川宿では俳句が盛んに行われていたため、この文化を次世代に継承することを目的としている。

日本の伝統文化である五節句には各種イベントを開催している。正月の人日の節句には、正月飾りや春の七草の展示を行っている。3月の上巳の節句には、二川地区の旧家に伝来する雛人形を中心に、内裏雛や御殿飾り、つるし飾りを展示し、会期中には子どもを対象に「おひめさま、おとのさまになろう」を開催している。また、5月の端午の節句には、明治から現代までの五月人形や五月飾りを展示し、会期中には体験講座「鎧・兜を着てみよう」や「端午の節句折り紙教室」を開催している。7月の七夕の節句には、近隣の幼稚園や保育園の園児が書いた短冊を飾った笹飾りや季節のつるし飾りを展示したり、9月の重陽の節句には、菊の着せ綿やオカヅラ人形を展示したりしている。平成24年度からは、地域住民と協働で旧東海道の町並み約1.5kmを通行止めにして歩行者天国として、およそ3,500個の灯籠でライトアップする「灯籠で飾ろう二川宿」を毎年7月に開催している。



【大名行列】



【灯籠で飾ろう二川宿】

(6) 商家「駒屋」の開館

商家「駒屋」は、二川町字新橋町に建つ市内では数少ない商家の遺構である。敷地内には、江戸時代後期に建てられた主屋をはじめ、脇門・離れ座敷・茶室・南土蔵・中土蔵・北土蔵・北倉の8棟の建造物がある。表間口が7.5間(13.7m)、奥行きが58間(106m)からなり、江戸時代の宅地割がそのまま残っている。

江戸時代の商家の一般的な形式をよく残していることから、平成14年度に土地建物を公有地化し、平成15年度には豊橋市指定有形文化財に指定された。平成21年度には復原計画図が作成され、平成23年度には実施設計、平成24年度から3か年をかけて改修復原工事がなされ、平成27年11月に開館した。二川宿は、駒屋の開館によって、本陣・旅籠屋・商家の建物が一堂に公開され見学できる全国唯一の宿場町となった。

商家「駒屋」を営んだ田村家は、現在の静岡県湖西市から医者として二川宿に移り住み、商家としては江戸時代中期から米穀商を始め、のちに質屋を兼業し経営規模を拡大し、二川宿随一の有力者として、宿役人や村役人を勤めた。

開館後の運営には、指定管理者制度が導入され、地域住民が主体となるNPO法人に委託して、中土蔵では土産物などを販売するショップが、北土蔵ではランチなどを提供するカフェが営業されている。入館料は無料で、地域住民などが気軽に立ち寄り交流できる施設となっている。また、各建物は有料で貸し出され、展示会などの各種イベントや会合に利用されており、屋外の広場ではフリーマーケットや音楽コンサートが行われている。



【商家「駒屋」外観】



【商家「駒屋」屋外イベント】

第6章 科学教育センターの歩み

1 視聴覚教育センター・地下資源館

科学教育センターは、視聴覚教育センター（昭和49年10月開館）と地下資源館（昭和55年11月開館）を所管する課として平成24年度に新設された。

視聴覚教育センターは、開館以来、理科教育の拠点として児童生徒への実習や教員研修、情報センターの役割を果たしてきたが、小中学校用視聴覚ライブラリー、情報教育、教員研修などの事業は、平成6年度に開館した豊橋市教育会館に移行された。同時に適応指導教室「麦笛ひろば東（現：とよはしほっとプラザ東）」が同センターの一角に設置された。現在では学校教育の一環である「わくわく体験活動」やプラネタリウム投映を中心として、地下資源館とともに物理、化学、天文分野の科学教育を振興する施設としての役割を担っている。

地下資源館は、世界の鉱物・鉱石や地下資源、エネルギー問題などの展示を行い、省エネ、省資源への関心を高め、科学実験からくらしを支える科学への志向を促す学習の場として実験ショーやワークショップなどの活動を行っている。



【視聴覚教育センター・地下資源館】

2 施設整備

(1) プラネタリウム投映機

視聴覚教育センターでは、市民が楽しみながら天文に興味をもってもらえるようプラネタリウム投映を行っている。昭和49年10月に導入した初代プラネタリウムは平成2年4月に2代目プラネタリウム（インフィニウムβ）に更新した。初代プラネタリウムは、「地球型」と呼ばれるもの



【プラネタリウム投映の様子（3代目）】

で、地球から見た宇宙の様子のみを映し出す装置であったが、2代目は「宇宙型」と呼ばれるもので、宇宙から見た地球も投映できるようになった。同時に、座席も一方向を向く劇場式に改装し、スクリーンも更新した。

平成9年5月には、よりリアルで臨場感あふれる映像を提供するため、ビデオ映像システムを増設した。

平成23年11月には、光学式プラネタリウム「パンドラ」と全天周デジタル投映システム「バーチャリウムⅡ」を融合した「パンドラ・ハイブリッド」システムに更新した。「パンドラ」は高輝度LEDを使用し、主恒星は7.7等星までの33,151個、天の川を含めると約4千万個の恒星を投映することができ、最新の天文学が明らかにした宇宙の果てまでの各種データが装填されている。「バーチャリウムⅡ」は、2台のHDビデオプロジェクターにより全天に継ぎ目なく投映でき、各種天体・星座線などの画像を「パンドラ」の星空に重ねて投映することもできるようになった。

平成28年2月には、全天周動画のリアルタイム投映に対応した補助投映装置（HAKONIWA3）を新設した。これにより、全天周映像の明度と彩度が大きく改善し、プラネタリウムをさまざまなイベントに活用する可能性が大きく広がることとなった。また、補助投映装置を使用したときに「パンドラ」の影が映らないようにするため、「パンドラ」に昇降装置も設置した。



【初代プラネタリウム】



【2代目プラネタリウム】



【3代目プラネタリウム】

<プラネタリウムの年度別一般投映回数>

年度	投映回数
昭和49年度～平成元年度	日3回
平成2年度～平成5年度	土・日・祝日3回
平成6年度～平成22年度	平日1回、土・日・祝日3回
平成23年度～平成27年度	平日1回、土・日・祝日4回
平成28年度～	平日1回、土・日・祝日3回

（２）地下資源館展示改装 5 か年事業

昭和 61 年度地下資源館展示検討委員会により、市民に愛され親しまれる博物館にするための検討がなされた。この委員会からの展示改装 5 か年計画の答申を受け、昭和 62 年度から事業が進められた。平成 4 年 2 月、地下資源館 1 階及び地下 1 階の常設展示 23 コーナー（セラミックスコーナー、石灰石、郷土・世界の地下資源、銅、宝石、郷土のエネルギー、Q&A、新しい金属材料、いろいろな非金属・石炭、石油、映像コーナーなど）の改装が完成した。



【いろいろな非金属・石炭コーナー】



【石油コーナー】

（３）太陽光パネル更新、風力発電装置設置

平成 22 年 2 月に来館者が近くで観察できる太陽電池パネルを地下資源館屋上に設置した。平成 26 年 3 月には、再生可能エネルギー利用に関心が高まる中、視聴覚教育センターの敷地に、羽ばたき式小型風力発電装置 1 基と垂直軸小型風力発電装置 1 基を設置した。発電した電気は蓄電池に充電し、地下資源館の館内照明に使用している。また、2 基それぞれの発電電力、翼の動きや風速をリアルタイムでモニターに表示するとともに、風力解説ロボットが風力発電について音声で解説している。



【垂直軸小型風力発電装置】



【風力解説ロボットコーナー】

3 わくわく体験活動

学校では体験しにくい学習活動の提供を目的とした「わくわく体験活動」（平成16年度までの名称は「計画学習」）の一翼として、視聴覚教育センター・地下資源館では、実験学習、プラネタリウム学習、展示見学などを行っている。年度により内容や対象学年が変わっているが、対象となる学校のほとんどが、視聴覚教育センター・地下資源館を訪れ、活動の中心となっている。

昭和49年度から平成5年度までは、計画学習の対象は小学6年生と中学2年生であり、実験学習の内容は、細胞を観察する顕微鏡の扱い方の実習（小学6年生対象）と、気象衛星写真の見方と天気図のかき方の実習（中学2年生対象）であった。

平成6年度からは、対象が小学6年生のみとなり、平成10年度からは、実験学習のテーマを微生物とし、ミクロの生物を顕微鏡で観察する実習に変更した。

平成14年度からは、対象が小学4年生に移行した。平成15年度からは、学習内容を拡充して、微生物観察に加え、新たに乾電池作りコースを設けて選択制とした。

平成18年度からは、学習内容を選択制から、再び微生物観察に一本化した。



【実験学習】



【プラネタリウム学習】

4 資源をくらしに生かす創意工夫展

昭和59年度から平成30年度まで、省資源・省エネルギーに対する意識の高揚を図ることを目的に「資源をくらしに生かす創意工夫展」を開催した。身のまわりにある資源（材料）をもう一度見直し、くらしに生かして使う創意と工夫の作品を募集し、地下資源館で展示した。

募集対象は小中学生、グループ、ファミリー、個人（一般）で、応募作品はレリーフ、おもちゃ、リフォーム（再生衣類）、健康器具など幅広いものだった。

令和元年度から、「小学生サイエンスアイデア作品展」にリニューアルした。



【展示の様子】



【表彰式の様子】

5 小柴昌俊博士ノーベル賞神岡鉱山展と小柴記念賞

豊橋市出身の小柴昌俊博士が平成 14 年度にノーベル物理学賞を受賞したことを記念して、平成 15 年 10 月から 11 月（33 日間）に「小柴昌俊博士ノーベル賞神岡鉱山展」を地下資源館 1 階世界の鉱物・鉱石展示室で開催した。地下資源を採掘した神岡鉱山が、新しい研究分野「ニュートリノ天文学」の研究活動の場となったことから、小柴博士の研究内容をやさしく解説するとともに、神岡鉱山と鉱石について地下資源館収蔵資料などで紹介した。開催にあたっては名古屋市科学館の全面的な協力をいただき、8,580 名の観覧者があった。

また、小柴博士のノーベル物理学賞受賞を契機として、理科好きの子どもたちを育て、将来にわたって深く科学を追究する意欲を育てるために設けられた「小柴記念賞」について、視聴覚教育センターで表彰式や入賞作品の展示を行っている。

現在、「小柴記念賞」は東三河地域の小中学校の児童生徒が行った物理化学分野の自由研究作品を対象としている。



【「小柴記念賞」展示の様子】

6 開館記念事業

(1) 地下資源館開館 30 周年記念事業



【記念講演会の様子】

平成 22 年 10 月から 11 月（44 日間）に、地下資源館開館 30 周年記念展「もったいない 地上の地下資源とエネルギー」を地下資源館・視聴覚教育センター展示フロアで開催した。

廃棄される家電製品・自動車など地下資源を利用して作り出されたものをリサイクルできれば、地上に地

下資源を取り出す鉱山を見つけたようなものである。また、地上や海の生物資源・自然エネルギーは、再生可能である。このことから、日本には少ないと思われていた地下資源やエネルギー資源が実は豊富にあることを、立体的なパネルや参加型の実験装置、クイズにより楽しく紹介した。

関連事業として、記念講演会「なくなる地上資源・もったいない地下資源」やワークショップ「リユースで楽しいおもちゃをつくろう」「ソーラーパワーを調べよう」も開催した。

(2) 地下資源館開館 35 周年記念事業

①2014 年ノーベル物理学賞受賞 天野浩先生講演会

平成 28 年 2 月に地下資源館開館 35 周年記念行事として、「世界を照らす LED」をテーマに天野浩先生（名古屋大学教授）の講演会を穂の国とよはし芸術劇場プラット主ホールにて開催した。

事前の募集では定員を超える応募があり、参加者は 770 名であった。天野先生からは、LED 研究を始めたきっかけや学生時代に夢中になったことを通して「勉強とは人の役に立つためにするものである」とのメッセージが送られた。講演の最後には 15 人の小中高校生が壇上に上り、質疑



【天野浩先生講演会】

応答を行った。

②サイエンスイベント「視聴覚教育センターwith すイエんサー」

平成 28 年 3 月に視聴覚教育センターにて、NHK（E テレ）のサイエンス番組「すイエんサー」に登場するすイエんサーガールズを迎えてサイエンスイベントを開催した。

すイエんサーガールズによるライブショーやスゴ技体験「フィギュアスケーターみたいにメツチャ体を柔らかくしたい」「火事場のばか力をいつでも発揮したい」などを行い、中高生をはじめとする、661 名の親子が参加した。



【ライブショーの様子】

（3）視聴覚教育センター開館 40 周年記念事業

平成 26 年度に開館 40 周年記念として、宇宙をテーマに外部講師によるサイエンス講座を 5 回ならびに学芸員による天文教室を開催した。

平成 26 年 7 月、8 月に ICT 講座として、豊橋技術科学大学の大学院生、サイエンス・ボランティアを講師とする「3D プリンターできみのオリジナルキャラを実体化しよう！」「プログラミングの世界をのぞいてみよう」を開催し計 40 名の参加者があった。また、例年より規模を拡充した企画展「実験



【宇宙ペーパークラフト大集合】

ショーパラダイス 2014」「宇宙ペーパークラフト大集合」を開催するとともに、実験ショー・科学工作・星空観望会の回数を増やし、内容を充実して実施した。

<サイエンス講座の内容>

開催日	タイトル	講師	参加者
平成 26 年 8 月 31 日	考古学から宇宙工学まで—ロマンを求める研究の世界—	岸本直子氏 (摂南大学機械工学科准教授)	53 名
平成 26 年 10 月 5 日	宇宙エレベーターの今とこれから	大野修一氏 (宇宙エレベーター協会会長)	62 名
平成 26 年 11 月 24 日	宇宙ペーパークラフトの楽しみ	中川義通氏 (水戸市総合教育研究所移動天文車指導員)	100 名
平成 27 年 1 月 11 日	すばる望遠鏡で探る宇宙のなぞ	岩田生氏 (国立天文台ハワイ観測所准教授)	67 名
平成 27 年 2 月 15 日	電波天文ってなに？動き出したアルマ望遠鏡	中島拓氏 (名古屋大学太陽地球環境研究所助教)	80 名
※平成 26 年 10 月 5 日は、豊橋東高等学校理科部 GLOBE による宇宙エレベーター関係の研究発表実施			
※平成 27 年 2 月 15 日は、「豊川からアルマ望遠鏡へ 宇宙 (そら) へと続く道」(豊川市制作) の特別投映も実施			

7 市制施行 110 周年記念事業

視聴覚教育センターでは、平成 28 年度の市制施行 110 周年を記念して、とよはし星空キャラバン隊「あなたの地域に星空をお届け」を 6 回開催し、1,134 名が参加した。望遠鏡や肉眼による星座の観察と天体の解説をサイエンス・ボランティアの協力により行い、天候の悪い場合にはパソコンで星空投映を行った。さまざまな場所で開催することにより、普段の観察会に参加されていない方に、星空観察を体験してもらい、サイエンス・ボランティア活動も PR した。

また、市民提案イベントのサポート事業として、プラネタリウムドームを会場としたスティールパンコンサート、研修室でのスティールパンラボを各 2 回開催し、322 名が参加した。



【とよはし星空キャラバン隊】



【スティールパンラボの様子】

<とよはし星空キャラバン隊の開催日程>

開催日	参加者	場 所
平成 28 年 5 月 3 日	14 名	豊橋市少年自然の家
平成 28 年 5 月 14 日	280 名	豊橋駅ペDESTリアンデッキ
平成 28 年 6 月 4 日	150 名	賀茂しょうぶ園
平成 28 年 8 月 6 日	600 名	豊橋総合動植物公園
平成 28 年 9 月 9 日	60 名	豊橋市民病院 屋上
平成 28 年 11 月 12 日	30 名	豊橋市野外教育センター

8 大学連携事業

大学との連携事業では、サイエンス講座や企画展示などを通じて、大学の最新科学研究成果を紹介してきた。平成 28 年度からは、あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク事業を活用して名古屋大学の出前授業を開始した。平成 29 年度からは豊橋技術科学大学のサイエンス講演会を開始した。

＜平成 28～30 年度の大学連携事業＞

年 度	大 学	タイトル	講 師
平成 28 年度	名古屋大学	世界的な研究は出会いと偶然から ーナノカーボンの世界ー	大学院理学研究科 篠原久典教授
		医療分野における 3D プリンタ	情報基盤センター 森健策教授
		未知の世界を“みる・つくる”電子ビーム	シンクロtron光研究センター 西谷智博特任講師
平成 29 年度	名古屋大学	尿を使ったがん診断	工学研究科 安井隆雄助教
		重力波でみる宇宙ーブラックホールから宇宙の始まりまでー	理学研究科 黒柳幸子特任助教
		宇宙線で挑むピラミッドの謎	理学研究科 森島邦博特任助教
	豊橋技術科学大学	人間 VS ロボット バドミントン対決 「石炭、石油、電池」に続く第 4 世代ビークル	総合教育院／機械工学系 鈴木新一元教授 未来ビークルリサーチセンター長 大平孝教授
平成 30 年度	名古屋大学	瞬くオーロラと宇宙のさえざり	宇宙地球環境研究所 三好由純教授
		過冷却液体の不思議	理学研究科 川崎猛史助教
		航空機を用いた台風の観測	宇宙地球環境研究所 坪木和久教授
	豊橋技術科学大学	AR (拡張現実感) 技術が導く新しい現実	情報・知能工学系 菅谷保之准教授
		脳波と視線で遊ぼう！	情報・知能工学系 南哲人准教授
		電気のふしぎ べんりとふべん	電気・電子情報工学系 滝川浩史教授



【名古屋大学出前授業】



【豊橋技術科学大学サイエンス講演会】

9 サイエンス・ボランティア

平成 17 年度からサイエンス・ボランティア制度を開始した。視聴覚教育センター・地下資源館において、ボランティア活動の場を提供するとともに、施設

利用者が科学的体験を通して、自然科学に関心をもち、そのおもしろさを体感できるように支援することを目的としている。

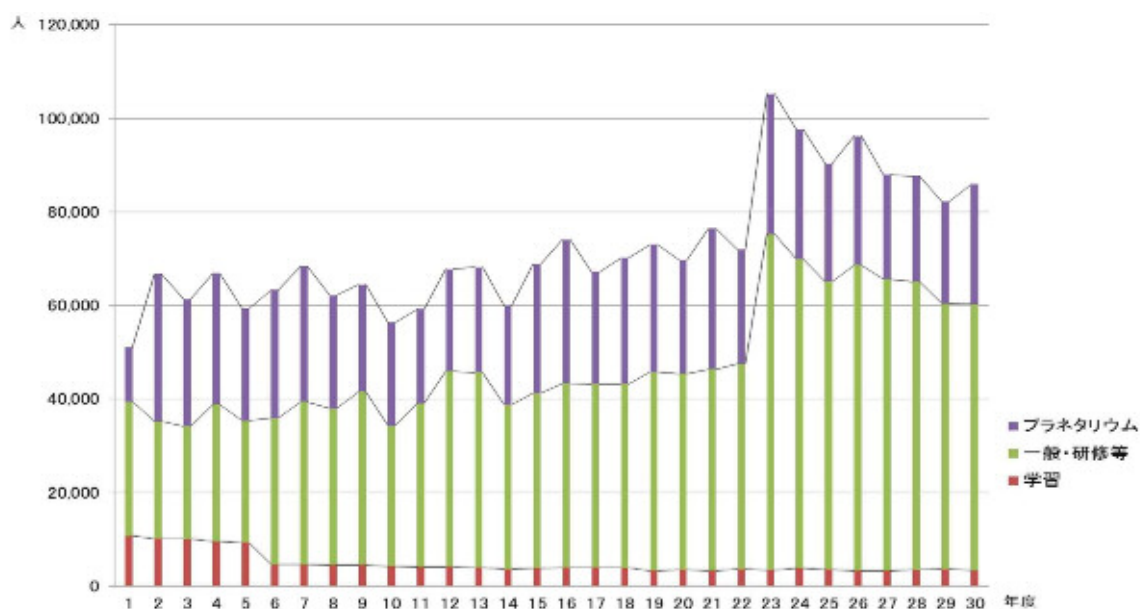
現在、登録者は約 40 名で、おもしろサイエンスの日をはじめ年間 60 回を超える行事がボランティアを中心に開催されている。



【おもしろサイエンスの日】

10 年度別利用状況

平成 22 年度に視聴覚教育センターと地下資源館の所管が統合されたため、平成 23 年度からは、視聴覚教育センターと地下資源館の利用統計を一体的に扱うこととした。学習（わくわく体験活動）では、平成 6 年度に対象が 2 学年から 1 学年に変更されたことによって減少しているが、その後は同程度で推移している。平成 27 年度以降、プラネタリウムは年間約 20,000 人の観覧者があり、施設全体では年間約 85,000 人に利用されている。



【年度別利用状況】

※平成 22 年度までの統計は視聴覚教育センター分として公表してきたもの

第7章 図書館の歩み

1 生活に根づいた市民の図書館

(1) 豊橋市図書館の体制（中央図書館と分館・分室）

豊橋市図書館は、嘉永元年（1848年）に羽田野敬雄が開設した羽田八幡宮文庫を母体に県内初の市立図書館として明治45年（1912年）4月1日に創立、大正2年（1913年）1月15日に開館した。現在では、豊橋市の図書館は中央図書館を中心に、2つの分館、74の分室で構成されており、サービスポイント数



【豊橋市中央図書館】

では、北九州市、広島市に次ぐ全国第3位の規模を誇っている。図書館は、平成25年1月に開館100周年を迎え、配本センターは平成27年4月に名称を向山図書館に改称した。同時に、もう1つの分館である大清水図書館が開館した。また、令和3年度には新たな分館として「まちなか図書館（仮称）」が開館する予定となっている。74の分室の中には、豊橋市内の他の図書館から、図書の予約・取り寄せ・返却などができるネットワーク館が8か所あり、市内全域を網羅したきめ細かな図書館ネットワークにより、さまざまな図書館サービスを展



ネットワーク館：図書館システムが導入されていて図書館全体の図書の予約・取り寄せ・返却等ができる分室
 相互貸借：図書館同士で所蔵している資料をお互いに貸し借りするサービス

[H30.3.31現在]

【図書館ネットワーク】

開している。平成9年度からは、豊橋駅にある情報プラザで図書館の本の返却も可能となった。

開館時間については、それまで午後5時までの開館だったものを、平成3年度から、平日については午後7時までとした。また、平成10年度からは祝日も開館し、さらに平成15年度からは月曜日の祝日も開館することとした。平成23年度からは貸出冊数をそれまでの5冊から10冊に拡大するなど、時代の流れに応じた利便性の向上を図り、生活に根づいた市民の図書館として利用ニーズに応じている。

（2）市民ボランティアの活躍

中央図書館が開館した昭和58年（1983年）8月に、図書館で活動する市民ボランティアを育成するため「ボランティア育成講座」を開催し、翌年11月に講座修了生を中心とする「中央図書館ボランティアの会」が発足した。以降、年度ごとの講座修了生でグループを作り、中央図書館児童室



【ボランティアによる読み聞かせ】

「おはなしのへや」をはじめ、市民館や保育所・幼稚園、小学校などの施設で紙芝居や絵本の読み聞かせなどを行っている。平成15年度には長年の活動実績が認められ、子どもの読書活動優秀実践団体として文部科学大臣表彰を受けた。なお、平成19年度に「ボランティア育成講座」「中央図書館ボランティアの会」は、それぞれ「読み聞かせボランティア育成講座」「中央図書館読み聞かせボランティアの会」に改称している。このほか、平成15年度からは羽田八幡宮文庫などの和装本を調査・整理するための「和装本ボランティア」が発足（平成23年度まで）、平成19年度からは「図書館ボランティアのための基礎講座」を開催し、配架や本の修理をする市民ボランティアも活躍している。また、平成27年度から平成28年度には、拓本整理ボランティアを組織し、豊田珍比古氏が寄贈した戦前の拓本の現地調査及び整理を行い、平成29年3月に「豊橋市図書館所蔵拓本資料集」を刊行した。

（3）市民とともに歩んだ「図書館まつり」

平成9年度から、図書館を利用していない人にも図書館の楽しさを知っても

らおうと「図書館まつり」を始めた。第1回は「キラキラ輝く時が好き 夢がいっぱい 図書館まつり」と題して、「音楽とトーク」「図書館クイズラリー」「おはなしと読み聞かせ」「本のリサイクル」などを行った。翌年の第2回からは「図書館は宝島」をテーマに、「講演会」「ミニコンサート」「読書感想画&読書ゆうびんコンテスト作品展示」「図書館探検隊」など、より多彩なプログラムが加わった。第3回は期間を1週間に拡大し、「おとなのためのおはなし会」「詩とギターのひとつとき（朗読会）」「手作りひろば」「映画会」と、図書館の一大イベントになった。平成12年度からは2日間を恒例とし、図書館を拠点として活動するグループで組織する「図書館まつり実行委員会」を中心に開催したが、平成30年度にその役割を終えた。



【図書館まつりの様子】



【図書館まつり 絵本かるた】

（4）読書をくらしの中に

戦後新たに制定された図書館法のもと、豊橋市でも昭和30年前後から一貫して読書普及活動に重点を置いてきた。当時はまだ、本を読む習慣のない人、読みたくても読む機会に恵まれない人が多くおり、図書館では「読書をくらしの中に」を目標に掲げさまざまなサービスを展開した。

読書会の開催や読書会リーダーの養成など、読書を深める環境づくりを進め、いくつかの読書サークルが生まれると、昭和37年9月、浜松市と読書を通じた交流「豊橋浜松読書サークル交歓会（豊橋浜松読書交歓会）」を開催し、読書サークルの運営状況の発表や、読書活動の推進などの研究討議を行った。昭和44年度からは、課題図書を事前に読み、作品に対する討議や助言者の意見を聞くスタイルに変更し、県境を越えた交歓会は平成18年度まで43回にわたって開

催した。

平成10年度には、豊橋地域の読書サークルのネットワークを整え、地域に根差した幅広い読書活動を行うことを目的に「豊橋読書サークル連絡会」が発足し、8サークルが参加し中央図書館を活動の拠点とした。連絡会では、会報「風」



【飯田・豊橋読書会交流会の様子】

の発行や合同読書会、研修会などを開催し、サークルの枠を超えた交流を深め、市民が読書に親しむ気運を高めた。また、長野県飯田市にて読書会活動を推進している「飯伊婦人文庫」と「飯田・豊橋読書会交流会」を開くなどして、令和元年度まで充実した活動を続けた。

2 教育の場としての図書館

(1) 豊橋版ブックスタート

「ブックスタート」運動は、「赤ちゃん絵本を介して楽しいひとときをわかちあおう」のキャッチフレーズとともにイギリスで始まり、日本では「子ども読書年」である平成12年度に紹介され、翌年4月に全国12市町村で本格的に



【ブックスタートの様子】

始まった。豊橋市では、平成13年度に母子保健センター（現：保健所・保健センター）とボランティアが連携して豊橋独自の事業を試行的に実施した。平成14年度から、図書館が「赤ちゃん絵本講座」を開催、受講生が中心となり「赤ちゃん絵本ボランティアの会」が発足した。

平成15年度から、4か月児健康診査会場で「初めての絵本との出会い事業（豊橋版ブックスタート）」を開始した。赤ちゃんのための絵本紹介（ブックトーク）や「はじめての絵本リスト」を配布している。さらに、平成17年4月からは、絵本と障害福祉サービス事業所で作製した絵本袋の配布も開始した。また、それらの活動を支え続けている「赤ちゃん絵本ボランティアの会」は平成22年度に子どもの読書活動優秀実践団体として文部科学大臣表彰を受けた。

そのほか、中央図書館では1歳半ぐらいまでの乳幼児を対象とした「赤ちゃん広場」の開催や、平成31年3月からは赤ちゃんの泣き声などについて他の来館者に理解を求める「赤ちゃんタイム」の実施など、幼いころから本と親しめる環境がつくられるよう、積極的に支援している。



【赤ちゃん広場の様子】

（2）学校図書館との連携

司書資格をもつ「学校図書館司書」が、平成15年度から小中学校に配置された。こうした中、豊橋市は平成18年度に「文部科学省学校図書館支援センター調査研究会議」の委嘱を受け、学校図書館支援スタッフを中央図書館に配置した。それに伴い、豊橋市図書館では平成19年度から「学校貸出」を制度化し、各校300冊1か月間の貸出が可能となった。

平成21年度には「授業・学習支援センター」ができ、選書スタッフが中央図書館に配置された。学校からの依頼を受け、選書スタッフによる授業内容に即した選書と貸出、各校への図書の発送を行っている。



【「図書館へ行こう!」の様子】

平成25年度からは、学校図書館連携事業「図書館へ行こう!」を開催し、図書館職員が小学校へ出向き、図書館の仕事や利用の仕方を伝える出前講座を開催している。

（3）児童、青少年への読書支援

子どもの読書習慣が低下する中、平成13年12月に国は「こどもの読書活動の推進に関する法律」を制定した。豊橋市では平成17年3月に「豊橋市子ども読書活動推進計画」を策定した。これは、家庭・地域・学校などが連携して社会全体で子どもの読書活動推進に取り組むことを定めたもので、第一次計画は子どもの読書活動の意義や重要性の周知、読書環境の整備に重点を置き、平成23年3月改定の第二次計画では関連する団体（学校、保育所・幼稚園など）との連携・協力を深め、子どもの自主的な読書活動の推進や図書資料の利用増加につながる取り組みの実践及び内容の充実に重点を置いた。そして平成28年3月に改定した第三次計画では「読書が好き!と言える子どもの育成」を理念

に掲げ、読書習慣の定着を目ざし、より多くの子どもが本に親しみ、読書が好きになれるような取り組みを一層充実させていくこととした。

平成 26 年度には、小学 4 年生から中学 3 年生を対象に「郷土を探る！豊橋っ子調べ学習コンクール」を開始した。これは、図書を 1 冊以上利用して豊橋の文化や歴史などについて調べて作品にまとめるコンクールで、図書館司書や美術博物館学芸員に直接質問できる相談会も開いている。また優秀な作品は全国コンクール（図書館を使った調べる学習コンクール）に推薦され、郷土学習に特化したコンクールとして注目をあびた。夏休みの宿題では、理科の自由研究は複数あるが、社会科学に特化したものは豊橋市では初めてであった。



【調べ学習コンクール表彰式】

外国人児童向けには、平成 30 年度から、絵本作りワークショップを開始した。外国人が多く住んでいる岩田住宅や西部住宅の集会所へ、図書館員が絵本を持って出向くことで、普段なかなか図書館まで行けない子どもたちにも読書の機会を提供している。また、ICT を利用して簡単に自分の考えたストーリーを絵本にできることから、普段読書に親しみのない子どもたちでも、楽しく、積極的に絵本に関わることができ、さらに作った絵本を印刷して持ち帰ることで、家でも読書に親しむきっかけとなっている。現在、図書館では外国語の本の充実も図っており、今後外国人の子どもたちが図書館を多く利用できるよう努めていく予定である。



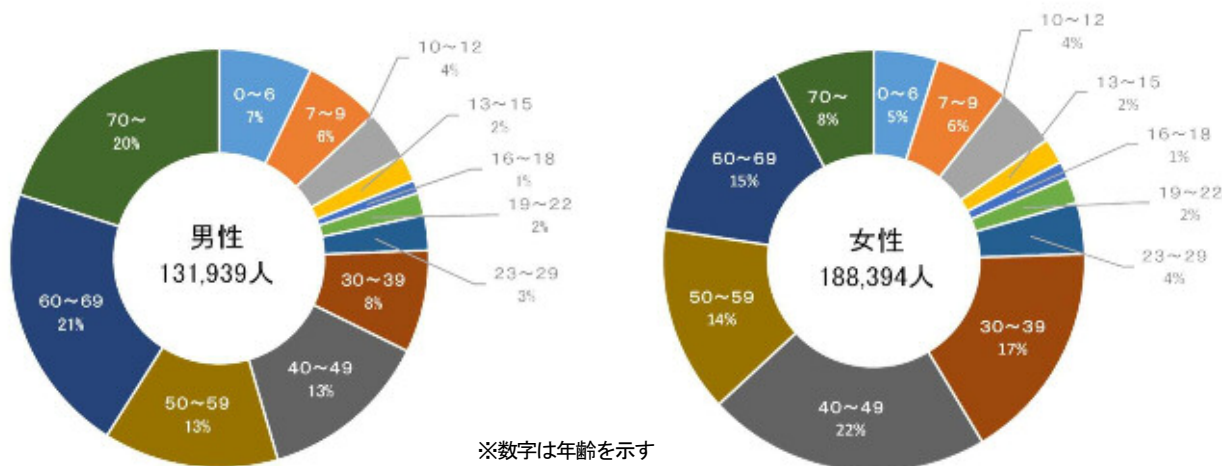
【絵本であそぼうの様子】

（４）生涯学習の拠点として

毎年行っている利用者アンケートの結果を見ると、男性では学生と同じくらい 30 代の利用者もおり、次いで、40 代、50 代と年齢が上がるにつれ利用が増えている。女性は 40 代の利用者が一番多く、次いで 30 代、50 代と幅広い世代

で利用されており、大人になってからも読書や調べものに図書館が利用されていることがわかる。

また、古文書を学ぶグループなど、自主グループの定期的な学習会場として会議室などが利用されており、日々の生活の一部として、教養を高める場として、図書館は市民の生涯学習の拠点施設となっている。



【年齢区分別利用状況・男性（平成 29 年度）】

【年齢区分別利用状況・女性（平成 29 年度）】

3 特徴ある個人文庫

（1）羽田八幡宮文庫、司文庫、橋良文庫

中央図書館には嘉永元年（1848年）に羽田野敬雄らが開設した羽田八幡宮文庫の旧蔵書を集めた「羽田八幡宮文庫」、昭和49年11月に司忠氏の寄附により開設した「司文庫」、昭和58年2月に郷土史家の近藤恒次氏の蔵書をもとにした「橋良文庫」があり、平成時代には更に以下の文庫を開設した。

（2）瓦北文庫

郷土史研究の先駆的存在であった豊田珍比古氏が日本史や郷土史の研究のため収集した資料や図書を、没後遺族から寄贈をうけて平成3年6月に瓦北文庫を開設した。「大日本地誌大系」をはじめとする一般書や和装本など貴重な図書資料約980冊を所蔵している。

（3）安井文庫

幡豆郡吉良町（現：西尾市）出身の医師安井廣氏が地域医療に従事するかたわら収集した図書資料約4,700冊を、没後に豊橋市在住の遺族から寄贈され、

平成 10 年 1 月に安井文庫を開設した。医史学関係図書を中心に、洋学など、現在では入手困難な資料を多数所蔵している。

(4) 岩瀬正雄現代詩文庫

豊橋市在住の詩人岩瀬正雄氏が収集・所蔵した図書の寄贈を受け、平成 12 年 7 月に岩瀬正雄現代詩文庫を開設した。中部地方を中心とした全国の詩人の自費出版詩集や郷土ゆかりの作家の著書、全国の詩誌、同人誌、郷土文芸誌のほか、書簡など日本現代詩の歴史を実証する貴重な資料約 4,500 冊からなる。

(5) 良寛文庫

学校法人誠心学園（浜松市）で教鞭を執っていた白井保氏が収集していた良寛に関する専門資料や拓本類など約 370 点を遺族から寄贈を受け、平成 15 年 4 月に良寛文庫を開設した。主なものに「良寛の書」全 5 巻や「墨美」30 冊、「良寛をうたう赤彦歌碑拓本」などがある。

(6) 丸山薫文庫

大分市に生まれ、12 歳で豊橋市に移住した詩人丸山薫が所蔵していた図書類を遺族から寄贈されたことを受けて、平成 15 年 4 月に丸山薫文庫を開設した。



【丸山薫展示コーナー】

処女詩集「帆・ランプ・鴉」をはじめとする自作詩集ほか、近現代詩集などの図書約 300 冊からなる。

また豊橋市は、平成 6 年度から丸山薫氏の業績を永く顕彰するため、優れた現代詩集を広く全国から公募して表彰する「丸山薫賞」を制定しており、その受賞作品は毎年文庫に追加されている。

平成 11 年度には丸山薫生誕百年記念展が開催され、丸山薫の単行本や愛用品などを展示した。その一部は現在も中央図書館 2 階丸山薫展示コーナーで見ることができる。

(7) 横田文庫

郷土史研究家の横田正吾氏が収集した図書約 1,200 冊が没後遺族から寄贈され、平成 22 年 4 月に横田文庫として開設した。菅江真澄研究のため網羅的に収

集した真澄の著作をはじめ、真澄や民俗学に関する図書、三河及び真澄が過ごした東北の地方史誌を中心にしている。

(8) 田崎文庫

平成 29 年 6 月、愛知大学名誉教授の田崎哲郎氏から図書約 4,500 冊の寄贈を受け田崎文庫を開設した。田崎氏が研究のために集めた江戸時代から昭和にかけての歴史書などを中心に所蔵している。

(9) 神野太郎コレクション

中部瓦斯（現サーラエナジー）株式会社社長の神野太郎氏は、豊橋商工会議所会頭や東三河産業開発連合会会長として豊橋経済界を中心に地域の産業発展に貢献した人物である。神野氏はまた、豊橋文化協会設立に携わるなど、地方文化の振興にも大きく寄与し、昭和 21 年 2 月、図書館にて豊橋文化協会発会式とレコード鑑賞会が開催された。

神野太郎コレクションは、神野氏が太平洋戦争以前から趣味として収集していた SP レコード約 4,000 枚のうち、疎開先で戦火を免れた 1,070 枚を昭和 38 年度に図書館に寄贈したもので、その内容はベートーベン、モーツァルト、バッハ、ハイドン、チャイコフスキーをはじめとしたクラシックである。



【SP レコードコンサートの様子】

図書館ではこの寄贈を受け、レコードライブラリーを設置し、レコードの収集とレコード鑑賞会を開催してきた。さらに平成 3 年度から平成 26 年度までは毎年秋に集会室にて「SP レコードコンサート」を開催し、多くの市民から好評を博したが、関係者の高齢化などにより惜しまれつつその幕を閉じた。

図書館ではこの寄贈を受け、レコードライブラリーを設置し、レコードの収集とレコード鑑賞会を開催してきた。さらに平成 3 年度から平成 26 年度までは毎年秋に集会室にて「SP レコードコンサート」を開催し、多くの市民から好評を博したが、関係者の高齢化などにより惜しまれつつその幕を閉じた。

(10) 個人文庫の保存や移管

個人文庫は、通常の図書館蔵書とは異なった個性をもつものが多く、また、現在では入手困難な貴重な資料も多く含まれる。

なお、羽田八幡宮文庫については、その歴史的貴重性を重視し、平成 10 年 9 月には羽田八幡宮文庫開設 150 周年記念資料展を開催するとともに、「羽田八幡宮文庫史」を刊行した。平成 21 年度には「豊橋市中央図書館所蔵羽田八幡宮文庫旧蔵本目録」を作成した。平成 22 年度には蔵書をデジタル化し、特に重要

かつ貴重な資料のうち 200 冊を選んで平成 23 年度からホームページ上で公開した。平成 24 年度には羽田八幡宮文庫フォーラムを開催している。

さらに平成 31 年 3 月には「羽田八幡宮文庫保存管理計画」を策定した。市文化財への指定に向けて調査を進めていた令和元年 8 月には、織田信長などの書翰 5 点と後奈良天皇などの宸翰 3 点が文庫旧蔵資料のなかにあることを確認し、名品を所蔵していた羽田八幡宮文庫の価値の高さについて、全国の新聞を賑わせた。そして、令和 2 年 7 月に豊橋市有形文化財に指定された。



【羽田八幡宮文庫フォーラムの様子】

また、現在までに他施設へ移管などしたものに「山福文庫」と「テクネ文庫」がある。山福文庫は理科の調べ学習、恐竜に関する図書が多かったことから、自然史博物館に移管され、平成 10 年度には豊橋市教育会館内に山福文庫の分館が設置された。テクネ文庫は科学や工学など約 2,000 冊の文庫であったが、平成 11 年度から随時一般図書へ切り替えた。

このほか、豊橋市図書館では開館以来、さまざまな会社・団体・個人から多額の寄付金、蔵書の寄贈をいただいている。国際ソロプチミスト豊橋からは昭和 60 年度以降毎年、主として小中学生向け学習用図書の寄贈を受け、その数は現在までに 3,000 冊を超えている。



【寄贈図書贈呈式 平成 27 年度】

4 図書館資料を活かした展示

(1) 司文庫展

司文庫は、洋書を中心とした珍しいコレクションであり、壮麗な美術書や外国の絵本を多く所蔵している。こうした特色を生かし、文庫を開設した昭和 49 年度以降、たびたび司文庫展として珍しい資料を一般公開してきた。展示は極めて好評で、平成 9 年度以降は毎年開催することとなり、コールデコット賞など世界の絵本賞を受賞した図書を集めた「名作絵本展」や、アメリカの画家・博物学者のジョン・ジェームズ・オーデュボンが書いた大判博物画の図鑑を紹

介する「オーデュボン・アメリカの鳥」など、普段は見る機会のない資料を展示という形で紹介することで、市民の興味を引きつけてきた。



【司文庫展】

世界の名画に関する展示も好評で、平成3年度の「ダヴィンチ素描」や平成22年度の「洋書で見る世界の名画 西洋美術史の巨匠たち」、平成30年度の「アール・ヌーヴォーとアール・デコの世界」など、世界中の美術館を回らなければ見ることのできない名画を、図書館の中で、テーマごとに分かりやすく美術書で紹介してきた。また、

美術博物館の企画展と連携展示を行うことで、市民は本物の作品を美術博物館で鑑賞するとともに、図書館にある美術書で関連情報も知ることができ、芸術への理解を一層深める手助けも行っている。

（2）「平和を求めて」図書館資料展

司文庫展のほかにも、図書館では個性豊かな展示をたびたび開催してきた。平成4年度には、豊橋の戦争体験資料を展示した「平和を求めて」図書館資料展を初めて開催し、以降戦争と平和をテーマに毎年開催されることとなった。展示には図書館所蔵資料のほか実物の戦争資料も公開し、また戦争体験者へのインタビューをもとに作成した説明パネルなども交え、戦争があった当時の様子をより精密に伝えることで、市民の戦争・平和に対する意識や関心を高めてきた。

平成12年度には展示の記念イベントとして「語りつぐ会」を開催し、戦争体



【「平和を求めて」図書館資料展】

験者の体験談を本人から直接聞くことが出来る貴重な機会を設けた。戦争体験者による座談会は、その後も展示の記念イベントとして毎年取り入れている。

平成27年度は戦後70年にあたり、田原市博物館、豊川市桜ヶ丘ミュージアム、蒲郡市博物館と連携し、夏休み中に開催の戦

争関連展示会を巡るスタンプラリーを開催し、多くの人の参加があった。さらに平成30年度からは、教育委員会の所管委員会である平和教育研究委員会と連携・協働を強めた事業として、名称を「平和を求めて とよはし」展と改め、「子どものための平和展」も「子どものための平和の集い」と改称した。平和に対する意識の向上を図るイベントとして、今後も毎年開催していく予定である。



【子どものための平和の集い】

（3）三遠南信地域資料展

平成9年度には、愛知県東三河地域、静岡県西遠州地域、そして長野県南信州地域の歴史・文化をテーマにした「三遠南信地域資料展」を初めて開催し、展示を通して地域間の理解・交流の促進を図った。第1回は民俗芸能を題材として取り上げ、以降、工芸品、民話、祭り、文学、食文化、河川、街道、鉄道、ご当地キャラクターなど、毎年幅広い分野において三遠南信地域を掘り下げ、市民から好評を得てきた。

平成14年度からは、展示の記念イベントとして展示テーマに関連のある講師を招き、講演会を開催することとなった。過去には、講師による講話のほかにも、民話の読み聞かせや、小



【三遠南信地域資料展 記念行事】

中学生の発表、ご当地キャラクターショーなど、さまざまなイベントを取り入れた回もあった。展示と連携した講演会の開催によって、テーマについてより深く学びたいという市民の期待に応えてきた。

平成29年度からは、名称を「図書館資料展 ふるさと探訪」に変更し、内容も三遠南信地域に限らず、展示テーマによって地域の範囲を広げ、あるいは限定することで、より市民の興味を引く展示とした。平成29年度と平成30年度は2回連続で東海地方の城をテーマとした展示を行い、城



【ふるさと探訪】

好きの市民の注目を集め、大盛況を博した。展示目録や城のパンフレットを無料配布し、こちらも増刷を行うほど大好評だった。今後も、市内または周辺地域の歴史・文化に目を向け、新しい学びと発見を楽しむことができる展示を行っていきたい。

（４）郷土資料を活かした展示

郷土豊橋に関する資料を収集・保存することは、豊橋市の公共図書館としての使命であるが、収集した資料やその情報を市民へ還元するべく、郷土資料を活かした展示を随時開催してきた。

豊橋地方の文人を取り上げた「郷土近代文人展」は昭和 58 年度から平成 3 年度まで続き、市民に豊橋地方の近代文学を紹介した。平成 5 年度には図書館、美術博物館、二川宿本陣資料館 3 館の共同企画展として、江戸時代から明治時代初期にかけて刊行された古地図を展示した。平成 10 年度には「チンチン電車の通る街・豊橋展」と題し、豊橋の市内電車の歴史を振り返りながら街並みや市民生活の移り変わりをたどるなど、豊橋の地理・歴史・文化について広く取り扱ってきた。また、平成 8 年度に小栗風葉没後 70 年に合わせ「小栗風葉と加藤竹寿展」を開催し、平成 10 年度には「生と死の不屈の詩人・岩瀬正雄展」と本人による講演会も開催し、令和元年度には明治時代に活躍した豊橋ゆかりの人物を紹介する「明治 150 年 豊橋の近代を築いた者たち」を開催するなど、郷土の偉人も積極的に取り上げた。

平成 25 年度には、豊橋空襲で焼失した戦前の街を写真で紹介する「失われた街・豊橋」を開催し、当時を懐かしむ多くの高齢者の来場があった。平成 26 年度は戦災復興の「よみがえる街・豊橋」を開催し、平成 27 年度は高度経済成長期の「はばたく街・豊橋」を開催し、記念行事として写真を使った回想法講座も実施した。

時には、図書館所蔵物以外に、豊橋市内在住のコレクターに協力を依頼し、人気漫



【失われた街・豊橋】



【昭和・平成のおもちゃ展】

画家手塚治虫氏のデビュー期から晩年までの作品群を系統的に展示した「手塚治虫マンガ世界展」(平成3年度)や、南山大学や北名古屋市歴史民俗資料館から資料を借用し、昔の懐かしいおもちゃを展示した「昭和・平成のおもちゃ展」(平成27年度)なども開催し、好評を得た。

(5) 評判を呼んだ展示

前述したように、数々の展示を開催してきたが、平成26年度に開催した「生誕150年記念村井弦斎展」はさまざまな取り組みを行い、話題となった。まず、期間中に弦斎著の「食道楽」レシピから「ジンジャービスケット」などの料理の実演・試食を豊橋市図書館の歴史の中で初めて開催した。秋には豊橋調理製菓専門学校と連携して「食道楽」再現料理の数々を会場の専門学校レストランで市民へ提供した。また博物館明治村と連携し、明治村での豊橋市民の入場料割引や秋のイベントでの弦斎展示、さらには豊橋市図書館一座として出張して重要文化財の旧三重県庁舎「彩の間」での「食道楽」調理実演を行った。

翌年には「村井弦斎と食道楽展」を開催し、ギャラリートークやクイズラリーを実施している。また、カフェカーとコラボして「弦斎&Cafe」を開催し、



【博物館明治村での「食道楽」再現料理実演】



【中央図書館入口での試食会】



【大混雑の陸王豊橋ロケ風景写真展】

来館者対象のジンジャービスケットの試食会を開催し、多くの方に試食してもらった。

また、平成29年度の「陸王豊橋ロケ風景写真展・ガチ☆マンガ100」では、豊橋ロケを行ったテレビドラマ「陸王」のロケ風

景写真や小道具を展示し、また、人気マンガの投票を行うイベントを同時開催することで、ドラマファンやマンガファンをはじめ、普段図書館を利用しない層に対し、広く来館を促すことができた。平成 30 年 1 月 27 日には、1 日の展示来場者数が 1,426 人となり、図書館で開催した展示会の 1 日あたりの入場者数として過去最高を記録した。また、全期間を通して 10,953 人が入場したが、これも展示会の入場者数として過去最高の人数であった。

なお、同時開催した「ガチ☆マンガ」は平成 28 年度から始めた田原市図書館との連携事業の 1 つである。最初の豊橋市・田原市図書館連携パネル展「魅力対決！豊橋 vs 田原」は両市の魅力を人気投票で競うイベントで、両市の図書館で開催した。今後も両市で連携して、この地方の図書館事業を推進していく予定である。



【田原市図書館への出張対決】



【匠の技 ファインモールドの模型展】

また、平成 31 年度に開催した「匠の技 ファインモールドの模型展」も好評であった。ファインモールドは豊橋市のプラモデルメーカーであり、実物を細部まで精密に再現した精巧さが評価され、「とよはしの匠」「愛知ブランド企業」に認定されている。本展示では、パネルによる説明の他、プラモデルの実物を数多く展示

し、多くの来場者に地元豊橋の優良企業と卓越した技術を紹介することができた。

今後も、収集した図書館資料などを積極的に活用し、豊橋の魅力を伝えられる企画展示を続けていく予定である。

5 過去を知り、時代の流れを取り込む図書館

(1) 開館 100 周年を迎えた図書館

豊橋市図書館は、開館から 108 年を迎え、市内でも最も古い公共施設といえる。平成 24 年度には、100 周年を記念して開館 100 周年記念行事を開催している。内容は、資料展、講座、イベント、公募などである。また、図書館専用のキャラクター（キャプテンブック）を制作し、行事などに活用している。



【キャプテンブック】

数多くのイベントで特筆すべきは、図書館の将来を考えることを目的として、12 月に市民参加型の「市民フォーラム」を開催したことである。作家の桐島洋子氏の記念講演終了後、オープニングとしてスクリーンに映し出した「図書館 100 年の歩み」を尺八の演奏を聴きながら鑑賞した。その後コーディネーターを核として討論会「よりよい“みんなの図書館”をめざして」を開催した。



【市民フォーラム討論会】

パネリストは書店代表者、利用者、ボランティア、学生、図書館長の 5 名で、アドバイザーとして桐島氏を迎えて討論を行った。パネリストからは、図書館の将来像や望むこととして「居心地のいい図書館であってほしい」「電子情報化の対応とそれに親しめない人たちのサービス」などのご意見をいただいた。

(2) IC タグの導入とインターネットの活用

中央図書館は昭和 58 年 2 月の開館時からコンピュータシステムを導入し、貸出・返却・予約・検索などのカウンター業務や図書目録の作成、図書管理業務などに活用していたが、さらに平成 3 年度には利用者端末をカラー化し、タッチパネルで検索や新着資料の確認ができるようになった。平成 11 年度にはホームページを開設し、24 時間いつでも図書館の情報を見ることができるようになり、大きく利便性が向上した。

その後も随時、コンピュータシステムを更新し、平成 20 年度にはインターネットからの予約サービスを開始し、ホームページや利用者端末から予約が可能となった。また、ネットワーク館での予約資料の受け取りが可能になり、図書館から離れた地域の市民にとっても、格段に利用がしやすくなった。さら



【電子情報コーナー】

に平成 23 年度にはこれまで来館しなければできなかった貸出の延長手続きがホームページ上でできるようになるなど、インターネットを活用した利便性の向上が進められている。

なお、施設の面でも、平成 17 年度に中央図書館 1 階の喫茶コーナーを改修して「電子情報コーナー」を開設し、利用者がインターネットを館内閲覧できるようになったほか、平成 25 年度からは中央図書館内に Wi-Fi 通信網を配備し、Web 利用において利便性の向上を図った。

また、中央図書館 2 階にデータベースコーナーを設け、「判例体系」や「中日新聞記事検索サービス」など調査研究に役立つインターネットサービスを閲覧・複写できるようになった。

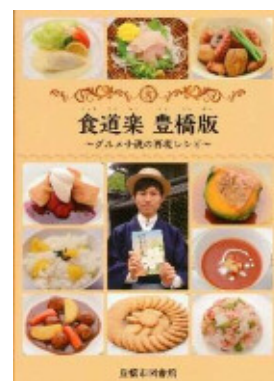


【データベースコーナー】

（3）地域資料の収集・公開とデジタル化

平成 25 年度に、電子データ化された明治時代の新聞など、過去の豊橋がわかる資料を中央図書館 2 階のデータベースコーナーで閲覧・複写ができるようになった。

図書館では、新聞をはじめ積極的に収集してきた地域資料を展示などで公開しているほか、書籍にまとめるなどし、多くの市民に郷土豊橋の良さを伝えてきた。特に平成 28 年 1 月に刊行した「食道楽 豊橋版」は、豊橋出身の村井弦斎によるグルメ小説「食道楽」をもとにしたレシピ集で、身近なテーマから明治期の豊橋を知ることのできる内容に



【食道楽 豊橋版】

なっており市民から好評を得た。

また、ボランティアがまとめた「豊橋市図書館所蔵拓本資料集」は、調査研究資料として価値がある。そのほか平成 28 年 7 月、豊橋の民話を語りつぐ会が発行して絶版となっていた「片身のスズキ 豊橋の民話」を図書館が再版している。

令和元年度には豊橋市図書館などが所蔵する郷土資料をデジタル化して「とよはしアーカイブ」としてインターネットでの公開を始めた。ただ公開するだけでなく、一部の資料は原本画像と翻刻文画像の重ね合わせや、原本地図と現在地図（グーグルマップ）との重ね合わせができるなど、見やすく、わかりやすい内容となっており、学生の研究にも活用されている。なお、このアーカイブは、今後も充実・発展させていく予定である。



【とよはしアーカイブ】

（４）分館と新しい図書館

現在、豊橋市図書館の分館には、向山図書館と大清水図書館の 2 館がある。向山図書館は、図書館としての役割の他、市内全域にある市民館の図書室充実を図る役割ももつ。地区市民館図書室は、その居住地域の市民にとって身近な存在であり、図書館まで足を運ぶことができない子どもやお年寄りなど多くの市民が利用している。向山図書館では、この地区市民館図書室の定期的な図書の入れ替えや、予約された図書の配送などを行っており、市内全域の読書需要に応えている。



【向山図書館】

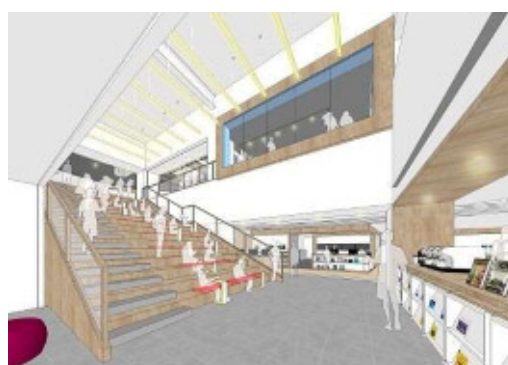
大清水図書館は、平成 27 年 4 月に開館した新しい図書館である。地区市民館との複合施設であり、施設名を豊橋市大清水まなび交流館（ミナクル）という。複合施設である利点を生かし、地区市民館で開催している各種行事と連携した図書の提供を行うなど、時代の流れにあった多様なサービスを展開している。

これら分館と、そして地区市民館や校区市民館などの分室は、市民が歩いて暮らせる範囲で本にふれあえる「地域の貸出拠点」としての役割を担い、豊橋市図書館が所蔵する100万冊あまりの豊富な蔵書や貴重な資料を届けている。



【大清水図書館】

グローバル化や技術革新が進む世の中で、現代の図書館は図書の収集・提供を図る役割に加え、図書と人、知識と人、情報と人、人と人などを結びつけるまちづくりの創造拠点として、地域に溶け込み、持続可能なまちづくりや地域の活性化に貢献することが求められている。



【まちなか図書館（仮称）内部イメージ】

こうしたことから、豊橋市図書館は平成31年3月に「豊橋市図書館基本構想」を策定し、「未来をはぐくむ知と交流の創造拠点の実現」を基本理念として定めた。今後中央図書館は、基幹図書館として、また歴史的図書資料を備えた図書館として、あらゆる知的要求に応えることができるよう「知の拠点」としての役割を担っていく。



【まちなか図書館（仮称）が入る再開発ビルイメージ】

また、令和3年度に開館を予定している「まちなか図書館（仮称）」は、図書だけでなく新たな情報や人との出会いの場を融合した「交流・創造拠点」としての役割を担う計画が進んでいる。

これからも図書館では、市民がいつでも、どこでも充実した図書館サービスを楽しめるようサービスの充実を図り、「みんなの図書館」として親しまれるよう進化を目ざしていく。

第8章 「スポーツのまち」づくり課の歩み

1 平成の市民スポーツの歩み

平成5年度にサッカーがプロ化されJリーグが開幕した。新しいプロスポーツの誕生は、社会現象ともいえるブームを起こした。Jリーグの成功に続く形で、多くの種目で選手のプロ化が進み、平成の約30年間でスポーツを取り巻く環境は大きく変わってきた。

豊橋市においても、平成28年度にプロバスケットボールリーグとして開幕したB.LEAGUEに所属する三遠ネオフェニックスが、総合体育館をホームアリーナとしたことで年間約30試合のホームゲームが開催されるようになり、ハイレベルなスポーツを身近に観ることができるようになった。



【総合体育館での三遠ネオフェニックスの試合】

また、平成12年9月に開催されたシドニーオリンピックの女子マラソンで金メダルに輝いた高橋尚子選手のように、女性スポーツ選手の活躍が多く見られるようにもなった。

その他にも、高齢化の進展により健康への関心が高まるのに併せてスポーツに対する関心が高まり、スポーツ人口も拡大してきた。

2 市民スポーツの拠点である総合体育館完成

昭和36年6月に豊橋公園内に建設された体育館は、県下有数の規模と設備を備えた体育館であり、市民のスポーツ活動だけでなく音楽会などにも盛んに利用され、多目的な施設として親しまれてきた。

しかし、施設の老朽化が進んだことにより、昭和62年度から新たな体育館の

整備を現在の総合スポーツ公園内に開始し、2か年の工事期間を経て平成元年4月に総合体育館が完成した。総合体育館は、鉄骨・鉄筋コンクリート造、2階建一部3階建て、建物延床面積約12,000㎡の規模の施設となった。同年5月2日に開館式を行い、開館記念行事として日ソ対抗バレーボール大会などが開催された。



【総合体育館】



【日ソ対抗バレーボール大会】

3 市民の身近なスポーツ施設である地区体育館

地区体育館は、市民が気軽にスポーツを楽しむための施設として、バレーボール、バスケットボール、卓球などの屋内競技を中心に年間延べ38万人余りの方々に利用されている。また、総合型地域スポーツクラブの事務局や指定避難所としても利用されている。

昭和49年5月に前田南地区体育館が開館してから、これまで市内に10か所整備しており、平成に入ってから、下五井地区体育館（平成元年4月）、浜道地区体育館（平成2年4月）、二川地区体育館（平成3年4月）、石巻地区体育館（平成4年4月）、大清水地区体育館（平成6年5月）の5館が開館している。

<地区体育館の開館状況>

施設名	開館年月日	延床面積	平成30年度 利用者数	備考
前田南地区体育館	昭和49年5月1日	1,224.00㎡	42,337人	指定避難所
新栄地区体育館	昭和50年5月8日	1,116.50㎡	30,617人	KOZOTTE利用
牛川地区体育館	昭和57年4月18日	1,313.86㎡	35,894人	RYOZ利用
草間地区体育館	昭和59年4月15日	1,301.88㎡	40,814人	FINS利用 南陽地区市民館隣接
飯村地区体育館	昭和60年4月7日	1,350.03㎡	37,636人	

下五井地区体育館	平成元年4月16日	1,441.50 m ²	37,764人	
浜道地区体育館	平成2年4月7日	1,413.07 m ²	39,600人	本郷地区市民館併設 指定避難所
二川地区体育館	平成3年4月29日	1,443.86 m ²	35,592人	二川中学校隣接
石巻地区体育館	平成4年4月19日	1,444.81 m ²	33,224人	SKITS利用
大清水地区体育館	平成6年5月17日	1,537.03 m ²	50,745人	
合 計		13,586.54 m ²	384,223人	



【下五井地区体育館】



【浜道地区体育館】



【二川地区体育館】



【石巻地区体育館】



【大清水地区体育館】

4 屋内プール・アイスアリーナ「アクアリーナ豊橋」の完成

「アクアリーナ豊橋」は、冬季にはスケート場、夏季は50mプールとなる複合施設で、平成18年5月に総合スポーツ公園内に開設した施設である。

鉄筋一部鉄骨2階建て、延床面積約12,000 m²で、1階部分に水深を自由に変えられる可動床式の50m・10コースのプールと25mプール、トレーニングルーム、2階部分に約2,000人収容の観客席を設けている。

施設の愛称は、公募の結果「アクア（水）」と「アリーナ（競技場）」を合わせた「アクアリーナ豊橋」と決まった。建設工事は平成15年8月に着工し、平

成 17 年 12 月に完成している。

平成 18 年 10 月には市制施行 100 周年記念事業の一環として「プリンスアイスワールド 2006」が開催され、トリノ冬季オリンピックで金メダルに輝いた荒川静香選手らが華麗な氷上の舞を披露した。また、平成 23 年 5 月には「東日本大震災 愛知フィギュアスケートチャリティー演技会」が開催され、豊橋市出身の鈴木明子選手をはじめ、浅田真央選手、羽生結弦選手などのトップ選手が参加した。翌年の平成 24 年 1 月 28 日から 2 月 1 日までは、第 67 回国民体育大会冬季大会「ゆめリンク愛知国体」のアイスホッケー競技会（少年男子）が開催され、全国から集まった選手が技を競い交流を深めた。



【アクアリーナ豊橋】



【冬のスケートの様子】

5 次世代の選手を育成する陸上競技場の完成

陸上競技場は、戦後復興期の昭和 24 年度に豊橋公園内に整備され、多くの市民に親しまれ現在まで利用されている。

この陸上競技場からは、日本記録保持者やオリンピック出場者などの多くのトップアスリートが誕生してきた。

昭和 35 年度に整備したメインスタンドなどの老朽化が進んだことから、その建て替えとともに、次世代のトップアスリートを育成する機能を新



【陸上競技場】

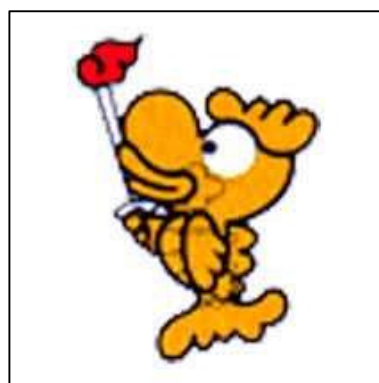
たに付加した施設として生まれ変わるため、平成 28 年度に大規模な改修工事に着手し、平成 30 年 3 月に完成した。

完成した陸上競技場は、メインスタンド下のコンディショニングルーム内に選手の心肺能力を向上させるための低酸素室や、認知動作型トレーニングマシンを設置した。また、外周にはクロスカントリーコースを整備し、選手の脚への負担を軽減しながら練習ができる環境を整えた。

6 「わかしゃち国体」の開催

国民体育大会は、戦後の混乱期である昭和 21 年度に第 1 回大会が開催され、毎年、各都道府県のもち回りで開催されている。男女総合優勝である「天皇杯」と女子総合優勝である「皇后杯」を獲得するための熱戦が、都道府県対抗方式で繰り広げられている。

愛知県では、昭和 25 年度に第 5 回大会が開催され、平成 6 年度には愛知県で 2 回目の第 49 回大会が、愛称を「わかしゃち国体」として開催された。



【大会マスコット「シャッチー」】

(1) 国体旗・炬火をリレー

「わかしゃち国体」の炬火は、県内 10 か所で採火された。国体旗とともにリレーする炬火リレーでは、豊橋コースについては「黒潮の火」と名づけられ、伊良湖岬で採火されたのち平成 6 年 10 月 23 日に豊橋市内に入り、小中高生によるリレーで陸上競技場に到着した。その後、小坂井町（現：豊川市）に引き継がれ、同月 29 日に名古屋市瑞穂公園陸上競技場で集火された。



【炬火リレー】

(2) 式典への参加

「わかしゃち国体」の競技の開始式や表彰式は、豊橋市の多くの学校が参加して行われた。式典の音楽は、中学校ブラスバンド、高等学校合同ブラスバン

ドにより、式典補助員（プラカード、標旗、国旗など保持者）は、豊橋市内の5高等学校の生徒により行われた。また、集団演技では、小学校50校、中学校20校のマスゲームなどや豊丘高等学校の和太鼓演奏、藤ノ花女子高等学校マーチングバンドとバトントワリングが行われた。

（3）開催競技

豊橋市では、バレーボール（少年男子）が総合体育館、軟式野球（成年1部一般・壮年）が豊橋市民球場・豊橋球場・東田球場・愛知県神野野球場で行われ熱戦が繰り広げられた。また、自転車（成年男子・少年男子）のロードレースが、豊橋市を発着点とする渥美半島ロードレースコースで行われた。トラックレースについては、豊橋競輪場で開催された。

全国各地から訪れた約2,600人の選手・役員・関係者が豊橋市に宿泊し、約6,000人の市民が、炬火リレー、歓迎の集団演技、係員、補助員、ロードレースの立哨員など、さまざまな分野で大会運営に協力した。

この「わかしゃち国体」の開催は、選手の競技レベルや役員の資質の向上、スポーツに対する市民理解の深まりなどの大きな効果を生んだ。



【バレーボール】



【トラックレース】



【ロードレース】



【軟式野球】

7 「穂の国・豊橋ハーフマラソン」の誕生

豊橋市と新城市を舞台に過去 57 回の開催を誇る「日比野賞中日豊橋マラソン」と同日開催の「中日豊橋ハーフマラソン」が平成 20 年度に終了し、より多くの市民ランナーが参加できる大会として、「穂の国・豊橋ハーフマラソン」を平成 22 年 3 月から開催することになった。陸上競技場を発着とし、市電と並走のできる中心市街地や牛川遊歩公園の桜並木、石巻山がそびえる田園風景など、豊橋市のさまざまな風景を楽しめるコースになっており、市内外からの多くのランナーに親しまれる大会となっている。

また、「日本一安心安全なマラソン大会」をコンセプトに、温かなおもてなしや手厚い救護体制にも力を入れている。平成 30 年度の第 10 回大会は、日本陸上競技連盟公認の大会として開催した。



【穂の国・豊橋ハーフマラソン】

8 「みんなであつなごう！FUN NIGHT RUN」の開催

平成 28 年度に市制施行記念 110 周年シンボルイベントとして、豊橋公園内で「みんなであつなごう！FUN NIGHT RUN」を開催した。制限時間を設けたリレーマラソンで、コース内にはさまざまなアトラクションを設け、真夏の夜に楽しみながらランニングを行うイベントとして市内外から約 300 チームが参加して行った。第 2 回の平成 29 年度からは、豊橋総合動植物公園に場所を移して開催している。



【みんなであつなごう！FUN NIGHT RUN】

9 総合型地域スポーツクラブの誕生

総合型地域スポーツクラブは、子どもから高齢者までさまざまなスポーツを愛好する人々が、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向やレベルに合わせてスポーツを楽しむことができるという特徴をもち、市民が自主的、主体的に運営するスポーツクラブである。

「豊橋市生涯スポーツ推進計画」においては、スポーツ活動への参加促進を図るための主な取り組みとして総合型地域スポーツクラブの拡充を掲げている。市と校区自治会、小中学校、PTA、スポーツ推進委員、スポーツ団体などが連携し、地域のスポーツ活動を進めるために総合型地域スポーツクラブを設立し活動を進めている。

平成13年11月に「FINS スポーツクラブ」が第1号として設立された後、平成15年8月に「RYOZ スポーツクラブ」、平成18年3月に「東陽いきいきスポーツクラブ」、平成18年10月に「SKITS クラブ」、平成27年12月に「豊橋西部地域総合型クラブ KOZOTTE」が設立された。

令和元年度現在、市内では5つの総合型地域スポーツクラブが設立され活動を行っている。



【総合型地域スポーツクラブの活動】

(1) FINS スポーツクラブ

FINSは、福岡（F）磯部（I）中野（N）栄（S）の各小学校区の頭文字をとって名づけられた。

設立当初の会員数は375名であったが、その後会員数を伸ばし、平成30年度の会員数は1,111人になっている。特に小中学生の加入者が多く、学校以外でのジュニアスポーツの活動を地域が支えるモデルケースとなっている。平成16年度には、FINSスポーツクラブとして中学生バレーボール大会の全国大会に出

場している。

また、小中学生以外にも、地域住民向けに各種のスポーツ教室を開催するなど、地域住民のスポーツ活動にも寄与している。

(2) RYOZ スポーツクラブ

青陵・東陵中学校区を活動エリアとして、既存のスポーツ少年団や社会人のスポーツサークルを取り込みながら、地域のスポーツ活動を支え交流を促進するとともに、生涯スポーツの場を提供している。

また、スポーツ以外にも地域開放行事「サンクス！ハッピーネス」を開催し、バザーやイベントを行うなど、地域住民の交流拠点となっている。

(3) 東陽いきいきスポーツクラブ

東陽中学校区を活動エリアとして、インディアカ、ソフトバレーボール、ウォーキングなどを中心に活動し、世代を超えた多くの人たちとのふれあいを目的に事業を実施している。

また、NPO 法人格を取得し、活動の透明性と地域住民に期待される事業の一層の充実を図っている。

(4) SKITS クラブ

石巻中学校区を活動エリアとしている。SKITS は、石巻中学校区の S（嵩山）K（賀茂）I（石巻）T（玉川）S（西郷）に由来している。石巻地区体育館や小中学校の施設を活用して活動しており、県大会に出場する中学生や、フロアボールの世界大会に日本代表として出場する選手を輩出するなどの成果をあげている。

また、障がい者がスポーツに親しむため、ボッチャやスキー教室なども開催しており、地域のすべての方々が参加しやすく、コミュニケーションの場となるクラブを目標に運営を行っている。

(5) 豊橋西部地域総合型クラブ KOZOTTE

青少年センターにクラブハウスをおいて活動している。管理・運営は、羽田・牟呂・吉田方中学校区スポーツ推進委員が行っており、校区の誰もがスポーツや文化活動に参加し親しむことができる環境の整備を目ざしている。

また、KOZOTTE の設立にあたっては、日本スポーツ振興センターの toto 助成金を平成 27 年度から 3 か年活用している。

＜総合型地域スポーツクラブ一覧表＞

クラブ名	FINS スポーツクラブ	RYOZ スポーツクラブ	東陽いきいき スポーツクラブ	SKITS クラブ	豊橋西部地域 総合型クラブ KOZOTTE
校区	南部中学校 南陽中学校	青陵中学校 東陵中学校	東陽中学校	石巻中学校	羽田中学校 牟呂中学校 吉田方中学校
設立年月日	平成 13 年 11 月 7 日	平成 15 年 8 月 17 日	平成 18 年 3 月 1 日	平成 18 年 10 月 8 日	平成 27 年 12 月 13 日
クラブ ハウス	福岡小学校	牛川地区 体育館	多米公民館	石巻中学校	青少年 センター
会員数 (平成 30 年度)	1,111 人	686 人	204 人	397 人	181 人
主な 実施種目	剣道、卓球、ソフト ボール、ハンド ボール、イン ディアカ、サッ カー、バレーボ ール、ソフトバ レーボール	インディアカ、 器械体操、剣道、 ソフトテニス、 バスケットボール、 バトントワ リング	インディアカ、 ソフトバレーボ ール、ウォーキ ング	エアロビクス、 バレーボール、 バスケットボー ル、フロアボー ル、水泳、柔道、 弓道	スポーツ鬼ごっ こ、スポーツ吹 矢、タスポニー、 太極拳、リトミ ック体操、ピラ ティス、卓球、ソ フトボール、イン ディアカ
代表者	地域住民	地域住民	スポーツ 推進委員	スポーツ 推進委員	スポーツ 推進委員

10 「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催に向けたホストタウンとしての取り組み

平成 25 年 9 月に昭和 39 年度の大会以来 2 回目の東京オリンピックの開催が決定した。大会開催に向け、参加国・地域との人的、経済的、文化的な相互交流を図るためのホストタウン制度が始まり、豊橋市は姉妹都市であるヴォルフスブルグ市のあるドイツ連邦共和国と、平成 17 年 3 月から 9 月に開催された「愛・地球博」のフレンドシップ事業から交流が続くリトアニア共和国のホストタウンに指定された。

平成 31 年 4 月にリトアニア共和国ゴールボール代表がトレーニングキャンプを行うため豊橋市を訪れ、豊小学校での交流会や総合体育館でゴールボール日本代表との親善試合を行った。また、令和元年 9 月にはドイツ連邦共和国テコンドー代表が事前合宿を行い、吉田方小学校との交流会を実施した。



【リトアニア共和国ゴールボール代表】



【ドイツ連邦共和国テコンドー代表】

第9章 自然史博物館の歩み

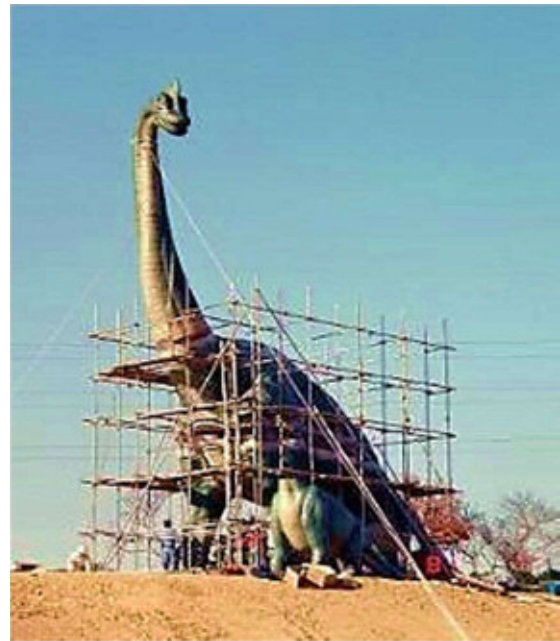
1 展示室などの施設整備

自然史博物館は昭和63年5月に開館し、平成4年4月には博物館と動物園、植物園、遊園地が一体となった全国的にも珍しい施設として、豊橋総合動植物公園（愛称：のんほいパーク）が生まれた。

その後は、博物館では屋内外において施設整備などを行い、博物館全体の魅力向上に取り組んできた。

（1）野外恐竜ランドの整備

平成2年3月には、自然史博物館前の野外恐竜ランドに草食・肉食恐竜の実物大模型7体を追加設置し、10体で構成された野外恐竜ランドを整備した。恐竜模型はFRP（強化プラスチック）製でリアルな表面塗装が施されている。なお、修繕時には、来館者から体色のデザイン案を募集し、投票によって選ばれた色彩を参考に塗り替えを行っている。



【ブラキオサウルス模型の設置】

（2）恐竜の大掃除

平成5年度からは、博物館ボランティアの協力を得て、館内に展示されている恐竜全身骨格12体と野外恐竜ランドの恐竜模型10体をきれいにする「恐竜大掃除」を年末の恒例行事として行っている。



【恐竜全身骨格の大掃除】



【野外恐竜模型の大掃除】

（３）大型映像・特別企画展示室の増築

平成３年度から平成４年度にかけて特別企画展や大規模な講演会、シンポジウム、学会などの会場として活用することができる特別企画展示室の増築及び電動収納式座席（360席）と国内最大級のスクリーン（幅18m・高さ13m）を有する大型映像の整備を行い、平成４年12月から上映を始めた。



【特別企画展示室で開催された開館20周年記念シンポジウム】

平成23年9月、高画質で安定した上映を行えるようにするため、従来のフィルム方式から4Kデジタル方式に対応した映像機器へと更新した。

さらに、平成30年11月、高画質の3D映像の上映ができるようにするため、映写機、音響設備、スクリーン（幅18m・高さ10m）に一新し、臨場感あふれる3D映像の上映を始めた。



【3D映像の観覧の様子】

（４）収蔵庫、研究室などの増築

特別企画展示室などの増築などに合わせ、博物館資料を安全かつ系統的に保存できる収蔵庫、博物館資料に適した処理や研究ができるスペース（地学研究室、生物研究室、地学実験室、生物実験室、撮影室、燻蒸室など）の増築を行った。なお、平成30年度末時点での収蔵資料点数は、552,220点である。



【収蔵庫の様子】

(5) 展示改装

①郷土の自然展示室の増築改装

郷土の自然展示室は、東三河の自然環境と生物相を楽しく学び、郷土の自然に対する興味や関心を喚起する場として、平成7年3月にオープンした。

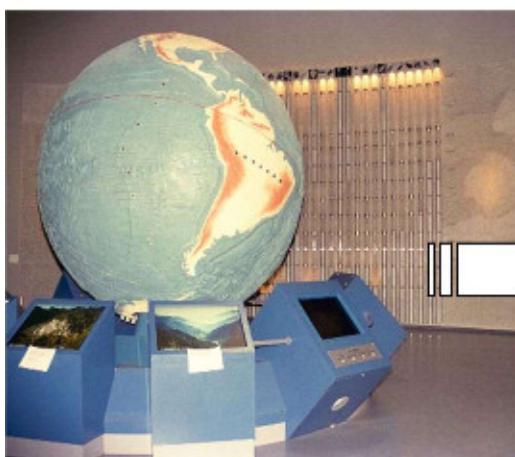
東三河地方は、海、川、干潟、ため池、石灰岩地帯など多様な自然環境が存在し、そこに生息する特異な動植物も多いことから展示室では、郷土に生息する動植物などの実物標本の展示を基本に、郷土の地形・地質、郷土の自然史研究に携わった人々や、郷土で発見された新種などについての紹介を行っている。また、郷土の自然を楽しく遊びながら学ぶことができるようにクイズコーナーも設置した。



【郷土の自然展示室（海の自然）】

②オリエンテーションホールの改装

平成10年10月、ホールのメイン展示であった「海深儀」を「ティラノサウルス」と「トリケラトプス」の全身骨格に改装し、白亜紀後期に生息していた2種の大型恐竜が対峙している迫力ある状況を再現した。



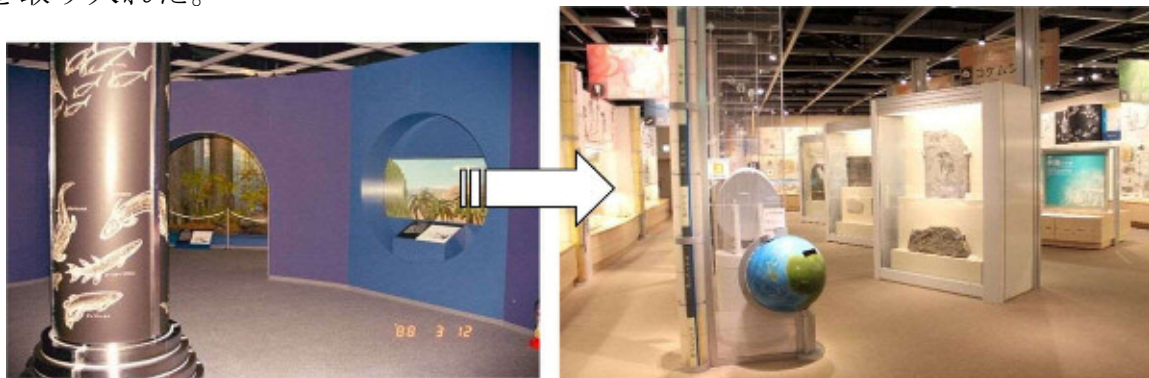
【海深儀から2大恐竜の全身骨格へ】

なお、オリエンテーションホールは、「古生代」「中生代」「新生代」の各展示室の出入口が交差する位置にあることから、平成20年度に「自然史スクエア」と改称した。

③古生代展示室の増築改装

平成 13 年度から始まった第 4 次基本構想・基本計画の文化施設整備事業に博物館が位置づけられ、古生代から新生代展示室の展示基本設計のプロポーザルと、古生代展示室増築工事の実施設計を行った。平成 14 年度は増築工事の着手と展示物実施設計を行い、平成 16 年 4 月にリニューアルオープンした。

新しい古生代展示室は、展示面積が 506 m² となり、展示点数も旧展示室の約 10 倍となった。展示面では、子どもから大人までが理解しやすい 2 段展示を採用するとともに、オープンジオラマ、ハンズオンに配慮し、参加体験型展示物を取り入れた。



【古生代展示室改装 改装前（左）、改装後（右）】

④中生代展示室改装、エドモントサウルス展示室の増築改装

平成 16 年度の古生代展示室の増築改装後、中生代の展示物実施設計を行い、平成 17 年度に中生代展示室増築工事の実施設計を行い、平成 18 年度は増築工事に着手し、平成 20 年 4 月にリニューアルオープンした。

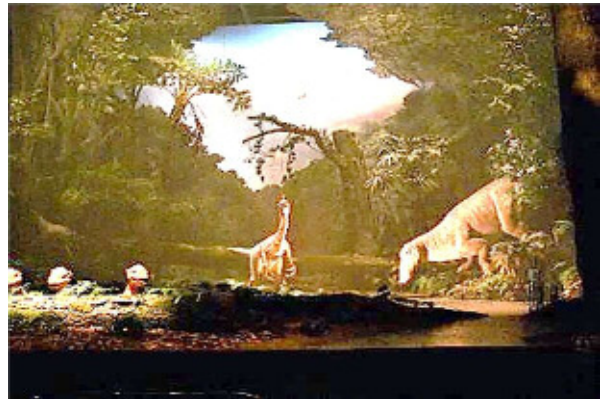
この工事により新展示室の展示面積は 570 m² から 794 m² となり、展示点数も旧展示室の 86 点から約 4 倍の 330 点となった。



【中生代展示室改装 改装前（左）、改装後（右）】

また、中生代展示室には、ユアンモウサウルスをはじめとする恐竜8体、海生爬虫類3体、翼竜1体の全身骨格を配置した。

展示面では、古生代展示室の展示方法を引き継ぎ、低い位置には4コマ漫画によるコーナー解説とハンズオンを効果的に取り入れた子ども向けの展示を、それより上の高さには、実物標本や専門的な解説を配した2段展示を取り入れた。



【恐竜劇場】

中生代展示室の増築エリアには、国内最大の有孔スクリーンを使った新シアター「恐竜劇場」を設け、エドモントサウルスが生息した中生代の世界をジオラマとCG映像によって立体的に紹介している。また、学芸員や教育普及ボランティアによる解説用ブースとして「リサーチテーブル」を設置した。



【エドモントサウルス展示室】

なお、このテーブルには、さまざまな種類の化石標本などが収納されており、教育普及ボランティアが解説を行う時は、来館者が実際に標本に触れることができる機会を設けている。

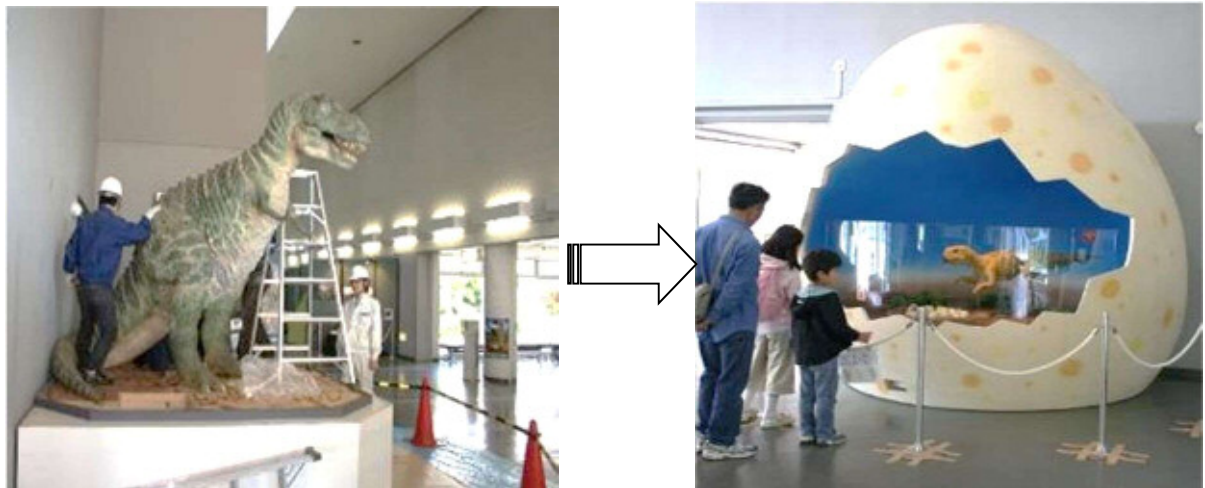
自然史スクエアのコンクリート壁面には、スポットライトによって、ティラノサウルス頭骨部分のシルエットが映し出される工夫がされており、人気の



【壁面に映るティラノサウルスの頭骨シルエット】

の記念撮影ポイントとなっている。また、中生代展示室改装に合わせ、博物館入口の動く模型をティラノサウルスからプシッタコサウルスに更新した。この模型は、正時（10時、11時、12時・・・）になると軽やかな音楽とともに、卵から赤ちゃんが生まれるといった演出があるため、人だかりができる人気の高い

スポットとなっている。



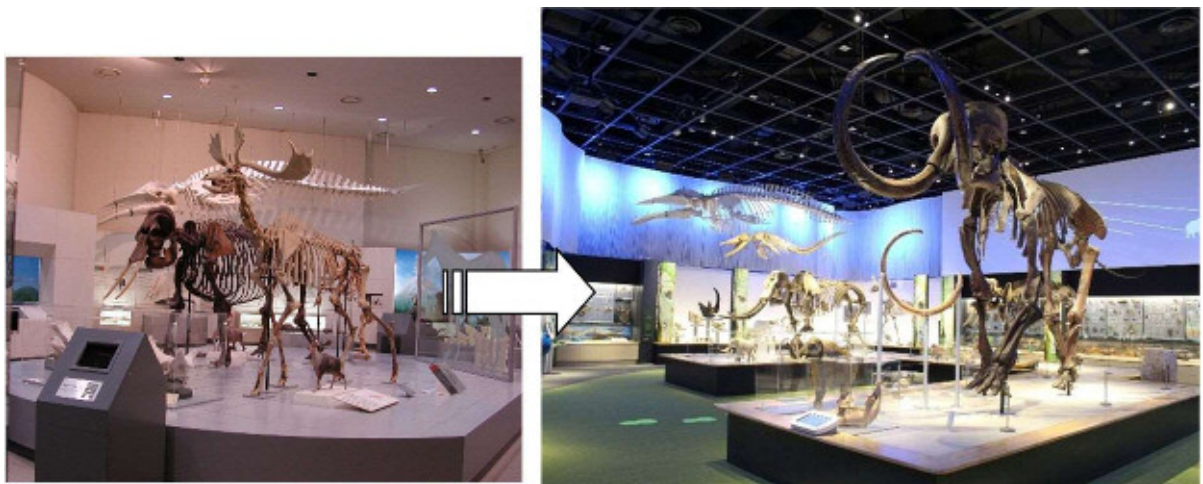
【博物館入口の恐竜の更新 更新前（左）、更新後（右）】

なお、当館の目玉展示物である「アナトサウルス・アネクテンス」は「エドモントサウルス・アネクテンス」に学名が変更されていたため、平成 20 年度に「アナトサウルス展示室」を「エドモントサウルス展示室」に改称した。

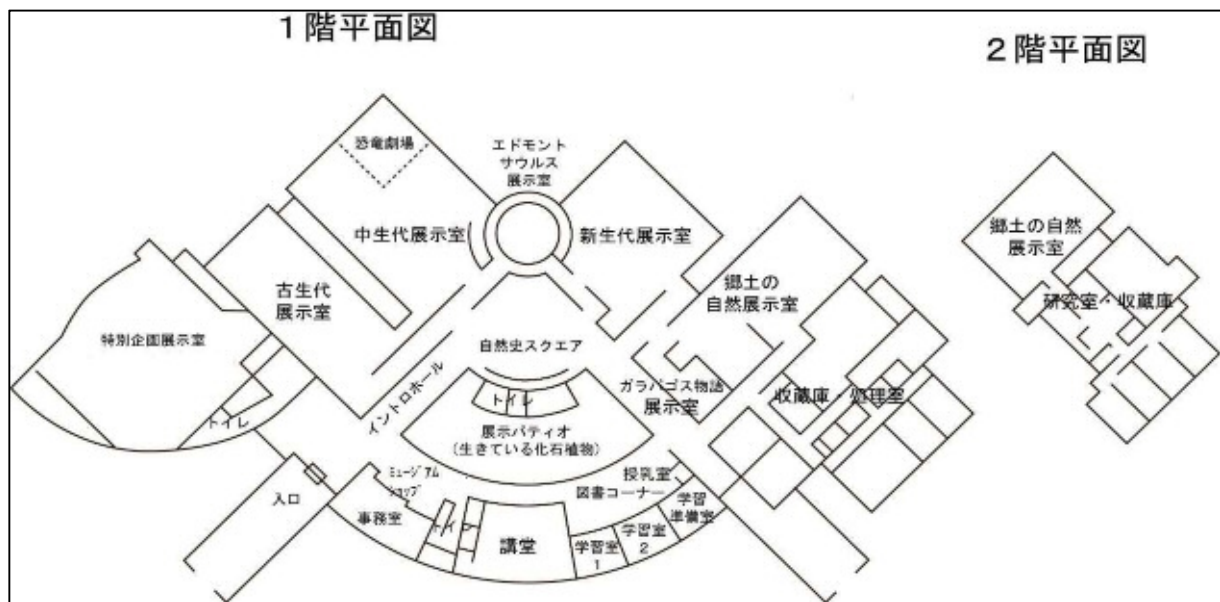
⑤ 新生代展示室の改装

新生代とは、恐竜絶滅後から現在までの時代であり、哺乳類の繁栄、人類が誕生した時代である。平成 28 年 5 月、古生代や中生代展示室の展示技法を引き継ぎ、旧展示室の約 5 倍となる 624 点の展示標本と、最新の映像技術などを導入し、体感して学ぶことができる新生代展示室にリニューアルオープンした。

また、ゾウやサイなど、同じ敷地内にある動物園で飼育・展示されている動物に関連した内容も数多くあり、「新生代展示室」と「動物園」を合わせて観覧することで、より深く生物の進化について学ぶことができる工夫をしている。



【新生代展示室改装 改装前（左）、改装後（右）】



【現在の自然史博物館平面図】

2 市制施行記念事業

(1) 市制施行 90 周年記念事業

①特別企画展「生命史 20 億年ーヒトのルーツをさぐるー」

真核生物が誕生した約 20 億年前からヒトへの直系の道筋を 7 つのコーナーに分け、多くの展示標本やパネルなどでヒトの進化の過程をたどる特別企画展を平成 8 年 7 月から 9 月まで 45 日間開催し、23,482 人の観覧者があった。



【生命史 20 億年 開場式】

②特別企画展「ロシアのマンモス」

ロシア連邦科学アカデミーとの学術協力のもと、ロシアから産出したマンモス動物群の資料を中心に、マンモスたちが生きた氷河時代、人類との関わりなどを 6 つのコーナーに分けて展示した特別企画展を平成 8 年 10 月から平成 9 年 1 月まで 81 日間開催し、35,238 人の観覧者があった。

(2) 市制施行 100 周年記念事業

①「ユカギルマンモスミュージアム」

「愛・地球博」で人気を博したマンモスの感動を、もう一度多くの人に味わ

ってもらい、冷凍マンモスが遺したメッセージを
 解き明かすことで地球規模の環境問題に対する意
 識の高揚を図ることを目的として、ロシア連邦サ
 ハ共和国科学アカデミー北方応用生態研究所、日
 本科学未来館などの協力を得て、ユカギルマンモ
 スミュージアムを平成 18 年 4 月から 6 月まで 68
 日間開催し、217,690 人の観覧者があった。



【ユカギルマンモス ミュージアム】

② 「とよはし高師小僧フェスタ」

豊橋の地名からその名がついた鉱物の一種「高
 師小僧」をテーマとしたシンポジウムや、高師小僧
 を原料とした製鉄実験などで構成した「とよはし高師小僧フェスタ」を平成 18
 年 10 月から 11 月まで豊橋市地下資源館とともに開催し、延べ 33,110 人の参
 加者があった。

③ 特別企画展「恐竜と生命の大進化－中国雲南 5 億年の旅－」

カンブリア紀の生物の大爆発、ジュラ紀
 の恐竜、アジアの人類に焦点をあて、5 億
 4,000 万年にわたる壮大な雲南の生物進化
 を紹介した特別企画展を平成 18 年 7 月から
 10 月まで 77 日間開催し、46,861 人の観覧
 者があった。中でも全長約 17m のユアンモ
 ウサウルスは、新属新種の恐竜であり、今回
 の特別企画展のために初めて組み立てられ、日本初公開となった。



【日本初公開！ユアンモウサウルス】

（3）市制施行 110 周年記念事業 特別企画展「メガ恐竜展 in 豊橋」

「なぜ、竜脚類は大きくなることができたのか？」をメインテーマに、スペインで発
 見されたヨーロッパ最大級（全長約 30m）
 の竜脚類「トゥリアサウルス」の復元骨格を
 はじめ 7 体の全身骨格、日本初公開のトゥ
 リアサウルスの左後足の実物化石など貴重
 な標本を展示した特別企画展を平成 28 年 7



【メガ恐竜展の会場内の様子】

月から10月まで77日間開催し、37,214人の観覧者があった。

3 開館記念事業

(1) 開館10周年記念事業

①特別企画展「みせまず博物館活動－郷土の調査10年の歩み－」

平成10年4月から5月までの1か月間、「生命の進化」「郷土の自然」をテーマに、学芸員が取り組んできた調査・研究活動などの成果を紹介するとともに、学芸員自身が展示室に常駐し、標本製作などの実演を行い、95,159人の来館者があった。

②特別企画展「地底たんけん－大地と地震のなぞをさぐれ－」

平成7年1月に発生した阪神淡路大震災以降、地震や活断層などが注目され、中央構造線や郷土の地質をはじめ、地震や災害、身近な防災について紹介する特別企画展を平成10年7月から9月まで52日間開催し、21,606人の観覧者があった。

③特別企画展「バイカル湖と摩周湖の神秘にせまる－地球環境の未来を求めて－」

バイカル湖と透明度世界一を競う摩周湖の自然を通じて、「水」をキーワードに地球規模の環境問題を取り上げた特別企画展を平成10年10月から12月まで62日間開催し、106,662人の来館者があった。

(2) 開館20周年記念シンポジウム「復元－恐竜のすがたにせまる－」

平成20年7月に、開館20周年と中生代展示室の改装を記念してシンポジウムを開催した。

シンポジウムでは、恐竜の発掘から調査研究を経て、骨格の復元や復元模型、復元画がどのように制作されるのかなど、第一線で活躍しているパネリストから最新の話題などが報告されるとともに、恐竜の魅力について討論が行われた。



【開館20周年シンポジウム ポスター】

(3) 開館 30 周年記念事業

①開館 30 周年記念式典の開催

平成 30 年 4 月から 5 月にかけて、開館から 30 年の変遷を紹介する企画展「自然史博物館 30 年の歩み」を開催した。5 月 2 日には市長をはじめ、地元の二川小学校、二川南小学校の 6 年生や博物館ボランティアなど博物館関係者が出席して、開館 30 周年記念式典を盛大に行った。

なお、開館 30 周年記念に合わせて、年間優待券や缶バッジの販売を始めた。



【記念式典ーエドモントサウルスの腰骨お披露目ー】



【記念式典ークラッカーで祝福ー】

②企画展の実施

平成 30 年 7 月から 9 月にかけて、学芸員や博物館ボランティアがブース内で標本作製などを実演する企画展「博物館のウラワザ」を開催した。

③特別企画展「体感！恐竜ワールド」

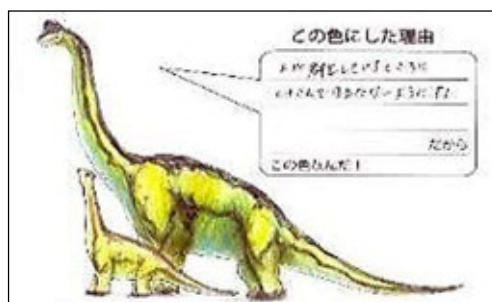
実物大の動く恐竜模型 10 体などを設置し、恐竜の進化や生態などを紹介する特別企画展「体感！恐竜ワールド」を平成 30 年 7 月から 9 月まで 46 日間開催し、期間中に 21,305 人の観覧者があった。



【操作可能なティラノサウルス】

④野外恐竜模型「ブラキオサウルス」色塗りデザイン募集

特別企画展の関連イベントとして、平成 30 年 7 月から 9 月にデザインを募集し、応募作品 2,240 点の中から 20 点を選考し、来館者の投票で決定した作品を参考に塗り替えを行った。



【新ブラキオサウルスのデザイン画】

⑤大型映像の3D化

平成30年11月、4K3Dに対応したレーザー・シネマ・プロジェクターに機器を更新するとともに、音響設備、スクリーンをリニューアルし、臨場感あふれる「ダイナソーDX3D版」などの上映を行った。

4 石巻自然科学資料館のリニューアル

石巻自然科学資料館は、石巻山をはじめとする八名弓張山地の地質、動植物を紹介するため、昭和42年度に開館した。

その後、平成13年4月、商業観光課の管理から自然史博物館の附属施設となり、耐震施工とともに展示物の全面改装を実施し、平成14年12月にリニューアルオープンした。

新しい資料館は、石巻山をはじめとする弓張山地へのハイキングや自然観察などのためのビジターセンターとしての機能充実を図り、市内の航空写真、東部丘陵を中心としたおすすめハイキングコース、観察できる地質と動植物、野外において注意を要する動植物などについて展示紹介している。



【資料館内の展示風景】

なお、館の開閉や清掃などの日常管理は、近隣の宿泊施設に委託している。

5 学校教育との連携

(1) 小中学校への職員派遣

平成13年度から小中学校からの依頼を受け、学芸員を派遣する「出前授業」を開始した。学習指導要領に対応したメニューについては、毎年学校へのお知らせや、ホームページにも掲載



【出前授業の例（おさかな入門）】

するとともに、担当教員との調整により別メニューにも対応するようにしている。さらに、実物標本やスライドを使った教室内での授業のほか、校外学習、

野外観察会への派遣依頼も多くあり、平成 30 年度の活動実績は 24 校（52 時限分）であった。

（２）「標本貸出セット」の整備

小中学校の授業などで活用可能な標本セットを整備し、平成 15 年度から化石、岩石、動物の骨格標本、昆虫標本などの貸出を開始している。

標本類には、ラベルや解説シートが付属するほか、班ごとの活動用に複数セットの貸出にも対応している。

標本セットの主な貸出先は、小中学校の理科授業を原則としているが、国語、美術での利用や、校外学習で動植物公園を訪れた際の学習補助教材としても幅広く活用されている。



【標本貸出セットの一例（頭骨標本）】

なお、平成 30 年度の館外貸出は 7 団体 473 名、館内利用は 7 団体 260 名であった。

＜標本貸出セットの内容（令和元年度現在）＞

分野	標本の内容	貸出可能 セット数
化石	古生代から新生代の化石 17 種	10
	化石レプリカ製作用の型 4 種	20
岩石	東三河地域の堆積岩類 10 種	10
	豊川流域の岩石類 10 種	5
植物	ドンダリの仲間の押し葉と実 6 種	3
脊椎動物	肉食動物、草食動物の頭骨標本 3 種	10
	ネコの全身骨格標本	1
	レプリカ製作用の型（オオカミの歯）	20
昆虫	昆虫標本（カブトムシ、オニヤンマ、アゲハ）	5
	国語の教科書に登場する昆虫	3

（３）自然史博物館自由研究展

小中学生の理科教育振興のため、平成 17 年度から市内の小中学生が行った生物・地学をテーマにした自由研究から優れた作品を表彰・展示をする自然史博物館自由研究展を開始した。

第 1 回目（平成 17 年度）の応募点数は、市内の公立小中学校から 116 点（小学校 49 校 93 点、中学校 12 校 23 点）であったが、年々増加傾向にあり、第 14

回（平成 30 年度）では、市内の公立小中学校全てから、第 15 回（令和元年度）には、私立も含め全ての市内の小中学校から 217 点（小学校 52 校 155 点、中学校 23 校 62 点）の応募があった。作品審査は、学芸員及び豊橋市自然史博物館研究委員会の委員が行い、最優秀賞、優秀賞、奨励賞などを選定している。



【第 15 回自由研究展 展示風景】

（４）「教員のための博物館の日 2012in 豊橋」の開催

平成 24 年 8 月、学校と博物館が連携して科学を楽しみ、博物館を活用した「体験的な活動」について理解を深めるための場として、愛知県内・静岡県西部の教職員などを対象に開催した。講演会をはじめ、近隣の博物館や水族館の協力により、展示、ワークショップを行うとともに、豊橋市立小中学校教員の教員免許状更新講習講座、教科教育講座（理科）の受講者も研修プログラムの一環として参加した。



【出展ブースの様子】

国立科学博物館、浜松市博物館などの出展ブースでは、学校が授業などで活用できる体験プログラムや貸し出し用標本、出前授業の内容などについて紹介があった。

6 ボランティア・大学との連携

（１）博物館ボランティア活動の開始

博物館ボランティアによる活動は平成 8 年 6 月から開始した。具体的には、特別企画展会場などで観覧者に対して解説を行う「教育普及ボランティア」及び収蔵資料の処理、整理、登録などを行う「資料整理ボランティア」が活動し、平成 30 年度末におけるボランティア登録者数は 71 名となっている。

現在では週末のガイドツアーをはじめ各種イベントの補助、標本作成、登録作業など、さまざまな場面で活躍しており、自然史博物館の活動において不可欠な存在となっている。

平成 23 年度には、ボランティア運営委員会を発足するとともに、ボランティア通信「ぷしったこ」の創刊号を発行した。

また、平成 29 年 2 月、特別企画展などの内容を観覧者にわかりやすく解説するため、博物館ボランティアが考案したオリジナルグッズ作成に関するアイデアや工夫をまとめた「アイデアいっぱい手作り科学教材集」を発刊した。

なお、自然史博物館での教育普及ボランティアや資料整理ボランティア活動の開始から 20 年目を迎えた平成 29 年 8 月、これまでの活動の功績が評価され「豊橋市教育奨励賞」を受賞した。さらに、平成 30 年 9 月には「愛知県ボランティア活動功労者表彰」も受賞した。



【資料整理ボランティアの活動】



【ガイドツアーの様子】

（２）名古屋芸術大学と連携協定締結

平成 26 年 12 月、自然史博物館と名古屋芸術大学との間で、相互の活動の充実と発展のための連携・協力に関する協定を締結し、さまざまな連携事業を行っている。

名古屋芸術大学の竹本学長からは「学生にとって実践教育の場としてすばらしい施設であり、アウトリーチやアクティビティの面で協力できればと考えている」と挨拶をいただいた。



【竹本学長（左）と佐原市長（右）】

大学側からは博物館内でのミュージアム・コンサート、特別企画展 PR 用造形物の制作設置やトリックアート制作などの協力を、当館では学芸員の派遣によ

る自然科学関連の講義や、学外研修の受け入れなど、双方向による連携を行っている。



【JR豊橋駅に設置した恐竜模型と制作者】



【ミュージアム・コンサートの様子】

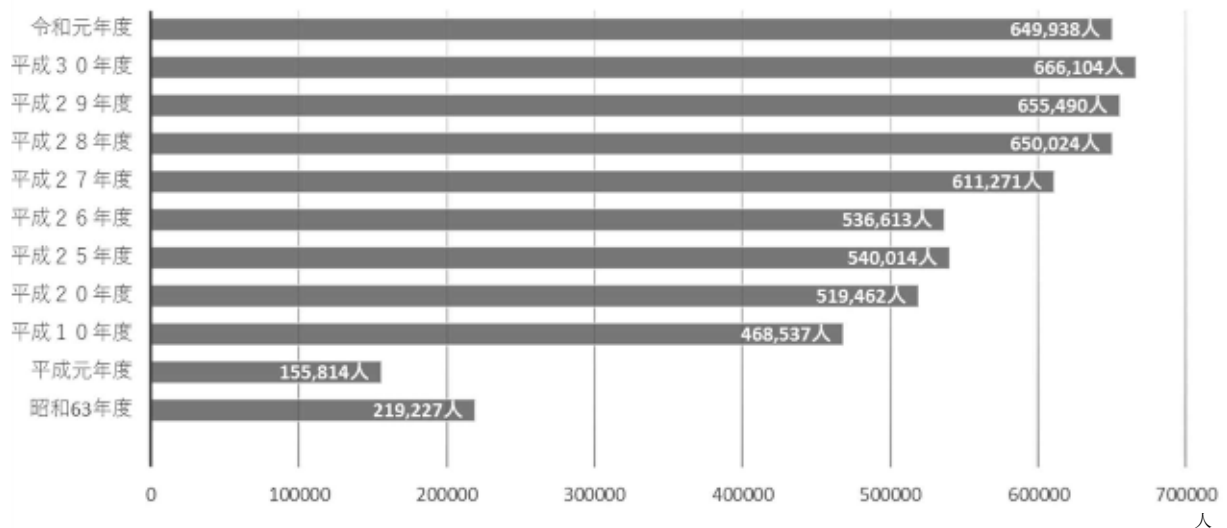
7 入館者数 1,500 万人達成

平成 31 年 4 月に昭和 63 年 5 月の開館以来の通算入館者が 1,500 万人を達成した。

1,500 万人目の入館者は、田原市在住のご家族で、達成記念のセレモニーにおいて、市長から記念品や花束などが贈呈された。



【市長と 1,500 万人目のご家族】



【入館者数の推移（各年度末）】

8 今後の取り組み

(1) 東三河ジオパーク構想事業の推進

東三河地域にある多くの特徴的な地形、地質を保全・保護し、観光資源として生かすため、平成 28 年度に東三河ジオパーク構想推進準備会（事務局：新城市）が設立された。

引き続き、東三河 8 市町村と連携して、ジオツアーなどを開催し、情報収集や情報発信など図り、ジオパークの認定を目ざしていく。



【ジオツアー（渥美半島の成り立ちを追う）】



【ジオツアー（豊川の石はどこから？）】

(2) 調査研究活動の充実

より質の高い教育普及活動を実施する先進的で魅力ある博物館を目ざすため、学芸員の調査研究活動を充実させるとともに、博物館としての学術的研究レベルの底上げを図っていく予定である。

資料編

- ※ 豊橋市内の市立学校の開校 167
- ※ 平成における教科・領域別の歩み 168
- ※ 平成の研究委嘱校一覧 179
- ※ 児童生徒の体位 183
- ※ 歴代教育長及び教育委員 185
- ※ 美術博物館の企画展 186
- ※ 二川宿本陣資料館の企画展 191
- ※ 科学教育センターの企画展 194
- ※ 図書館の企画展 195
- ※ 自然史博物館の企画展 200

豊橋市内の市立学校の開校

年 月	学 校 名	年 月	学 校 名
明 治	5 西郷郷学校 (西郷小)	昭 和	4 商業専修学校 (豊橋高等学校)
	7 豊橋郷学校 (東・西・南・北)		昭和8 4 羽根井尋常小学校 (羽根井小)
	11 藤ヶ池郷学校 (金西寺・下条小)		昭和22 4 北部第一中学校 (北部中)
	12 細谷義校 (細谷小)		4 西部第一中学校 (羽田中)
	明治6 3 豊橋義校 (悟慎寺、分校：龍拈寺)		4 西部第二中学校 (牟呂中)
	3 大崎義校 (大崎小)		4 西部第三中学校 (吉田方中)
	3 第37番小学和田学校 (玉川小)		4 南部第一中学校 (南部中)
	3 小島義校 (小沢小)		4 南部第二中学校 (南稜中)
	6 第35番小学賀茂学校 (賀茂小)		4 中部第一中学校 (中部中)
	6 第40番小学神ヶ谷学校 (石巻小)		4 中部第二中学校 (豊城中)
	6 第35番小学巴水学校 (前芝小)		4 前芝中学校
	7 寛明学校 (松音寺・二川小)		4 二川中学校
	7 第10番脩徳学校 (高林寺・高師小)		4 祥南中学校 (石巻中)
	8 第39番小学嵩山学校 (嵩山小)		4 五並中学校
	9 第11番小学牟呂学校 (牟呂小)		4 高豊中学校
	9 第13番小学草間学校 (磯辺小)		昭和23 3 老津家政学院 (家政高等専修学校)
	9 第12番小学野依学校 (野依小)		9 青陵中学校
	9 二川義校分教場 (谷川小)		昭和25 4 豊岡中学校
	10 第16番小学杉山学校 (杉山小)		昭和26 4 岩西小学校
	10 第37番小学鹿菅学校 (津田小)		昭和27 4 旭小学校
	10 第7番小学田尻学校 (岩田小)		4 栄小学校
	10 第3番小学立志学校 (神宮寺・八町小)		昭和30 4 天伯小学校
	10 第4番小学幡太学校 (浄慈院・花田小)		昭和33 4 大清水小学校
	10 第36番小学豊麻学校 (聖眼寺・下地小)		昭和34 4 向山小学校
	10 第5番小学吉川学校 (吉田方小)		昭和35 4 章南中学校
10 第42番小学牛川学校 (牛川小)	昭和49 4 高師台中学校		
10 第15番小学老津学校 (桂昌寺・老津小)	昭和52 4 幸小学校		
10 渥美郡小学七根学校 (高根小)	昭和53 4 鷹丘小学校		
明 治 7	3 第5番小学勸善学校 (全久院・東田小)	昭和54 4 豊小学校	
	3 高足学校出張所橋良学校 (福岡小)	昭和56 6 芦原小学校	
	3 牛川学校出張所多米学校 (多米小)	昭和57 4 東部中学校	
明 治 8	11 第53番小学赤沢学校 (豊南小)	昭和58 4 飯村小学校	
明 治 9	4 第40番小学植田学校 (植田小)	昭和59 4 富士見小学校	
	8 第108番小学豊田学校 (大村小)	昭和60 4 中野小学校	
明 治 26	4 豊橋町立第三尋常小学校 (松葉小)	4 南陽中学校	
明 治 34	4 豊橋町立南部尋常小学校 (新川小)	昭和61 4 本郷中学校	
明 治 43	10 狭間尋常小学校	昭和62 4 東陽中学校	
明 治 45	4 松山尋常小学校 (松山小)	昭和63 4 二川南小学校	
		平 成	平成2 4 汐田小学校
			平成7 4 つつじが丘小学校
			平成9 4 東陵中学校
			平成27 4 くすのき特別支援学校

平成における教科・領域別の歩み

【平成の国語科教育】

年 度	主な取り組み内容
平成 2 年	中学校国語研究部研究収録「ことばを育てる」第 1 号を創刊 授業案や実践を掲載して、国語の授業について考える際の参考となるようにした。以後、令和元年度の 30 号まで毎年継続して発行
平成 3 年	新川小学校が読書活動研究発表会を実施 研究主題「読むことを習慣化し、進んで学びとる力を育てる読書活動」
平成 6 年	小学校国語研究部が、「文字の教室」を編集、発刊 児童が文字を正しく読み書きできるように、漢字の学習を楽しくできるようにとの願いから作成された。小学 1 年生用から小学 6 年生用まで、学年ごとに 80 ページで編集されている。平成 8 年度まで毎年改訂して発行
平成 7 年	中学校国語研究部が、文詩集「あおぎり」を創刊 中学生の作文、詩などの優秀作品を掲載。平成 10 年度まで毎年発行
平成 10 年	二川小学校が学習指導研究発表会を実施 研究主題「心豊かに話すことのできる子どもの育成－聞く力、話す力を育てる国語科の指導を通して－」
平成 14 年	前芝中学校が図書館教育研究発表会を実施 研究主題「生きる力をはぐくむ学校図書館－図書館情報を必要とする学習活動の展開－」
平成 19 年	東田小学校が学習指導研究発表会を実施 研究主題「学び合いのなかで子どもの考えを深める授業づくり－国語科を基盤に理科・生活科・生活単元の学習を通して－」
平成 23 年	文詩集「吉田の子」の編集方法を変更 印刷したものを各学校から持ち寄り製本する方法に変更。大きさも B 版から A 版に変更。「吉田の子」は、令和元年度までに 48 集を発行
令和元年	文詩集「吉田の子」のイントラネット掲載を開始 学校の PC から閲覧、ダウンロードが可能

【平成の社会科教育】

年 度	主な取り組み内容
平成 3 年	副読本「とよはし」の全面改訂 小学 3 年生版と小学 4 年生版の全面改訂
平成 5 年	愛知県社会科教育研究大会を岩田小学校・豊岡中学校で開催 研究主題「発見する楽しさ、感動する喜びを味わう社会科の授業」
平成 6 年	「副読本とよはし 活用事例集」を発刊

平成 7 年	「道しるべ（社会科研究部のあゆみ）」を発売
平成 11 年	「社会科授業 Q&A（道しるべ第 2 集）」を発売
平成 13 年	副読本「とよはし」の全面改訂 小学 3 年生版、小学 4 年生版を合本し、内容を大改訂
平成 21 年	愛知県社会科教育研究大会を栄小学校・南部中学校で開催 研究主題「持続可能な社会の実現を目指し、学びを問い合い、自己の責任を考 える社会科の授業」
平成 23 年	副読本「とよはし」を改訂し、新たに「かがやく豊橋」を発売

【平成の算数・数学科教育】

年 度	主な取り組み内容
平成 4 年	愛知県数学教育会小中学校部研究大会を 8 月 26 日に豊橋市民文化会館で開催 研究主題「個性を伸ばし、次代を担う力を育てる算数数学教育の実践」 講演「算数教育から見た新教育課程の方向と展開－学習指導と評価について－」 講師 文部省教科調査官 根本 博 氏
平成 13 年	三河教育研究会算数数学科夏季研修会を 8 月 8 日にライフポートで開催 大会主題「生きる力を育て個性を伸ばす算数・数学教育の実践」 講演「算数・数学科における基礎基本の徹底と創造性の基礎を培う授業」 講師 東京学芸大学教授 伊藤 説朗 氏
平成 19 年	豊橋市算数数学研究部会が「授業力アップ！算数科：授業と板書のアイデア 12 か 月」を発売
平成 21 年	東海地方数学教育会第 56 回（愛知）大会を 11 月 13 日に豊橋市で開催 大会主題「算数・数学活動を楽しみ、活用力を伸ばす数学教育の実践」 会場 向山小学校、中部中学校、豊橋東高等学校 講演「算数・数学科における授業改善の視点 －「わかる数学」から「活用する数学」へ－」 講師 筑波大学大学院人間総合科学研究科教授 清水 美憲 氏

【平成の理科教育】

年 度	主な取り組み内容
平成 2 年	理科研究部研究収録「わだち」第 20 号記念号を発売
平成 6 年	計画学習が小学校のみに変更
平成 13 年	理科研究部の組織を「課題研究部会」「専門研修部会」「自主研修部会」に再編 理科研究部収録「わだち」を「WADACHI」に名称変更し、隔年から毎年発売に変更
平成 14 年	計画学習の対象を小学 6 年生から小学 4 年生へ移行

平成 15 年	小柴記念賞の募集を開始 理科研究部だより「プレアデス」第 1 号を発刊 2002 年ノーベル物理学賞受賞の小柴昌俊氏が東田小学校・豊城中学校を訪問
平成 17 年	計画学習をわくわく体験活動に名称を変更 自然史博物館自由研究展（地学・生物分野の自由研究）の募集開始
平成 19 年	豊橋少年少女発明クラブが発足し、視聴覚教育センターで活動を開始
平成 20 年	豊橋少年少女発明クラブの活動場所をこども未来館「ここにこ」へ変更
平成 25 年	全国小学校理科研究大会愛知大会を羽根井小学校で開催
平成 29 年	自由研究の応募方法を変更 小柴記念賞：物理・化学分野、自然史博物館自由研究展：生物・地学分野

【平成の生活科教育】

年 度	主な取り組み内容
平成元年	学習指導要領において、生活科が新教科となる 各校、指導計画を考え、移行期間中に授業を実践
平成 2 年	生活科研究部が発足 「一人の百歩より百人の一步」を合言葉に全小学校で実践開始
平成 3 年	生活科研究部主体の研修会を開催 パネルディスカッション「生活科の完全実施をひかえ今すべきこと」 広報紙「生活科」の発刊を開始
平成 4 年	生活科の完全実施
平成 5 年	三河教育研究会生活科部会「夏季研修会」を豊橋市で開催 研究主題「子どものくらしに生きて働く生活科の授業」
平成 9 年	日本生活科教育学会愛知大会へ生活科研究部員を派遣
平成 15 年	全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会へ生活科・総合的な学習研究部員を派遣

【平成の英語科教育】

年 度	主な取り組み内容
平成 4 年	学校管理案に、国際理解教育の全体計画などの記載を開始
平成 6 年	英語研究部組織を「基礎研究部」と「自主研究部」に改編
平成 7 年	豊橋市外国人講師（ALT）を 2 人から 4 人に増員
平成 10 年	小学 6 年生への ALT の派遣を開始
平成 11 年	愛知県英語教育研究大会を東陵中学校で開催 姉妹都市アメリカ合衆国トリード市への中学生派遣を開始 英語教員海外派遣研修を開始

平成 12 年	「総合的な学習の時間」を活用し、小学 4 年生から小学 6 年生で「英語活動」を開始 小学 4 年生と小学 5 年生では、年間 3 回のスクールアシスタント (SA)、小学 6 年生は、年間 3 回の ALT を派遣
平成 13 年	「総合的な学習の時間」を活用し、小学 3 年生から小学 6 年生で「英語活動」を設定 ALT を 8 名体制とし、小学 3 年生と小学 4 年生に、年間 3 回の SA を、小学 5 年生と小学 6 年生に年間 3 回の ALT の派遣を開始
平成 17 年	内閣府より英語教育推進特区の認定を受け、豊橋市独自の理念と系統性をもたせた小中一貫英語教育「英会話のできる豊橋っ子育成プラン」を策定
平成 18 年	英語教育推進特区の認定を受け、中学校の週 3 時間の英語の授業に加えて、「総合的な学習の時間」の代わりに週 1 時間の「英会話」の授業を新設 小学校「英会話カリキュラム・スタンダード版 (小学 3 年生から小学 6 年生)」を作成
平成 19 年	英語教育推進特区の認定を受け、小学 3 年生から小学 6 年生で年間 35 時間の「英会話」の授業を新設 小学 3 年生と小学 4 年生に SA を年 20 時間、小学 5 年生と小学 6 年生に ALT を年 20 時間配置
平成 20 年	平成 20 年 3 月告示小学校学習指導要領で、小学 5 年生と小学 6 年生に外国語活動を新設 中学校「英会話」副読本「I LOVE TOYOHASHI！」を発行
平成 21 年	愛知県英語教育研究大会を東陵中学校で開催
平成 22 年	ALT を豊橋市特別職非常勤嘱託員として直接雇用を開始
平成 23 年	文部科学省「教育課程特例校」認定を受け、小中一貫「英会話」カリキュラムを継続 小学校「英会話カリキュラム・スタンダード版 (小学 3 年生から小学 6 年生)」を改訂
平成 25 年	豊橋市立小中学校英語教育全国研究発表会を栄小学校、南部中学校などを会場として、2 日間の日程で開催 研究主題「グローバル社会にはばたく子どもの育成」
平成 26 年	小学生を対象とした「土曜英会話チャレンジ」を開始 「I LOVE TOYOHASHI！」 English Camp を開始
平成 27 年	小中一貫「英会話」カリキュラム・スタンダード版を改訂 第 2 ステージを小学 5 年生から中学 1 年生とする 第 2 ステージ副教材「Sharing Toyohashi」を発行
平成 29 年	平成 29 年 3 月告示小学校学習指導要領で、小学 3 年生と小学 4 年生に「外国語活動」、小学 5 年生と小学 6 年生に教科の「外国語」を新設 八町小学校で「英語で学ぶ」モデル事業の研究実践を開始 日本人教員と ALT によるティーム・ティーチングで、英語以外の教科などの授業について、英語を用いて行うモデル事業
平成 30 年	八町小学校イマージョン教育コース開設に向けて、プロジェクトチームを新設
令和 2 年	八町小学校イマージョン教育コース開設

【平成の音楽科教育】

年 度	主な取り組み内容
平成 4 年	第 2 回東海・北陸小中学校音楽教育研究会ならびに平成 4 年度愛知県小中学校音楽教育研究会豊橋大会を南部中学校、栄小学校で開催 研究主題「つなぎあい たかめあう 音楽のわ」 一心をふるわせ ひびきを感じながら表現する子ー
平成 11 年	第 1 回小学生のコンサートを開催
平成 20 年	愛知県小中学校音楽教育研究大会豊橋大会を玉川小学校で開催
平成 28 年	第 1 回中学校合唱フェスティバルを開催

【平成の図画工作・美術科教育】

年 度	主な取り組み内容
平成 3 年	玉川小学校が学習指導研究発表会を実施 研究主題「豊かな発想と子どもの活動の広がり求めて」
平成 5 年	国際交流事業として、子ども造形パラダイスが中華人民共和国南通市で紹介され、児童作品 40 点を寄贈
平成 6 年	国際交流作品として、大韓民国晋州市の子どもの作品も子ども造形パラダイスに展示
平成 7 年	子ども造形パラダイスを世界公園博覧会と同時開催 八町児童遊園地を会場として 15 日間開催
平成 8 年	子ども造形パラダイスと伸びゆく子どもたちの作品展の同時開催を開始
平成 10 年	子ども造形パラダイス記念誌「わくわくどきどき」を発刊
平成 14 年	子ども造形パラダイス画像データ集を作成
平成 23 年	子ども造形パラダイスに合わせて、豊橋市美術博物館にて平面作品展を開催 各小学校から代表作品 1 点を出品
平成 24 年	子ども造形パラダイスに「交流広場」「つくるあそぶコーナー」を新設。出品学年を小学校は 2 年生・4 年生・6 年生、中学校は 1 年生・3 年生に変更

【平成の体育・保健体育科教育】

年 度	主な取り組み内容
平成元年	愛知県体力づくり優良校（石巻中学校）
平成 2 年	愛知県体力づくり優良校（天伯小学校・南稜中学校）
平成 3 年	愛知県体力づくり優良校（植田小学校）
平成 4 年	愛知県体力づくり優良校（大崎小学校）
平成 5 年	愛知県体力づくり優良校（多米小学校・豊城中学校）

平成 6 年	第 49 回国民体育大会「わかしゃち国体」愛知県大会を開催 豊橋会場（軟式野球・自転車・バレーボール）
平成 7 年	愛知県体力づくり優良校（二川南小学校・豊岡中学校）
平成 8 年	愛知県体力づくり優良校（賀茂小学校）
平成 9 年	愛知県体力づくり優良校（石巻中学校）
平成 10 年	小学校高学年「体づくり」運動領域設置
平成 11 年	中学校春期体育大会を廃止
平成 12 年	愛知県体力づくり優良校（大崎小学校）
平成 13 年	牟呂小学校が学習指導研究発表会を実施 研究主題「生命の大切さを知り、よりよい生き方のできる児童・生徒の育成」 －共に学び、共に生きる力を育むエイズ教育（性教育）を通して－
平成 14 年	「部活動指導の手引き」を作成 土日の活動、大会出場の制限 総合型地域スポーツクラブの設立 小学校球技大会ブロック大会・中央大会から予選リーグ・決勝トーナメント制へ変更
平成 16 年	愛知県体力づくり優良校（高師小学校）
平成 17 年	芦原小学校が健康教育研究発表会を実施 研究主題「心身ともに健やかで、楽しく活発に活動する芦原っ子の育成」 愛知県体力づくり優良校（羽田中学校）
平成 18 年	第 50 回全国小学校体育科研究集会（豊橋大会）を開催
平成 20 年	愛知県体力づくり優良校（下地小学校）
平成 23 年	「部活動指導の手引き」改訂 クラブ化部活動の廃止
平成 24 年	第 56 回全国小学校体育科研究集会（豊橋大会）を開催
平成 26 年	愛知県体力づくり優良校（豊小学校）
平成 27 年	愛知県体力づくり優良校（高師台中学校）
平成 29 年	「部活動指導の手引き」の改訂 朝練の禁止 愛知県体力づくり優良校（八町小学校）
平成 30 年	小学校運動部活動検討特別委員会を発足
令和元年	吉田方小学校が健康教育研究発表会を実施 研究主題「心と体の健康に関心をもち、運動やスポーツに親しむ子どもの育成」 －子どもの思いとつながりを大切にした教育活動を通して－ 愛知県体力づくり優良校（吉田方中学校）
令和 2 年	中学校運動部活動検討特別委員会が発足

【平成の技術・家庭科教育】

年 度	主な取り組み内容
平成 2 年	愛知県中学校技術・家庭科研究大会を本郷中学校で開催 研究主題「自ら学ぶ力を高める授業のあり方」 －生活化をめざす授業課程と教材・教具－

平成 16 年	愛知県家庭科教育研究大会を牛川小学校で開催 研究主題「新しい時代を切り拓く豊かな心と実践力を育てる家庭科教育」 一人・もの・自然と豊かにかかわりながら主体的に生活を創り出す子の育成
平成 17 年	愛知県中学校技術・家庭科研究大会を南部中学校で開催 研究主題「生活をひらく知恵を育てる授業のあり方」 －「人・もの・こと」とかかわらせる「アクション」を通して－

【平成の総合的な学習】

年 度	主な取り組み内容
平成 11 年	学習指導研究発表会を牛川小学校で開催 研究主題「21 世紀を主体的に生きる子どもの育成」 －『総合的な学習』への取り組みを通して－
平成 12 年	総合的な学習の時間を開始 豊橋市の総合的な学習指導員を設置
平成 13 年	総合的な学習研究部を発足 小学校総合的な学習研究部が実践事例集を発行 実践事例集「ともに学び、自らを作り出す総合的な学習」
平成 23 年	小中学校総合的な学習研究部が、アイデアプラン集を発行 「各教科・領域との関連を加味した総合的な学習アイデアプラン集－小学校 3・4年生、中学校－」

【平成の道徳教育】

年 度	主な取り組み内容
平成元年	道徳指導研究発表会を豊岡中学校で開催 研究主題「生活の中に生きる道徳教育－響き合う仲間づくり、活力ある実践活動を通して－」
平成 2 年	道徳指導研究発表会を八町小学校で開催 研究主題「みんな仲良く生き生きと活動する子の育成－みつめ合う場を通して－」
平成 14 年	文部科学省が「心のノート」を作成・配布
平成 15 年	道徳教育推進事業として、賀茂小学校が実践
平成 17 年	道徳教育推進事業として、植田小学校が実践
平成 20 年	小中学校道徳研究部が「生命を大切に作る心育てる豊橋っ子プラン」を作成 生命尊重の「ユニット化」を図り、小中学校に配付
平成 24 年	道徳教育研究発表会を飯村小学校で開催 研究主題「自己を見つめ、規範意識と思いやりの心をもつ『いむれっ子』の育

	成—自他とのかかわりのなかで、気づき、考え、行動する道徳教育の実践をとおして—
平成 26 年	愛知県道徳教育研究大会豊橋大会を羽根井小学校で開催 「道徳教育抜本的改善・充実に係る支援事業（文部科学省委託事業）」の研究推進校として羽田中学校が実践 文部科学省が「私たちの道徳」を作成・配布
平成 29 年	「道徳教育抜本的改善・充実に係る支援事業（文部科学省委託事業）」の研究推進校として東陵中学校が実践
平成 30 年	「特別の教科 道徳」を小学校で開始 愛知県道徳教育研究推進校として、羽根井小学校が実践
令和元年	「特別の教科 道徳」を中学校で開始

【平成の特別活動教育】

年 度	主な取り組み内容
平成元年	特別活動研究発表会を岩西小学校で開催 研究主題「響き合う心の育成—望ましい集団活動を通して—」
平成 3 年	小中学校特別活動研究部が「生き方を育てる学級活動—進め方とその工夫—」を 発刊
平成 8 年	第 40 回全国特別活動研究大会をライフポートで開催 研究主題「たくましく生きぬく力を育てる特別活動」 講演「秀吉の生き方に学ぶ」 講師 静岡大学教授 小和田哲男 氏 「これからの教育と特別活動」 講師 東京家政学院大学学長 河野 重男 氏
平成 9 年	「豊橋の特別活動 '96 豊川活動」を発行
平成 23 年	第 55 回全国特別活動研究大会をライフポートで開催 研究主題「豊かな心もち たくましく生きる力を育てる特別活動」 —よりよい人間関係が未来への架け橋に— 講演「共生社会の担い手を育てる特別活動—指導と評価の充実に通して—」 講師 文部科学省 初等中等教育局教育課程課教科調査官 杉田 洋 氏

【平成の特別支援教育】

年 度	主な取り組み内容
平成 5 年	「通級による指導」を幸小学校（言語障害）で開始 「伸びゆく子どもたちの作品展」を豊橋公園での展示へと変更
平成 6 年	「にじの子相談室」を豊城中学校から教育会館に移転
平成 7 年	「にじの子相談室」に専任相談員を配置

平成 9 年	特別支援学級編制基準が、10 名から 8 名に変更 特別支援学級新設基準が、小学校 2 人、中学校 3 人に変更
平成 14 年	「にじの子相談室」に心理判定員を配置
平成 15 年	「クリスマスの集い」の会場を、福岡小学校から総合体育館に変更
平成 19 年	特殊教育から特別支援教育への移行
平成 20 年	特別支援教育啓発リーフレット「わかってほしいな ちょっと気になる子のこと」を作成し、全家庭に配布
平成 22 年	小中学校合同野外体験学習を中学校のみの活動に変更 小中学校の交流は中学校単位のブロック交流会を年数回実施
平成 24 年	『『個別の教育支援計画』でのびのびと』を発行 個別の教育支援計画の保護者への理解・啓発のための資料
平成 25 年	特別支援教育啓発リーフレット「一人一人が輝くために一困り感のある子への理解と支援」を作成し、全家庭に配布
平成 26 年	「伸びゆく子どもたちの作品展」50 周年 リーフレット作成や 1,400 人の子どもたちが力を合わせた集合作品「ひまわり」を作成
平成 27 年	豊橋市立くすのき特別支援学校を開校 センター的機能による小中学校との連携開始 小中学校の教員を交流として 6 名派遣 特別支援学級の新設申請が、小学校 1 人、中学校 3 人に変更
平成 28 年	特別支援学級の新設申請が、小中学校ともに 1 人に変更 「豊橋版個別の教育支援計画の活用と引き継ぎの手引きーこの子のためにー」発行 個別の教育支援計画の意義や必要性について理解を深めるための教員資料
平成 29 年	「クリスマスの集い」40 周年
平成 30 年	特別支援学級の児童生徒、通級指導を受ける児童生徒について、個別の教育支援計画を作成することが義務化
令和元年	『『個別の教育支援計画』でのびのびと』改訂版を発行 特別な支援の必要な子どもたちのための「豊橋市の支援ネットワーク MAP」を発行

【平成の情報教育】

年 度	主な取り組み内容
平成 2 年	豊橋市小中学校視聴覚教育協会（豊視協）が、巡回映画活動を継続実施 視聴した映画の感想文の中から優秀な感想文を選び、掲載し、毎年発刊
平成 4 年	視聴覚教育センターが「放送カリキュラム」を発刊 テレビ番組の放送を授業に組み入れるための参考資料
平成 5 年	豊橋市小中学校教育情報協会（豊情協）を発足

平成 7 年	<p>第 46 回放送教育研究会全国大会愛知大会（第 34 回東海北陸地方放送教育研究大会）を 11 月 9 日・10 日の 2 日間にわたって開催</p> <p>会場：ライフポートとよはし、松山小学校、羽根井小学校、中野小学校 豊城中学校、羽田中学校</p>
平成 14 年	<p>衛星通信や ISDN を使ったテレビ会議システムによる授業を本郷中学校、青陵中学校、吉田方中学校で実践</p> <p>本郷中学校で研究発表会を開催</p> <p>研究主題「マルチメディアの活用を通し、心豊かに自ら学ぶ生徒の育成」</p>
平成 21 年	<p>第 60 回放送教育研究会全国大会愛知大会（第 13 回視聴覚教育総合全国大会）を 10 月 27 日・28 日の 2 日間にわたり、豊橋市、岡崎市、豊田市に分かれて開催</p> <p>公開授業・研究発表：羽根井小学校、羽田中学校</p>
平成 26 年	<p>情報教育研究発表会を牛川小学校で開催</p> <p>研究主題「ICT を活用した授業づくり－意欲的に学びあう子をめざして－」</p>
平成 27 年	<p>豊橋市小中学校教育情報協会（豊情協）解散</p>
平成 28 年	<p>1 人 1 台タブレット端末を配備した学習指導研究発表会を嵩山小学校で開催</p> <p>研究主題「伝え合い、かかわり合い、深め合うことができる子の育成－学校の特徴を生かし、ICT 機器を活用した学習指導を通して－」</p>
令和元年	<p>ロボットやプログラミングソフトを活用したプログラミング学習の授業を嵩山小学校で公開</p> <p>研究主題「すすんでかかわり合い、深め合うことができる子の育成－プログラミングを取り入れた学習指導を通して－」</p>

【平成の外国人児童生徒教育】

年 度	主な取り組み内容
平成 2 年	<p>第 1 回外国籍児童生徒在籍校の情報交換会を開催</p> <p>「外国人児童生徒の受け入れに関する基本方針」を作成</p>
平成 3 年	<p>外国籍児童生徒の指導検討委員会を発足</p> <p>日本語、母語指導に関わる問題点を把握し、指導の指針を示すとともに、問題解決への行政措置要求を答申</p> <p>外国籍児童生徒の指導協力者の派遣を開始</p> <p>指導協力者 4 名による巡回指導。4 名のうち 1 名はポルトガル語を指導し、他の 3 名は日本語を指導（年間 130 日程度）</p>
平成 4 年	<p>日本語教育適応教室担当教員の加配を開始</p> <p>豊橋市では 7 名の教員が加配され、幸小学校、栄小学校、花田小学校、岩田小学校、岩西小学校、南部中学校、高師台中学校の 7 校に日本語適応学級を開設</p> <p>外国人児童生徒教育相談員を導入</p> <p>指導教員を対象に教材や指導法を紹介する巡回教育相談を実施</p>

	<p>母語による巡回生活相談（週3回）を開始</p> <p>第1回外国人児童生徒ふれあい交流会を開催</p> <p>各学校に在籍する外国人子女同士の交流を図るための会、野外教育センターで平成16年度まで実施</p> <p>「明るく楽しい学校生活を送るためにー外国籍児童生徒への指導と実践ー」作成</p>
平成5年	<p>外国人子女教育研究発表を南部中学校で開催</p> <p>日本語巡回指導を開始</p> <p>年間130日、拠点校に巡回指導を平成14年度まで実施</p>
平成9年	「外国籍児童生徒の指導マニュアルー小学校編ー」を作成
平成10年	<p>巡回指導の拠点校方式を導入</p> <p>「外国籍児童生徒の指導マニュアルー中学校編ー」を作成</p>
平成12年	<p>国際資料教室（アミーゴ教室）を設置</p> <p>岩田小学校、岩西小学校のポルトガル語図書などを整備し、小中学校への貸し出しを開始</p> <p>「外国人児童生徒教育資料」を作成</p> <p>小中学校で作成された翻訳文書を集約してHPでの公開を開始</p>
平成13年	「豊橋市の学校案内」（ポルトガル語対応）を作成
平成15年	「Somos Amigos!ともだちになろう 先生と生徒のための日本語ポルトガル語会話集」を発行
平成16年	小学校1年生の外国人児童を対象とした「語彙調査」を開始
平成17年	<p>岩田小学校に「プレクラス（早期適応教室）」を開設</p> <p>外国人児童生徒・保護者を対象とした「進路相談会」を開始</p>
平成18年	<p>ポルトガル語話者のスクールアシスタント制を開始</p> <p>「外国人児童生徒指導の手引きー指導者のためのQ&Aー」を発行</p>
平成19年	<p>自治体職員協力交流事業として、ブラジル人教員の半年間の受け入れを開始</p> <p>多言語対応の登録バイリンガル制度の開始</p> <p>日本語教材「にほんごワークブック①」の発行（⑤まで発行）</p>
平成20年	外国人児童生徒教育研究部を創設
平成22年	<p>国際協力職員派遣事業を開始</p> <p>豊橋市の教職員をブラジル連邦共和国パラナ州に派遣</p>
平成23年	「外国人児童生徒教育相談コーナー」を市役所に開設
平成26年	「特別の教育課程」による日本語指導を開始
平成27年	「公立学校における帰国・外国人児童生徒に対するきめ細かな支援事業（文部科学省）」を受け、岩田小学校と豊岡中学校にプレクラス（初期指導教室）を開設
平成30年	中学生に特化した初期支援コース「みらい」を豊岡中学校内に開設
令和元年	中学生に特化した初期支援コース「みらい西」を羽田中学校内に開設
令和2年	小学生に特化した初期支援コース「きぼう」を岩西小学校内に開設

平成の研究委嘱校一覧

年度	領域	学校名	研究主題
平成元年	学習指導	栄小	生きる勇気と力と夢を －わかる・できる喜びを持たせる学習指導－
	特別活動	岩西小	響き合う心の育成
	道徳指導	豊岡中	生活の中に生きる道徳指導 －響き合う仲間づくり、活力のある実践活動を通じて－
	進路指導	南稜中	広い視野に立ち、未来を拓く生徒の育成をめざす進路指導
平成2年	道徳指導	八町小	みんな仲よく生き生きと活動する子の育成 －みつめ、高めあう場を通して－
	学習指導	中野小	心を動かし、自ら活動する子の育成 －具体的な活動・体験を通して－
	学校経営	富士見小	豊かな心を持ち、共にきたえあう富士見っ子の育成 －家庭・地域の連携を生かした活力ある学校づくり－
	学校経営	青陵中	楽しい学校・学年・学級づくりをめざして －今、それぞれがやらなければならないこと－
平成3年	学習指導	豊城中	教育機器を利用した英語学習指導
	学習指導	高師台中	学習意欲と確かな学力を育てる個に応じた指導の改善
	学習指導	玉川小	豊かな発想と子どもの活動の広がり求めて
	読書活動	新川小	読むことを習慣化し、進んで学びとる力を育てる読書活動
平成4年	生徒指導	本郷中	心を育てる生徒指導
	交通安全	牟呂小	自他の生命をみつめ行動できる子どもの育成
	環境教育	多米小	地域の自然・社会を見つめ、よりよい環境づくりを目ざす子どもの育成
	学習指導	二川南小	自ら学び続ける子どもの育成
平成5年	学習指導	福岡小	意欲的に学習に取り組む子どもの育成
	学習指導	高根小	生き生きと表現できる子どもの育成
	外国人児童生徒 生徒指導	南部中	外国人子女教育 心をつなぐ効果的な適応指導のあり方
	コンピュータ	南陽中	自ら考え主体的に学習に取り組む生徒の育成 －コンピュータの特性を生かした学習指導－
平成6年	学習指導	飯村小	明日をひらく子どもを育てる授業 －観点別評価を取り入れた指導過程の研究－
	学習指導	植田小	学ぶ楽しさを実感し、生きがいを求め続ける子の育成 －生涯学習の基礎づくりをめざして－
	環境教育	谷川小	自然を愛し、自然から学ぼうと行動する谷川の子の育成 －郷土の自然や人々とのふれあいを通して－
	特別活動	五並中	自主性、創造力、実践力を高める特別活動 －生徒主体の学校行事・生徒会活動を通して－
平成7年	放送教育	羽田中	メッセージを受け止め、発信できる生徒の育成
		豊城中	楽しくて学びたくてたまらない授業の工夫
		羽根井小	学びあうたのしさのあふれる学習活動を求めて
		松山小	生き生きと学び続ける子を育てよう
		中野小	目を輝かせ、ともに作りあげる学習活動
平成8年	障害児教育	天伯小	Heart to Heart－ともに学び、ともに生きる子の育成－
	特別活動	吉田方中 松葉小	たくましく生きぬく力を育てる特別活動
	安全教育	高豊中	自他の生命を尊重し、自ら安全な生活を創り出す子どもの育成
平成9年	生徒指導	中部中	いのちへの思いを深めることを基盤にした生徒指導のあり方について
	学習指導	岩田小	国際理解教育を中心として
	学習指導	野依小	学校図書館を活用した教科指導を中心として
	学習指導	鷹丘小	T・T学習を中心として

年度	領域	学校名	研究主題
平成 10 年	道徳教育	向山小	心豊かでたくましく生きる力を育てる道徳教育 －子どものよさが生きる体験活動や道徳の授業を通して－
	学習指導	東陽中	主体的に活動し、自己判断のできる生徒の育成をめざして
	情報教育	杉山小	よく分かり、楽しい授業の究明 －コンピュータを導入した授業－
	学習指導	二川小	心豊かに話すことのできる子どもの育成 －聞く力、話す力を育てる国語科の指導を通して－
平成 11 年	学習指導	牛川小	21 世紀を主体的に生きる子どもの育成 －「総合的な学習」への取り組みを通して－
	学習指導	磯辺小	感性を生かし、進んで問題を追究する子の育成 －出会いと「かかわり」を大切に授業を通して－
	学習指導	章南中	生きる力を育てる学習指導 －気づく・考える・表現する活動を通して－
平成 12 年	学習指導	つつじが丘小	互いに認め合い、高め合う子の育成 －学ぶ力を育てる生活科・社会科の授業を通して－
	学習指導	多米小	地域と共に、未来を生きる多米っ子の育成 －総合的な学習「多米プラン」実践を核にして－
平成 13 年	健康教育	牟呂中	生命の大切さを知り、よりよい生き方のできる児童・生徒の育成 －共に学び、共に生きる力を育むエイズ教育（性教育）を通して－
	学校経営	高師小	自分らしさを発揮し、ともに生きる力を育む教育活動を求めて －分かる喜び・学びの楽しさを実践し、互いに高めあう学習活動を通して－
平成 14 年	学習指導	花田小	伝え合う力をみがき、自らかかわる子どもの育成 －伝え合う言語領域と総合的な学習のクロス単元の実践を通して－
	学習指導	富士見小	伝え合い、学びあい、高め合う子の育成
	情報教育	本郷中	マルチメディアの活用を通し、心豊かに自ら学ぶ生徒の育成
	図書館教育	前芝中	生きる力をはぐくむ学校図書館 －図書館情報を必要とする学習活動の展開－
平成 15 年	学習指導	下地小	すべての子どもの学力を高める授業の創造 －基礎・基本定着のシステム化を図る－
	幼小連携推進	大清水小	自立する子どもをめざして －人とかかわりを大切に活動した活動を核にして－
	生徒指導	二川中	輝く未来を見つめながら意欲的に自らを創造していく生徒の育成 －学級経営・学校経営・地域連携を中核とした諸活動を通して－
	地域連携推進	東陵中	地域とともにあゆむ中学校の創造 －意識の共有化と活動の共同化－
平成 16 年	情報教育	津田小	情報を活かし、たくましく生き抜く子どもの育成 －学ぶ楽しさを実感できるメディアリテラシー学習を通して－
	学習指導	石巻中	新しい自分を確立する生徒の育成 －学び合い高め合う問題解決的な授業過程を通して－
	小中連携推進	五並中 細谷小 小沢小	思いをふくらめ、自己実現していく子の育成 －交流を柱とした小中連携の工夫を通して－
平成 17 年	学習指導	栄小	子供たちに生きる勇気と力と夢を －共に学び合い、高め合う子を求めて－
	健康教育	芦原小	心身ともに健やかで、楽しく活発に活動する芦原っ子の育成
	開かれた学校	東部中	人との関わりを身につけてはたらく力をもつ生徒の育成 －ひらかれた学校づくりの実践を通して－
平成 18 年	学校評価	幸小	子どもたちの瞳が輝く教育活動の創造 －学校評価を生かした教育活動－
	新しい教育課程	賀茂小	ゆとりの中で学び、学び続ける子どもの育成 －学びの連続性を図る教育課程づくりを通して－
	学習指導	北部中	人間力を育む学習指導 －学習意欲の向上をめざした授業の創造と進路指導の充実－

年度	領域	学校名	研究主題
平成 19 年	小学校 英語活動	大村小	夢をもち、誰とでもすすんでふれ合い、チャレンジする子 －英語に親しみ、英語で楽しむ活動をとおして－
	学習指導	東田小	学び合いのなかで子どもの考えを深める授業づくり －国語科を基盤に理科・生活科・生活単元の学習を通して－
	生徒指導	南稜中	集団の中で自己実現をはかる生徒の育成 －いごちのよい環境づくりを出発点として－
平成 20 年	学習指導	松山小	子どもを本気にさせる学び －深まりのある話し合いの授業を求めて－
	食農教育	下条小	自信をもちたくましく活動できる下条っ子の育成 －食農学習を通して－
	国際理解 教育	南陽中	南陽から世界へ！思いやりをもって主体的に行動する生徒の育成 －3つの対話による自己確立と他者理解を基盤とした国際理解協力を を通して－
平成 21 年	特別支援 教育	旭小	「この子」が輝き、「みんな」が高まる授業の創造 －子ども理解を深め、教育的ニーズに応える支援のあり方の研究－
	学習指導	向山小	自分で考えをもち、伝え合い、活用する子どもの育成 －確かな言語力に支えられた算数の授業をめざして－
	キャリア 教育	吉田方中	なりたい自分を描き続け、よりよく生きようとする生徒の育成 －9年間を見通したキャリア教育の実践を通して－
平成 22 年	生徒指導	豊小	絆を強め、心の居場所を見つけることができる子の育成 －自分っていいな、仲間っていいな、学校っていいな－
	学習指導	豊南小	自ら学び続ける子どもの育成 －共に学び合う学習基盤の確立を通して－
	学習指導	青陵中	共生を図りながら、いきいきと学び続ける生徒の育成 －PISA 型「読解力」を重視した授業づくりを通して－
平成 23 年	学習指導	豊城中	自他に問い続け、自らを創り出す生徒の育成 －個の学びと集団の学びをつなぐ支援のあり方を通して－
	小中連携	前芝小	小中の連携による「つながりのある学びづくり」の取組
	地域連携	岩西小	地域とともに生きる子の育成 －子どもの学びと家庭・地域との絆を紡ぐ－
平成 24 年	学習指導	玉川小	自分の考えを深めていく子どもの育成 －かかわり合い 見つめ直す 学びを通して－
	道徳教育	飯村小	自己を見つめ、規範意識と思いやりの心をもつ「いむれっ子」の育成 －自他とのかかわりのなかで、気づき、考え、行動する道徳教育の実 践を通して－
	環境教育	章南中 (老津小) (杉山小)	環境への意識を高め、地域への思いを深める生徒の育成 －小中一貫「環境カリキュラム」を柱とする教育活動の工夫を通して－
平成 25 年	学習指導	高師台中	新しい自分を確立し続ける生徒の育成 －到達目標を明確にし、わかる楽しさ・できる喜びを感じる具体的 な授業を通して－
	学習指導	福岡小	生き生きと学び合う福岡っ子の育成 －「個の学び」の充実を図り、学び合いのある授業づくりを通して－
	家庭教育	松葉小	自ら動き出す松葉っ子の育成 －地域の教育力を生かし、子どもと家庭をつなぐ実践を通して－
平成 26 年	学習指導	西郷小	深く考え、仲間とともに高め合う子の育成 －少人数学級のよさを生かした学習指導を通して－
	情報教育	牛川小	ICTを活用した授業づくり、学校づくり －意欲的に学び合う子をめざして－
	学習指導	南部中 (栄小) (福岡小)	学びをつなぐ －言語活動の充実を図り、「考えを深め、表現できる生徒」の育成－

年度	領域	学校名	研究主題
平成 27 年	郷土学習	石巻小	郷土を愛し、思いを深める子どもの育成 －地域の「ひと・もの・こと」生かした協同的な学びを通して－
	特別支援教育	二川南小	子どもの心に寄り添い、ともに学び合う学校づくり －個を見つめ、育ちを支える連携を通して－
	人間教育	羽田中	社会を生きぬく太い根っこをもつ子どもを育てる学校づくり －子どもの自分づくりを支える三つの力の育成を通して－
平成 28 年	学習指導	嵩山小	伝え合い、かかわり合い、深め合うことができる子の育成 －学校の特色を生かし、ICT 機器を活用した学習指導を通して－
	生徒指導	東陽中	自他ともに認め、輝き合える生徒の育成 －自己有用感を高める活動を通して－
	学習指導	植田小	いきいきと学び続ける子の育成 －地域とともに創る教育活動を通して－
平成 29 年	生き方教育	牟呂中	大志を抱き、よりよい生き方を追求する生徒の育成 －かかわりを大切にし、小中9年間を見通した生き方教育を通して－
	学習指導	中野小	自他と対話し、学びを生かす子の育成 －「主体的・対話的で深い学び」に迫る教師支援の在り方を求めて－
	学習指導 小中一貫教育	高豊中 富士見小	基礎力の習得と思考力・実践力の育成を図る小中一貫教育 －施設分離型・小中一貫教育における豊かな教育活動の創造を通して－
平成 30 年	生徒指導	東陵中	誇りをもち夢に向かって、凜として生きる生徒の育成 －自他を尊重し、自己肯定感を高める実践を通して－
	こころの教育	花田小	こころ豊かに、未来をたくましく生きぬく花田っ子の育成 －「花田小カリキュラム」の創造を通して－
	学習指導	天伯小	この子の輝きを引き出す授業の創造 －問題解決的な学習による「深い学び」を目ざして－
令和元年	生徒指導	本郷中 (芦原小) (高師小)	認め合い、かかわり合いながら、仲間とともに成長する生徒の育成 －「この子」がいきる生徒指導を通して－
	健康教育	吉田方小 (吉田方中)	心と体の健康に関心を持ち、運動やスポーツに親しむ子どもの育成 －子どもの思いとつながりを大切にした教育活動を通して－
	学習指導	磯辺小	自発的に学びに取りかかり、仲間とともに自主的に学ぶ子の育成 －子どももっている力を生かした教育活動を通して－

児童生徒の体位

1 身長

		平成元年度		平成5年度		平成10年度		平成15年度		平成20年度		平成25年度		平成30年度	
		全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市
男	小1	116.7	116.0	116.8	116.0	116.8	115.9	116.7	116.0	116.7	116.2	116.6	115.9	116.5	116.0
	小2	122.5	122.0	122.5	121.6	122.5	122.1	122.5	121.9	122.5	122.2	122.4	121.8	122.5	121.9
	小3	127.9	127.4	128.1	127.5	128.2	127.7	128.2	127.5	128.2	127.7	128.2	127.6	128.1	127.6
	小4	133.3	132.3	133.3	132.8	133.6	132.9	133.7	132.8	133.7	133.2	133.6	133.0	133.7	133.0
	小5	138.2	137.8	138.8	137.8	139.1	138.4	139.0	138.4	138.9	138.4	139.0	138.3	138.8	138.2
	小6	144.3	143.3	144.7	144.1	145.3	144.5	145.2	144.7	145.3	144.4	145.0	144.3	145.2	144.3
	中1	151.3	150.4	151.8	151.4	152.7	151.5	152.6	151.7	152.6	151.8	152.3	151.9	152.7	151.9
	中2	158.6	157.5	159.4	158.4	159.9	159.0	160.0	159.5	159.8	159.0	159.5	158.9	159.8	159.3
	中3	164.4	163.6	165.0	164.4	165.3	164.7	165.4	164.8	165.4	164.7	165.0	164.9	165.3	164.8
女	小1	116.0	115.2	116.0	115.2	115.9	115.4	115.8	115.1	115.8	115.4	115.6	115.1	115.6	114.9
	小2	121.8	121.1	121.7	120.9	121.7	121.1	121.6	121.1	121.7	121.1	121.6	121.0	121.5	121.1
	小3	127.3	126.7	127.4	126.9	127.5	126.9	127.4	126.9	127.5	127.1	127.3	126.7	127.3	126.8
	小4	133.1	132.3	133.3	132.4	133.5	132.9	133.5	132.9	133.6	133.3	133.6	133.2	133.4	132.9
	小5	139.5	139.0	139.9	138.9	140.4	140.4	140.2	139.5	140.3	139.7	140.1	139.6	140.1	139.6
	小6	146.1	145.4	146.5	146.4	147.0	146.3	147.1	146.4	146.8	146.0	146.8	146.3	146.8	146.4
	中1	151.4	150.7	151.7	151.3	152.1	151.3	152.1	151.3	152.1	151.2	151.8	151.4	151.9	151.4
	中2	154.8	154.0	155.0	154.5	155.3	154.6	155.1	154.5	155.1	154.6	154.8	154.6	154.9	154.4
	中3	156.4	155.9	156.7	156.2	156.8	156.2	156.7	156.2	156.6	156.3	156.5	156.4	156.6	156.2

2 体重

		平成元年度		平成5年度		平成10年度		平成15年度		平成20年度		平成25年度		平成30年度	
		全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市
男	小1	21.5	21.0	21.7	21.3	21.7	21.4	21.7	21.5	21.5	21.4	21.3	21.1	21.4	21.3
	小2	24.0	23.9	24.3	23.9	24.4	24.3	24.4	23.9	24.2	24.2	23.9	23.8	24.1	24.0
	小3	27.0	26.7	27.4	27.1	27.7	27.3	27.8	27.1	27.3	27.1	27.1	26.8	27.2	27.2
	小4	30.3	30.0	30.6	30.5	31.3	30.7	31.3	30.9	30.8	30.5	30.4	30.2	30.7	30.3
	小5	33.7	33.4	34.3	33.7	35.0	34.5	34.9	34.4	34.3	34.0	34.3	33.8	34.1	34.0
	小6	37.9	37.0	38.4	38.0	39.4	38.7	39.4	38.6	38.8	38.4	38.3	37.7	38.4	38.0
	中1	43.4	42.7	44.0	43.4	44.9	44.0	45.1	44.6	44.5	43.5	43.9	43.4	44.0	43.4
	中2	48.7	47.9	49.3	48.7	50.2	49.6	50.3	49.7	49.5	48.8	48.8	48.3	48.8	48.5
	中3	54.1	53.6	54.7	54.4	55.2	54.7	55.4	54.8	54.9	54.8	54.0	53.9	54.0	53.8
女	小1	21.0	20.8	21.2	21.0	21.3	21.1	21.2	20.9	21.0	21.0	20.9	20.8	20.9	20.6
	小2	23.6	23.3	23.8	23.3	23.8	23.5	23.8	23.5	23.6	23.4	23.5	23.2	23.5	23.4
	小3	26.4	26.2	26.8	26.4	27.0	26.6	26.9	26.5	26.6	26.4	26.4	26.0	26.4	26.4
	小4	29.8	29.3	30.2	29.6	30.6	30.2	30.5	30.0	30.1	30.2	30.0	29.9	30.0	29.9
	小5	33.9	33.3	34.4	33.9	35.0	34.9	34.7	34.3	34.4	33.8	34.0	33.6	34.1	34.1
	小6	38.7	38.3	39.4	39.1	40.1	39.8	40.0	39.7	39.3	38.7	39.0	38.5	39.1	38.8
	中1	43.8	43.4	44.2	44.0	44.9	44.1	44.8	44.4	44.2	43.6	43.7	43.3	43.7	43.2
	中2	47.4	47.2	47.9	47.4	48.3	48.1	48.1	47.9	47.7	47.3	47.1	47.2	47.2	47.0
	中3	50.0	50.6	50.4	50.1	50.6	50.4	50.9	50.6	50.4	50.4	49.9	50.1	49.9	50.2

3 座高 ※平成 28 年度より廃止

		平成元年度		平成 5 年度		平成 10 年度		平成 15 年度		平成 20 年度		平成 25 年度		平成 30 年度	
		全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市
男	小 1	65.3	64.9	65.2	64.7	65.1	64.6	65.0	64.7	65.0	64.7	64.8	64.4	-	-
	小 2	67.9	67.6	67.8	67.4	67.8	67.6	67.7	67.2	67.7	67.5	67.6	67.1	-	-
	小 3	70.3	70.1	70.4	70.0	70.4	70.1	70.4	69.8	70.3	70.0	70.2	70.0	-	-
	小 4	72.7	72.3	72.7	72.6	72.8	72.4	72.8	72.3	72.8	72.3	72.6	71.5	-	-
	小 5	74.8	74.6	75.1	74.8	75.2	75.0	75.1	74.8	75.0	74.6	75.0	74.4	-	-
	小 6	77.3	77.0	77.6	77.4	77.9	77.6	77.9	77.3	77.8	77.3	77.6	76.9	-	-
	中 1	80.6	80.4	80.9	81.0	81.4	80.9	81.3	81.1	81.4	80.8	81.2	80.7	-	-
	中 2	84.2	83.7	84.5	84.4	84.9	84.4	85.0	84.6	85.0	84.5	84.8	84.2	-	-
	中 3	87.4	87.1	87.6	87.7	87.8	87.5	88.1	87.7	88.2	88.0	88.1	87.8	-	-
女	小 1	64.9	64.4	64.8	64.3	64.7	64.3	64.6	64.2	64.6	64.2	64.4	64.1	-	-
	小 2	67.5	67.1	67.4	67.1	67.4	67.0	67.4	67.0	67.3	66.9	67.3	66.8	-	-
	小 3	70.0	69.8	70.1	69.7	70.1	69.8	70.1	69.6	70.0	69.6	69.9	69.4	-	-
	小 4	72.6	72.2	72.7	72.4	72.9	72.5	72.8	72.3	72.8	72.5	72.8	71.7	-	-
	小 5	75.6	75.3	75.9	75.5	76.2	75.9	76.0	75.6	76.0	75.6	75.8	75.5	-	-
	小 6	78.8	78.6	79.1	79.3	79.5	79.3	79.5	79.1	79.3	78.8	79.3	78.8	-	-
	中 1	81.9	81.9	82.0	81.9	82.3	81.9	82.2	81.8	82.2	81.7	82.1	81.7	-	-
	中 2	83.6	83.3	83.7	83.4	83.9	83.6	83.8	83.5	83.8	83.6	83.8	83.6	-	-
	中 3	84.5	84.4	84.6	84.4	84.7	84.5	84.8	84.7	84.9	84.9	84.9	84.9	-	-

4 胸囲 ※平成 7 年度より廃止

		平成元年度		平成 5 年度		平成 10 年度		平成 15 年度		平成 20 年度		平成 25 年度		平成 30 年度	
		全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市	全国	豊橋市
男	小 1	58.0	57.4	58.2	57.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小 2	60.2	60.0	60.4	60.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小 3	62.6	62.3	62.9	62.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小 4	65.2	65.0	65.5	65.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小 5	67.7	67.6	68.2	67.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小 6	70.5	70.0	71.0	70.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中 1	73.9	73.9	74.3	74.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中 2	77.1	76.5	77.4	77.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中 3	80.5	79.7	80.9	80.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女	小 1	56.6	56.2	56.8	56.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小 2	58.8	58.5	59.0	58.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小 3	61.2	61.0	61.5	61.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小 4	63.9	63.6	64.3	65.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小 5	67.2	66.8	67.7	67.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小 6	71.1	70.8	71.7	71.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中 1	75.3	75.0	75.8	75.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中 2	77.8	77.8	78.3	78.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中 3	79.7	80.0	80.2	80.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

歴代教育長及び教育委員（平成分）

【教育長】

氏名	教育長期間
兵東 政夫	S63.10. 1 ~ H 4. 9.30
古山 保夫	H 4.10. 1 ~ H 9. 3.31
河合 康道	H 9. 4. 2 ~ H12. 9.30
地宗 一郎	H12.10. 1 ~ H16. 9.30
加藤 正俊	H16.10. 1 ~ H28. 3.31
山西 正泰	H28. 4. 1 ~

【教育委員】

氏名	委員長期間※	委員期間
金田 玲亮	S58.10. 1 ~ S61.12.25	S56.12.26 ~ H 1.12.25
福井 敏規	S61.12.26 ~ H 3. 9.30	S59.10. 1 ~ H 4. 9.30
藤井 昌子		S61.10. 1 ~ H 2. 9.30
松井 慶夫	H 3.10. 1 ~ H 5. 9.30	S62.10. 1 ~ H 7. 9.30
佐藤 敬治	H 5.10. 1 ~ H 7.12.25	H 1.12.26 ~ H 9.12.25
羽田野 妙子		H 2.10. 1 ~ H 6. 9.30
荒木 義夫	H 7.12.26 ~ H10. 9.30	H 4.10. 1 ~ H12. 9.30
大塚 昌代		H 6.10. 1 ~ H10. 9.30
林 英之	H10.10. 1 ~ H11. 9.30	H 7.10. 1 ~ H11. 9.30
白井 正己	H11.10. 1 ~ H13. 9.30	H 9.12.26 ~ H13.12.25
長屋 孝美	H14.10. 1~ H15. 9.30	H11.10. 1 ~ H15. 9.30
杉原 敏雄		H12.10. 1 ~ H16. 9.30
大久保 裕美子		H13.12.26 ~ H17.12.25
大竹 慶子	H13.10. 1 ~ H14. 9.30 H15.10. 1 ~ H17. 9.30	H10.10. 1 ~ H18. 9.30
田中 八郎	H17.10. 1 ~ H18. 9.30	H15.10. 1 ~ H19. 9.30
福井 英輔	H18.10. 1 ~ H20. 9.30	H16.10. 1 ~ H20. 9.30
芳賀 亜希子	H20.10. 1 ~ H21. 9.30 H24.10. 1 ~ H25. 9.30	H17.12.26 ~ H29.12.25
海老澤 聖子	H21.10. 1 ~ H22. 9.30	H18.10. 1 ~ H22. 9.30
木下 治	H22.10. 1 ~ H23. 9.30 H26.10. 1 ~ H27. 9.30	H19.10. 1 ~ H27. 9.30
村井 總一郎	H23.10. 1 ~ H24. 9.30 H25.10. 1 ~ H26. 9.30	H20.10. 1 ~ H26. 9.30
檉村 愛子		H22.10. 1 ~ H24.12.31
朝倉 由美子	H27.10. 1 ~ H28. 3.31	H25. 1. 1 ~ H30. 9.30
高橋 豊彦		H26.10. 1 ~
渡辺 嘉郎		H27.10. 1 ~
内浦 有美		H29.12.26 ~
中島 美奈子		H30.10. 1 ~

＜教育委員会の概要＞

教育委員会は、政治から独立した行政の中立的な運営を確保するための行政委員会であり、教育長と4人の委員で構成されている。教育委員会の会議は原則として、毎月1回開催する定例会及び臨時的に会議に付すべき事案が生じた場合などに開催する臨時会から成り立っている。

教育長は、市長が議会の同意を得たうえで任命し、教育委員会の代表として、教育委員会の権限に属するすべての事務をつかさどり、任期は3年で再任が認められている。

教育委員は、市長の被選挙権を有し、人格が高潔で、教育、学術、文化に関し識見を有する者の中から、市長が議会の同意を得て任命し、任期は4年で再任が認められている。

※教育委員長は、教育委員の互選により選出される教育委員会の代表及び役職であり平成28年の法改正により廃止となった。

美術博物館の企画展

年		企画展内容
(平成)	(西暦)	
元	1989	豊橋・南通友好都市提携記念「范曾美術名品展」
元	1989	石河彦男展
元	1989	開館10周年記念特別展Ⅰ「吉田城と歴代城主」
元	1989	開館10周年記念特別展Ⅱ デンマーク・オードロップゴー美術館所蔵「19世紀フランス印象派展」
2	1990	第23回現代美術選抜展
2	1990	郷土画人展「渡辺小華の弟子たち(2)」
2	1990	棟方志功 海道・旅の世界展
2	1990	正宗寺所蔵「長澤芦雪展」
2	1990	埋蔵文化財新出土品展
2	1990	平川敏夫展
2	1990	サントリー美術館所蔵品展「ガラスの美」
3	1991	豊橋市美術博物館収蔵品展「中村正義・高須光治」
3	1991	愛知県美術館所蔵絵画名品展
3	1991	郷土画人展「長尾華陽・渡辺如山」
3	1991	新収蔵品展
3	1991	東京国立近代美術館所蔵「近代洋画の名作」
3	1991	竹内コレクション展－郷土の画人－
3	1991	牧野圭一ユーモアART展
3	1991	嵯峨御所大覚寺の名宝展
3	1991	高須光治没後一周年 高須光治と草土社展
4	1992	郷土画人展「渡辺小華の弟子たち(3)」
4	1992	大森運夫展
4	1992	1992「両洋の眼・現代の絵画」
4	1992	埋蔵文化財新出土品展
4	1992	森清治郎展
4	1992	華麗なるバロック絵画「ワルシャワ国立美術館展」
5	1993	郷土画人展「渡辺小華の弟子たち(4)」
5	1993	武者小路実篤展
5	1993	豊橋市美術博物館収蔵品展
5	1993	常設企画展「古地図展」
5	1993	山種美術館所蔵「日本画の巨匠展」
5	1993	愛知県陶磁資料館所蔵「日本のやきもの－美と心－」
5	1993	開館15周年記念特別展「日本近代洋画の歩み」
5	1993	第27回現代美術選抜展
6	1994	郷土画人展Ⅰ「石峰・文笠・圭岳・拳山とその時代」
6	1994	豊橋市美術博物館収蔵品展
6	1994	森緑翠展
6	1994	1994「両洋の眼・現代の絵画」
6	1994	三遠南信文化交流展Ⅰ浜松市美術館所蔵「泥絵と石版画」
6	1994	吉田城址発掘出土品展
6	1994	福富太郎コレクション 近代美人画名作展「女性の美」

年		企画展内容
(平成)	(西暦)	
7	1995	豊橋市美術博物館収蔵品展「中村正義・野田弘志」
7	1995	民俗資料による「人々の生活と暮らし展」
7	1995	デュフィ展
7	1995	没後10年よみがえる女神たち「有元利夫の世界展」
7	1995	終戦50周年記念展「戦中の市民生活と戦後豊橋の歩み」
7	1995	世界公園フェスティバル'95協賛「花博・花と緑の日本画展」
7	1995	三遠南信文化交流展Ⅱ 飯田市美術博物館所蔵「菱田春草と伊那谷の作家たち」
8	1996	マリー・ローランサン展
8	1996	豊橋市美術博物館収蔵品展
8	1996	市制施行90周年記念「印象派の巨匠展－ケルン市立美術館所蔵－」
8	1996	記憶の痕跡「星野真吾展」
8	1996	国立博物館・美術館巡回展「日本と東洋の美」
9	1997	豊橋市美術博物館収蔵品展「大森運夫」
9	1997	市制施行90周年記念「没後20年中村正義展」
9	1997	MOA美術館所蔵浮世絵版画名品展「風俗版画の300年」
9	1997	1997「両洋の眼・現代の絵画」
9	1997	三河国吉田名蹤綜録の世界展
9	1997	豊橋市美術博物館収蔵品展
9	1997	新発見考古速報展 発掘された日本列島'97
9	1997	創画会50周年記念展
10	1998	目黒雅叙園美術館コレクション「美人画にみる風俗－昭和前期－」
10	1998	豊橋市美術博物館収蔵品展「星野真吾とパンリアル美術協会」
10	1998	無垢と自由の芸術「ミロ展（太陽・月・星・鳥と女たち）」
10	1998	日本－ロシア 明治を生きた女性アイコン画家「山下りんとその時代展」
10	1998	文化の伝承 江戸から現代へ「華麗なる能装束の美」
11	1999	ベルギー・ゲント美術館展「17世紀フランドル絵画からベルギー象徴主義」
11	1999	六大浮世絵師名品展－春信・清長・歌麿・写楽・北斎・広重－
11	1999	豊橋市美術博物館収蔵品展「日本画の6人」
11	1999	開館20周年記念特別展「菅江真澄展」
11	1999	第1回トリエンナーレ豊橋「明日の日本画を求めて」
11	1999	大口コレクション展「日本の郷土玩具と世界の民俗玩具」
12	2000	没後70年児島虎次郎展／同時開催＝特別展観「大原美術館の名品」
12	2000	開館20周年記念特別展「海道をゆく－渥美半島の考古学－」
12	2000	日本列島クロニクル「東松照明の50年」
12	2000	豊橋市美術博物館収蔵品展「20年のあゆみ」
12	2000	富安昌也展
12	2000	豊橋の寺宝Ⅰ 文化財保護法50周年記念「東観音寺展」
12	2000	箱根・芦ノ湖 成川美術館所蔵「現代日本画名品展」
13	2001	東海道宿駅設置400周年記念「歴史の道－東海道展－」
13	2001	仲谷孝夫展
13	2001	豊橋市美術博物館収蔵品展「人のかたち」
14	2002	シアトルからの里帰り グリフィス&パトリス・ウェイコレクション「近代の京都画壇」
14	2002	豊橋の寺宝Ⅱ「普門寺・赤岩寺展」

年		企画展内容
(平成)	(西暦)	
14	2002	華やぐパリの芸術家たち展－印象派、エコール・ド・パリから現代までの足跡をたどる－
14	2002	北澤美術館所蔵「アール・ヌーヴォー ガラス名品展」
14	2002	豊橋の寺宝Ⅲ「正宗寺展」
14	2002	第2回トリエンナーレ豊橋「星野真吾賞展－明日の日本画を求めて－」
14	2002	豊橋市美術博物館収蔵品展「鈴木充コレクション」
15	2003	豊橋市美術博物館収蔵品展「森田家文庫」
15	2003	情念の緋色「高畑郁子展」
15	2003	卒寿記念展「佐藤忠良」－70年の歩み・アトリエの中から－
15	2003	豊橋市美術博物館収蔵品展「景－Landscape－」
15	2003	小嶋コレクション展－郷土玩具のぬくもり－
15	2003	おかげまいりとええじゃないか
15	2003	17世紀オランダ市民の時代「フランス・ハルスとハールレムの画家たち展」
16	2004	豊橋近代日本画展－明治から昭和初期に活躍した東三河の日本画家たち－
16	2004	歴史の風景－遺跡からのメッセージ－
16	2004	遙かなる旅路「平松礼二展」
16	2004	姉妹都市交流展「トリードのアーティストたち」
16	2004	院展を築いた4人の巨匠－大観・春草・観山・武山－
16	2004	豊橋市美術博物館収蔵品展「静物画の愉しみ」
17	2005	新潟市美術館所蔵名品展「20世紀絵画の魅力」－空間をみつめるまなざし－
17	2005	鈴木良典コレクション展「土人形の輝き」
17	2005	豊橋市美術博物館「新」収蔵品展
17	2005	京都国立近代美術館所蔵名品展「京都」近代日本画のあゆみ
17	2005	豊橋市美術博物館収蔵品展「顔」／同時開催＝小企画展「中村正義の〈顔〉」
17	2005	クールベ美術館展－クールベと周辺の画家たち－
17	2005	市制施行100周年記念事業 築城500年記念展「吉田城と城下町」
17	2005	第3回トリエンナーレ豊橋「星野真吾賞展－明日の日本画を求めて－」
18	2006	中村光雄コレクション展－独楽のある旅－
18	2006	豊橋市美術博物館「新」収蔵品展
18	2006	日本画にみる富士と桜－富士の競作、桜の饗宴－
18	2006	水越武写真展－大地への想い－
18	2006	市制施行100周年記念展「豊橋の風景－歴史を語るものたち－」
18	2006	造形集団 海洋堂の軌跡－サブカルチャーと現代－
18	2006	市制施行100周年記念展「豊橋市美術博物館 絵画名品100選」
19	2007	欧米に魅せられた画家たち－収蔵品を中心に－
19	2007	山形・後藤美術館所蔵「ヨーロッパ絵画名作展」－宮廷絵画からバルビゾン派へ－
19	2007	豊橋市美術博物館「新」収蔵品展
19	2007	野田弘志展－写実の彼方に－
19	2007	豊橋魚町・能狂言面と装束展
19	2007	千總コレクション「京の優雅－小袖と屏風－」
20	2008	豊橋市美術博物館収蔵品展「花鳥風月」
20	2008	豊橋市美術博物館「新」収蔵品展
20	2008	生誕290年木喰展－庶民の信仰・微笑仏－
20	2008	こどものとも絵本原画展

年		企画展内容
(平成)	(西暦)	
20	2008	第4回トリエンナーレ豊橋「星野眞吾賞展－明日の日本画を求めて－」
20	2008	開館30年記念「上村松園・松篁・淳之展」－いのちの煌めき、美人画と花鳥画－
21	2009	豊橋市美術博物館収蔵品展「物語る絵画」
21	2009	豊橋市美術博物館「新」収蔵品展
21	2009	豊橋の仏典
21	2009	開館30周年記念展「ターナーから印象派へ」－光の中の情景－
21	2009	トリック・アートの世界
21	2009	開館30周年記念 三遠南信交流展「ミュージアム・サミット 美の競演」
22	2010	愛知県美術館 平成21年度移動美術館「ひかり・いろ・かたち」
22	2010	豊橋市美術博物館「新」収蔵品展
22	2010	松井守男回顧展－コルシカに生き、光を描く－
22	2010	印刷物にみる豊橋の近代「すりもの展」－錦絵・引札・包装紙－
22	2010	愛知県指定天然記念物「葦毛湿原」
22	2010	パリを愛した孤独の画家「モーリス・ユトリロ」
23	2011	豊橋市美術博物館収蔵品展「2000-2010」
23	2011	豊橋市美術博物館「新」収蔵品展
23	2011	カンヴァスに描かれた女性たち
23	2011	夏休み企画展「素材の冒険」
23	2011	三遠南信文化交流展「黄金の世紀」
23	2011	郷土画人展Ⅱ「渡辺小華とその時代」
23	2011	第5回トリエンナーレ豊橋「星野眞吾賞展－明日の日本画を求めて－」
24	2012	豊橋市美術博物館収蔵品展「平川敏夫と大森運夫」
24	2012	豊橋市美術博物館「新」収蔵品展
24	2012	文化人・芸能人の多才な美術展（共催）
24	2012	戦後映画の黄金期－豊橋の映画館－
24	2012	夏休み企画展「自然と幻想の博物誌」
24	2012	F氏の絵画コレクション－福沢一郎から奈良美智世代－
24	2012	近代日本画の名作－描かれた日本の美－
24	2012	豊橋市美術博物館収蔵品展「中村正義をめぐって」
25	2013	鬼・オニ・ONI展
25	2013	豊橋市美術博物館「新」収蔵品展
25	2013	生誕120年木村莊八展
25	2013	夏休み企画展・収蔵品展「こわい絵」
25	2013	培広庵コレクション「雪月花－美人画の四季－」
26	2014	豊橋市美術博物館収蔵品展「墨のいろ－モノクロームの世界に遊ぶ－」
26	2014	柴田家文書展「吉田藩士の地図コレクション－地域から世界をみる－」
26	2014	ハローキティアート展
26	2014	追悼「富安昌也展」－慈しみの風景、自然美と人間－
26	2014	豊橋市美術博物館「新」収蔵品展
26	2014	開館35周年記念 安野光雅「旅の絵本」の世界展
26	2014	嵩山蛇穴と縄文のはじまり
26	2014	第6回トリエンナーレ豊橋「星野眞吾賞展－明日の日本画を求めて－」
26	2014	豊橋の金工

年		企画展内容
(平成)	(西暦)	
26	2014	開館35周年記念 ウッドワン美術館所蔵「近代日本の絵画名品展」
26	2014	小松コレクション「中村正義展」
27	2015	パナソニック汐留ミュージアム所蔵「ジョルジュ・ルオー展」
27	2015	豊橋市美術博物館「新」収蔵品展
27	2015	軍隊と豊橋
27	2015	岡本太郎と中村正義「東京展」
27	2015	生誕120年 武井武雄の世界展
28	2016	豊橋市美術博物館収蔵品展「color rooms」
28	2016	模型の魅力展－タミヤとファインモールド－
28	2016	大般若経展
28	2016	豊橋市美術博物館「新」収蔵品展
28	2016	描く！マンガ展－名作を生む画技に迫る－
28	2016	丸沼芸樹の森所蔵「アンドリュー・ワイエス 水彩・素描展」
28	2016	市制施行110周年記念「放浪の天才画家 山下清展」
28	2016	市制施行110周年・美博リニューアル記念展「NIHON画－新たな地平を求めて－」
29	2017	市制施行110周年記念「普門寺と国境のほとけ展」
29	2017	市制110周年記念「豊橋・ヴォルフスブルグ交流展」
29	2017	豊橋市美術博物館収蔵品展「没後10年平川敏夫展」
29	2017	豊橋市美術博物館「新」収蔵品展
29	2017	第7回トリエンナーレ豊橋「星野眞吾賞展－明日の日本画を求めて－」
29	2017	漫画界のレジェンド「松本零士展」
29	2017	ニッポンの写実 そっくりの魔力
29	2017	東海大土偶展
29	2017	豊橋の寺子屋展
30	2018	豊橋市美術博物館収蔵品展「生誕100年森緑翠と白土会」
30	2018	ウィリアム・モリス－原風景でたどるデザインの軌跡－
30	2018	受贈記念「星野眞吾・高畑郁子 二人の足跡」
30	2018	岸田劉生展
30	2018	みかわの城 －吉田城と天下人－
30	2018	北澤美術館所蔵「ルネ・ラリックの香水瓶－アール・デコ、香りと装いの美－」
30	2018	とよはしの豪族－さとがえり・牟呂王塚古墳と姫塚古墳－
31	2019	国立国際美術館コレクション展「美術のみかた 自由自在」
31	2019	吉田天王社と神主石田家
令和元	2019	開館40周年記念「魔法の美術館」
令和元	2019	「豊橋」をものがたる100点
令和元	2019	開館40周年記念 豊橋市美術博物館コレクション名品展「ナイン・ストーリーズ」
令和元	2019	遺跡でブラトヨハン展

二川宿本陣資料館の企画展

年		企画展内容
(平成)	(西暦)	
3	1991	開館記念特別展「東海道五十三次」
3	1991	開館記念特別展Ⅱ 江戸時代の工芸Ⅰー古田コレクションよりー
4	1992	郷土資料展Ⅰー二川宿本陣馬場家文書ー
4	1992	広重の世界「六十余州名所図会」
4	1992	岩屋観音と大岩寺展
4	1992	江戸時代の工芸Ⅱー古田コレクションー
5	1993	郷土資料展Ⅱー田村家文書ー
5	1993	東海道五十三次宿場展Ⅰー日本橋・品川・川崎ー
5	1993	古地図展
5	1993	春乙桜と紫陽花塚の寺「妙泉寺展」
5	1993	江戸時代の工芸Ⅲー古田コレクションよりー
6	1994	郷土資料展Ⅲー二川区有文書ー
6	1994	東海道五十三次宿場展Ⅱー神奈川・保土ヶ谷・戸塚・藤沢ー
6	1994	大名の宿「本陣展」
6	1994	鎌倉街道と頼朝伝説の寺「普門寺展」
6	1994	江戸時代の工芸Ⅳー古田コレクションよりー
7	1995	郷土資料展Ⅳー山本家・大岩区有文書ー
7	1995	東海道五十三次宿場展Ⅲー平塚・大磯・小田原・箱根ー
7	1995	浮世絵に描かれた三遠の東海道展
7	1995	江戸時代の名所案内「名所図会展」
7	1995	「漆工芸の美」展
8	1996	郷土資料展Ⅴー紅林家文書ー
8	1996	東海道五十三次宿場展Ⅳー三島・沼津・原・吉原ー
8	1996	二川宿古写真展
8	1996	浮世絵に見る江戸の旅展
8	1996	豊橋市制施行90周年・本陣資料館開館5周年記念特別展「本陣に泊まった大名たち」
9	1997	道中絵巻展
9	1997	東海道五十三次宿場展Ⅴー蒲原・由比・興津・江尻ー
9	1997	本陣の調度品展ー二川宿本陣馬場家ー
9	1997	広重の世界ー豎絵東海道展ー
9	1997	大名行列図展
9	1997	小華と幹梶展
10	1998	東海道五十三次宿場展Ⅵー府中・丸子・岡部・藤枝ー
10	1998	本陣の調度品展Ⅱー新居宿本陣飯田家ー
10	1998	道中双六展
10	1998	日本浮世絵博物館所蔵 北斎ー富嶽三十六景展ー
10	1998	最後の二川宿本陣主ー馬場梅土展ー
11	1999	東海道五十三次宿場展Ⅶー島田・金谷・日坂・掛川・袋井ー
11	1999	収蔵品展Ⅰー本陣に残された公家の和歌ー
11	1999	広重の世界ー狂歌入東海道展ー

年		企画展内容
(平成)	(西暦)	
11	1999	動物の旅展ーゾウとラクダーー
12	2000	本陣の調度品展Ⅲー草津宿本陣田中家ー
12	2000	東海道五十三次宿場展Ⅷー見附・浜松・舞坂・新居・白須賀ー
12	2000	郷土資料展Ⅵー田中家・大石家文書ー
12	2000	道中記に見る吉田・二川の名所展
12	2000	たべあるき東海道展
13	2001	東海道五十三次宿場展Ⅸー二川・吉田ー
13	2001	写真に見る東海道展
13	2001	弥次喜多東海道展
13	2001	開館10周年記念「琉球使節」展
14	2002	東海道五十三次宿場展Ⅹー御油・赤坂・藤川・岡崎ー
14	2002	ー消えた村と町ー本郷遺跡と草戸千軒町遺跡展
14	2002	本陣の調度品展Ⅳー土山宿本陣土山家ー
14	2002	道中日記展ー近世豊橋の旅人たちー
15	2003	東海道五十三次宿場展Ⅺー池鯉鮒・鳴海・宮・桑名ー
15	2003	吉田宿のおもかげ展ー写真と絵はがきからー
15	2003	旅道具の工夫展
15	2003	ー空から見た東海道ー五雲亭貞秀展
16	2004	東海道五十三次宿場展Ⅻー四日市・石薬師・庄野・亀山ー
16	2004	ふるさとの風景展ー絵図・地図・航空写真に見る豊橋ー
16	2004	「浮世絵版画を調べよう」展
16	2004	東海道の城下町展Ⅰ
17	2005	東海道五十三次ー屏風・浮世絵・道中図ー
17	2005	日本浮世絵博物館所蔵 浮世絵名品展ー美人・役者から風景へー
17	2005	三河国名所めぐり展
18	2006	東海道五十三次宿場展記号ⅩⅢー関・坂下・土山・水口ー
18	2006	絵葉書のなかの豊橋ー思い出の風景をたずねてー
18	2006	東海道名所風景展Ⅰ
18	2006	東海道の城下町展Ⅱ
19	2007	東海道五十三次宿場展ⅩⅣー石部・草津・大津・京ー
19	2007	本陣開設二百年記念ー二川宿本陣馬場家展ー
19	2007	水木しげるの妖怪道五十三次展
19	2007	池田遙邨展ー昭和東海道と山頭火ー
20	2008	東海道五十七次宿場展ー伏見・淀・枚方・守口・大坂ー
20	2008	レトロ豊橋の風景展ー豊橋市写真帖の世界ー
20	2008	ー没後20年ー関野準一郎の東海道五十三次展
20	2008	山下清の東海道五十三次展
21	2009	おひなさまと幸せのかたち展
21	2009	六十余州名所図会展ー広重の描いた諸国の名所ー
21	2009	鉄道開通ー列車に乗って東へ西へー
21	2009	装身具の美ー印籠・煙草入れ・髪飾りにみる江戸の装いー
22	2010	信仰の街道「秋葉道」展

年		企画展内容
(平成)	(西暦)	
22	2010	三人の広重展－初代・二代・三代広重の描いた東海道－
22	2010	三河・遠江の城郭展
22	2010	海の街道展－伊勢湾を渡る－
23	2011	絵図から地図へ－移り変わる豊橋の風景－
23	2011	開館20周年記念「棟方志功の東海道五十三次展」
23	2011	開館20周年記念「歴史の道－姫街道展－」
24	2012	絵葉書の中の豊橋Ⅱ
24	2012	歌麿とその時代展
25	2013	美濃路展
25	2013	葛飾北斎展
25	2013	愛知県美術館サテライト展示 川瀬巴水展
25	2013	「二川宿ゆかりの文人展－田村幹皋－」展
26	2014	お化け浮世絵展
26	2014	旅セヨ乙女
26	2014	午年から未年 干支と新春の遊び展
27	2015	東「貝」道五十七次展
27	2015	本陣に泊まった大名たちⅡ
27	2015	忠臣蔵浮世絵展
28	2016	伊豆守が行く
28	2016	判じ絵の世界
28	2016	申年から酉年 干支と新春の遊び展
29	2017	浮世絵ねこの世界展
29	2017	岡山藩主池田家と吉田・二川
29	2017	田原市博物館所蔵浮世絵名品展
30	2018	とよはしの旗本たち
30	2018	幕末明治の浮世絵探訪展
30	2018	戌年から亥年 干支と新春の遊び展
31	2019	「豊橋」をものがたる100点
31	2019	ジュディ・オング倩玉・木版画の世界展
31	2019	江戸時代の旅と温泉展

科学教育センターの企画展

年		企画展内容
(平成)	(西暦)	
6	1994	企画展「郷土の貝展」
7	1995	「郷土のミニ自然展」
8	1996	ミニ企画展「宮沢賢治と鉱物展」
12	2000	地下資源館開館20周年記念特別企画展「宝石になった鉱物」
14	2002	エネルギー体験館－みよう・ふれよう電気の世界－
15	2003	収蔵資料紹介展「原石と宝石－玉みがかざれば光なし－」
15	2003	企画展「小柴昌俊博士ノーベル賞と神岡鉱山展」
15	2003	収蔵資料紹介展「砂コレクション」
16	2004	科学巡回展「電気と光のおもしろ実験工房」
16	2004	ミニ展示「美しい石のかけらたち」
16	2004	収蔵資料紹介展「水晶の世界」
17	2005	巡回展「毛利宇宙飛行士の部屋展」
17	2005	科学巡回展「科学市場」
17	2005	企画展「パワーストーン 石のひみつ」
18	2006	ミニ展示「日本の鉱物」
18	2006	企画展「電気をつくろう」
19	2007	企画展「あなたもできる科学マジック」
20	2008	企画展「地球からのプレゼント－誕生石の産状と原石－」
20	2008	「わたしの実験ショータイム」コーナー開設
20	2008	学習支援展示「どんぐり展」
21	2009	企画展「国際宇宙ステーション－宇宙から地球をさぐる－」
21	2009	企画展「実験ショー☆パラダイス」
21	2009	企画展「太陽とこれからのエネルギー」
22	2010	企画展「実験ショー☆パラダイス2010」
22	2010	地下資源館開館30周年記念展「もったいない地上の地下資源とエネルギー」
23	2011	企画展「実験ショーパラダイス2011」
23	2011	巡回パネル展「地球から宇宙へ」
23	2011	企画展「視覚トリックの世界」
24	2012	企画展「実験ショーパラダイス2012」
24	2012	企画展「月－もっとも身近な天体－」
25	2013	企画展「実験ショーパラダイス2013」
25	2013	企画展「ジャンボすごろくで体感！！－日本の宇宙科学の歴史と未来－」
26	2014	企画展「実験ショーパラダイス2014」
26	2014	企画展「宇宙ペーパークラフト大集合」
27	2015	企画展「実験ショーパラダイス2015」
28	2016	巡回展「太陽のふしぎ」
28	2016	科学巡回展「電気の道」
29	2017	巡回展「切手で見る世界の科学技術の発展」
29	2017	企画展「実験ショーパラダイス2017」
30	2018	企画展「電気のふしぎ」

図書館の企画展

年 度		企画展内容
(平成)	(西暦)	
元	1989	グラフ雑誌で見る戦後史展Part I、Part II
元	1989	山岳図書展
元	1989	吉田を中心とした東海道展
元	1989	アンパンマンとその仲間たちの似顔絵展
元	1989	司文庫絵本展
2	1990	第6回手作り絵本展
2	1990	郷土近代文人展Ⅷ
2	1990	グラフ雑誌で見る戦後史展PartⅢ
2	1990	NHKスペシャル「オルセー美術館」複製画展
2	1990	姫街道展
2	1990	江戸時代の科学書展
2	1990	丸山薫記念展
3	1991	郷土近代文人展Ⅸ
3	1991	司文庫美術書名品展Part 1
3	1991	グラフ雑誌で見る戦後史展PartⅣ
3	1991	手塚治虫マンガ世界展
4	1992	郷土近代文人展Ⅹ
4	1992	司文庫美術書名品展Part 2・Part 3
4	1992	刺繍画展
4	1992	グラフ雑誌で見る戦後史展PartⅤ
4	1992	第1回「平和を求めて」資料展
4	1992	蔵書票展
4	1992	図書館創立80周年記念菅江真澄とふるさと展
5	1993	立原道造「手稿」展
5	1993	古地図展
5	1993	第2回「平和を求めて」資料展
5	1993	文学碑展
5	1993	道しるべ展
6	1994	郷土のわらべうた展
6	1994	三遠信方言資料展
6	1994	第3回「平和を求めて」資料展
6	1994	司文庫20周年記念展
6	1994	手作り絵本展
7	1995	鳥瞰図展
7	1995	五束斎木朶展
7	1995	第4回「平和を求めて」終戦50周年記念展
8	1996	校区郷土誌展
8	1996	戦後のベストセラー展
8	1996	郷土90年の歩み展
8	1996	第5回「平和を求めて」資料展

年 度		企画展内容
(平成)	(西暦)	
8	1996	小栗風葉と加藤竹寿展
8	1996	「ほの国」シネロマン97
9	1997	ドイツにおけるエコロジー資料展
9	1997	司文庫名作絵本展
9	1997	第6回「平和を求めて」資料展
9	1997	三遠南信地域資料展Ⅰ
10	1998	安井文庫開設記念資料展
10	1998	チンチン電車の通る街・豊橋展
10	1998	司文庫名作絵本展
10	1998	第7回「平和を求めて」資料展
10	1998	羽田八幡宮文庫開設150周年記念資料展
10	1998	生と死の不屈の詩人・岩瀬正雄展
11	1999	三遠南信地域資料展Ⅱ
11	1999	似顔絵ッセイ展
11	1999	写真集で紹介する東三河の自然と文化財
11	1999	第8回「平和を求めて」資料展
11	1999	百科事典の歴史展
11	1999	丸山薫生誕100年記念展
11	1999	司文庫開設25周年記念展
12	2000	三遠南信地域資料展Ⅲ
12	2000	岩瀬正雄現代詩文庫展
12	2000	第9回「平和を求めて」資料展
12	2000	「豊橋懐かしの風景」展
12	2000	「子ども読書年」記念展
12	2000	東三河の蘭学資料展
13	2001	司文庫絵本展
13	2001	三遠南信地域資料展Ⅳ
13	2001	司文庫展
13	2001	平和と寛容の国際絵本展「ハロー・ディア・エネミー！」
13	2001	第10回「平和を求めて」展
13	2001	「豊橋懐かしの風景」展
13	2001	アジアの絵本展
14	2002	三遠南信地域資料展Ⅴ
14	2002	司文庫展
14	2002	第11回「平和を求めて」展
14	2002	図書館創立90周年記念展
15	2003	三遠南信地域資料展Ⅵ
15	2003	司文庫名作絵本展
15	2003	第12回「平和を求めて」展
15	2003	昔の教科書展
16	2004	三遠南信地域資料展Ⅶ
16	2004	岩瀬正雄現代詩文庫新収図書展

年 度		企画展内容
(平成)	(西暦)	
16	2004	昔の新聞展 I
16	2004	第13回「平和を求めて」展
16	2004	司文庫開設30周年記念展
17	2005	三遠南信地域資料展VIII
17	2005	羽田八幡宮文庫所蔵名所図会展
17	2005	第14回「平和を求めて」展
17	2005	司文庫絵本展
18	2006	三遠南信地域資料展IX
18	2006	岡野薫子作品展
18	2006	司文庫絵本展
18	2006	第15回「平和を求めて」図書館資料展
18	2006	戦後のベストセラー展
19	2007	三遠南信地域資料展X
19	2007	子どものためのマンガ展
19	2007	司文庫展
19	2007	第16回「平和を求めて」図書館資料展
19	2007	東三河の鉄道展
20	2008	三遠南信地域資料展XI
20	2008	子どものためのマンガ展II
20	2008	司文庫展
20	2008	ふるさと自然の道（配本センター）
20	2008	第17回「平和を求めて」図書館資料展
20	2008	東三河の作家展
21	2009	三遠南信地域資料展XII
21	2009	見て・聞いて・読んで楽しむお話の世界展
21	2009	司文庫開設35周年記念展
21	2009	第18回「平和を求めて」図書館資料展
21	2009	百〈書〉繚乱—個人文庫の世界展—
22	2010	三遠南信地域資料展XIII
22	2010	司文庫展
22	2010	第19回「平和を求めて」図書館資料展
22	2010	新聞に見る戦後豊橋の歩み展
23	2011	三遠南信地域資料展XIV
23	2011	司文庫展
23	2011	第20回「平和を求めて」図書館資料展
23	2011	図書館のお宝大公開展
24	2012	三遠南信地域資料展XV
24	2012	開館100周年記念「100年たっても読みたい絵本」展
24	2012	司文庫展
24	2012	第21回「平和を求めて」図書館資料展
24	2012	開館100周年記念「百年の音の歴史」展
24	2012	開館100周年記念「豊橋市図書館100年のあゆみ」展（戦前・戦後編）

年 度		企画展内容
(平成)	(西暦)	
25	2013	三遠南信地域資料展XVI
25	2013	図書館新資料収蔵品展
25	2013	司文庫展「本でめぐる世界のMuseum」
25	2013	「平和を求めて」図書館資料展「本土決戦！その準備－郷土の戦争遺跡 沖縄の戦い－」
25	2013	失われた街・豊橋－豊橋空襲で焼失した街を復元する－
25	2013	豊橋の災害誌－過去の災害と防災－
25	2013	開館100周年記念誌刊行記念回顧展
26	2014	三遠南信地域資料展「ふるさとの妖怪をたずねて」
26	2014	東日本大震災／南海トラフ巨大地震パネル展
26	2014	生誕150年記念村井弦斎展
26	2014	開設40年司文庫展「洋書絵本のかわいい仲間たち」
26	2014	「平和を求めて」図書館資料展「郷土にのこる日露戦争の記憶－110年の節目に－」
26	2014	よみがえる街・豊橋－戦災復興と豊橋博－
26	2014	丸山薫没後40周年記念展
26	2014	ESDクイズ
27	2015	郷土史家豊田珍比古没後50周年記念展
27	2015	三遠南信地域資料展「ふるさとのご当地キャラクター」
27	2015	司文庫展「洋書絵本のMedalist－コールデコット賞－」
27	2015	「平和を求めて」図書館資料展「戦後70年 つなごう平和のバトン」
27	2015	図書館資料展「はばたく街・豊橋」
27	2015	「郷土を探る！豊橋っ子調べ学習コンクール」作品展示
27	2015	丸山薫パネル展
27	2015	図書館資料展「村井弦斎と食道楽展」
27	2015	図書館資料展「昭和・平成のおもちゃ展」
28	2016	三遠南信地域資料展「今昔 豊川と天竜川」
28	2016	司文庫展「没後30年 司忠氏を偲んで」
28	2016	「平和を求めて」図書館資料展「特攻は今」
28	2016	豊橋・田原市図書館連携パネル展「魅力対決！豊橋vs田原」
28	2016	「郷土を探る！豊橋っ子調べ学習コンクール」作品展示
28	2016	丸山薫パネル展
28	2016	図書館資料展「図書館のまんが展」
29	2017	図書館資料展「豊橋市図書館所蔵拓本資料展」
29	2017	三遠南信地域資料展「過去からの道 未来への道」
29	2017	司文庫展「在外至宝－海外へ渡った日本美術－」
29	2017	「平和を求めて」図書館資料展「あの戦争の片すみで」
29	2017	図書館資料展「豊橋のスポーツ－三遠ネオフェニックス展－」
29	2017	豊橋市図書館・田原市図書館連携 展示イベント「図書館員と書店員が選ぶガチ☆マンガ100」
29	2017	「郷土を探る！豊橋っ子調べ学習コンクール」作品展示
29	2017	丸山薫パネル展
29	2017	図書館資料展「明治の冒険家中村直吉」
30	2018	陸王豊橋ロケ風景写真展・ガチ☆マンガ100
30	2018	図書館資料展「ふるさと探訪－ふるさと城めぐり－」

年 度		企画展内容
(平成)	(西暦)	
30	2018	豊橋での創業を応援します@豊橋市中央図書館
30	2018	司文庫展「アール・ヌーヴォーとアール・デコの世界」
30	2018	「平和を求めて」図書館資料展「戦争と家族・仕事」
30	2018	図書館資料展「豊橋のスポーツー三遠ネオフェニックス展2018-2019ー」
30	2018	「郷土を探る！豊橋っ子調べ学習コンクール」作品展示
30	2018	丸山薫賞パネル展
30	2018	図書館資料展「明治150年 豊橋の近代を築いた者たち」
31	2019	図書館資料展「新収蔵品展」
31	2019	図書館資料展「ふるさと探訪ー続・ふるさと城めぐりー」
31	2019	豊橋での創業・SBを応援します@豊橋市中央図書館
31	2019	司文庫展「レオナルド・ダ・ヴィンチの生涯」
令和元	2019	とよはしアーカイブ公開記念「デジタル化した和装本・絵図・地図展」
令和元	2019	「平和を求めて とよはし」展「『語り』・『継ぐ』戦争体験ー昭和・平成から令和へー」
令和元	2019	図書館資料展「豊橋のスポーツ三遠ネオフェニックス2019-2020」
令和元	2019	丸山薫賞パネル展
令和元	2019	「郷土を探る！豊橋っ子調べ学習コンクール」作品展示
令和元	2019	図書館資料展「匠の技 ファインモールドの模型展」
令和2	2020	図書館資料展「内山金子とその時代展」

自然史博物館の企画展

年		企画展内容
(平成)	(西暦)	
元	1989	特別展「恐竜頭骨」
元	1989	特別展「J. H. ファーブル」
2	1990	特別展「ヒトのきた道」
2	1990	特別展「貝類の世界」
3	1991	特別企画展「よみがえる古生代の生きものたち」
4	1992	特別企画展「日本のチョウー地域の違いを追うー」
5	1993	特別企画展「今よみがえる恐竜の世界」
6	1994	特別企画展「地球たんけん」
7	1995	新着資料紹介展「哺乳動物の骨」
7	1995	特別企画展「魅惑の甲虫クワガタムシ」
7	1995	新着資料紹介展「サクラの仲間」
7	1995	新着資料紹介展「中央構造線の岩石と活断層分布図」
7	1995	新着資料紹介展「豊川市で発見された始良Tn火山灰」
8	1996	新着資料紹介展「阿江茂コレクション」
8	1996	市制施行90周年記念特別企画展「生命史20億年ーヒトのルーツをさぐるー」
8	1996	市制施行90周年記念特別企画展「ロシアのマンモス」
8	1996	新着資料紹介展「森部一雄コレクションの一部公開」
8	1996	新着資料紹介展「中央構造線露頭の現状と活断層分布図」
8	1996	新着資料紹介展「市民の皆様からの寄贈品（動物編）」
9	1997	新着資料紹介展「岐阜県中村累層産のタンスイカイメン化石」
9	1997	特別企画展「貝ー美しい形と模様ー」
9	1997	収蔵資料紹介展「高嶺の花たちー恒川氏寄贈標本よりー」
9	1997	収蔵資料紹介展「自然史博物館の宝物」
9	1997	収蔵資料紹介展「自然史博物館所蔵のクワガタムシ」
9	1997	収蔵資料紹介展「恐竜時代の植物たちー木村達明氏寄贈標本よりー」
10	1998	収蔵資料紹介展「トラの“意”をかる生物」
10	1998	開館10周年記念特別企画展「みせます博物館活動ー郷土の調査10年の歩みー」
10	1998	開館10周年記念特別企画展「地底たんけんー大地と地震のなぞをさぐれー」
10	1998	開館10周年記念特別企画展「バイカル湖と摩周湖の神秘にせまるー地球環境の未来を求めてー」
11	1999	収蔵資料紹介展「新着チョウ類紹介ー阿江茂氏寄贈標本よりー」
11	1999	特別企画展「雑木林の王者カブトムシ」
11	1999	収蔵資料紹介展「カブトムシー夏の特別企画展予告編ー」
11	1999	収蔵資料紹介展「日本の堆積岩」
11	1999	収蔵資料紹介展「本でたどる東三河の自然史」
11	1999	収蔵資料紹介展「カタツムリ」
12	2000	収蔵資料紹介展「竜（ドラゴン）の化石」
12	2000	収蔵資料紹介展「古生代の植物たち」
12	2000	特別企画展「おもしろ化石大百科」
12	2000	収蔵資料紹介展「東海湖の化石たち」
12	2000	収蔵資料紹介展「日本の変成岩」
12	2000	収蔵資料紹介展「赤トンボ」
12	2000	収蔵資料紹介展「食べられる貝」

年		企画展内容
(平成)	(西暦)	
13	2001	収蔵資料紹介展「へび・蛇(だ)・巳(へび)」
13	2001	収蔵資料紹介展「奥三河の葉っぱ化石」
13	2001	特別企画展「クワガタムシはなぜ黒い?—動物たちの色ものがたり—」
13	2001	収蔵資料紹介展「日本で最も美しい昆虫—タマムシの系統—」
13	2001	収蔵資料紹介展「赤・紫・黄色—カラフルなヒオウギガイの仲間—」
13	2001	収蔵資料紹介展「水辺の植物—恒川敏雄氏寄贈標本より—」
13	2001	収蔵資料紹介展「目に見えない化石の世界(放散虫化石編)」
14	2002	収蔵資料紹介展「ザ・馬—ウマのルーツをたどる—」
14	2002	収蔵資料紹介展「石になった木—珪花木—」
14	2002	収蔵資料紹介展「新種となった標本—タイプ標本って何?—」
14	2002	特別企画展「マグマのぼうけん—月の石と大地のひみつをさぐる—」
14	2002	収蔵資料紹介展「いん石と世界最古の岩石」
14	2002	収蔵資料紹介展「みんな知ってる帰化植物」
14	2002	収蔵資料紹介展「集めたものいろいろ—糸魚川コレクションより—」
15	2003	収蔵資料紹介展「毒を持つ貝—イモガイの仲間—」
15	2003	特別企画展「アゲハチョウ—遺伝の秘密ABC—」
15	2003	企画展「小柴昌俊ノーベル賞展」
15	2003	収蔵資料紹介展「みのがすな!夏の特別企画展」
15	2003	収蔵資料紹介展「どんぐり展」
15	2003	干支展「猿でご申(ざる)」
16	2004	収蔵資料紹介展「標本となったせきつい動物」
16	2004	特別企画展「恐竜後の世界—よみがえる新生代の生きものたち—」
16	2004	収蔵資料紹介展「愛知県の湿地の植物」
16	2004	干支展「酉じゃないトリ」
17	2005	平成16年度新着資料紹介展
17	2005	収蔵資料紹介展「穂積俊文氏寄贈甲虫コレクション」
17	2005	特別企画展「よみがえれ!愛知の生きものたち」
17	2005	愛知万博連携事業 5300万年前から来た男「アイスマン展」
17	2005	第1回自然史博物館自由研究展(※以降毎年1回開催)
17	2005	収蔵資料紹介展「森部一雄氏寄贈貝類コレクション」
17	2005	収蔵資料紹介展「地下世界の地図—地質図—」
17	2005	干支展「戌もあるけば・・・」
18	2006	平成17年度新着資料紹介展
18	2006	市制施行100周年記念事業「ユカギルマンモスミュージアム」
18	2006	市制施行100周年記念事業「とよはし高師小僧フェスタ」
18	2006	市制施行100周年記念事業特別企画展「恐竜と生命の大進化—中国雲南5億年の旅—」
18	2006	収蔵資料紹介展「カブトムシ」
18	2006	干支展「猪亥(ちょい)っとイノシン」
19	2007	平成18年度新着資料紹介展
19	2007	特別企画展「ホネホネ大行進—骨学のススメ—」
19	2007	収蔵資料紹介展「中野善雄コレクション」
19	2007	干支展「ねずみにチューもく」
20	2008	平成19年度新着資料紹介展
20	2008	特別企画展「シーラカンス—ブラジルの化石と大陸移動の証人たち—」

年		企画展内容
(平成)	(西暦)	
20	2008	収蔵資料紹介展「有田豊氏寄贈ガ類コレクション」
20	2008	収蔵資料紹介展「岡村喜明氏寄贈化石コレクション」
20	2008	干支展「牛に魅(ひ)かれて博物館」
21	2009	平成20年度新着資料紹介展
21	2009	特別企画展「大むしむし博」
21	2009	収蔵資料紹介展「足元の地面を探る」
21	2009	収蔵資料紹介展「ボランティアさんをつくった骨格標本」
21	2009	干支展「虎の子みせます」
22	2010	平成21年度新しく博物館に来た標本展
22	2010	科博コラボ・ミュージアムin豊橋「水晶」
22	2010	特別企画展「キラキラ水晶展」
22	2010	企画展「渥美半島の化石と地質」
22	2010	企画展「干潟の生き物」
22	2010	豊橋・東三河COP10サポート事業「ケナガマンモスの全身骨格標本特別展示」
22	2010	干支展「卯・兎・ウサギ」
23	2011	平成22年度新しく博物館に来た標本展
23	2011	特別企画展「おもしろサメ博」
23	2011	企画展「表浜の生きもの」
23	2011	企画展「デアアスーカザリシロチョウの世界ー」
23	2011	干支展「たつ」
24	2012	企画展「ゾウの進化」
24	2012	平成23年度新しく博物館に来た標本展
24	2012	特別企画展「でっかい動物化石」
24	2012	企画展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」
24	2012	干支展「巳・蛇・ヘビ(へび・だ・へび)」
25	2013	企画展「関節」
25	2013	企画展「新しく博物館に来た標本展」
24	2012	トピック展示「修復を終えた被災昆虫標本」
25	2013	特別企画展「はてな?なるほど!ザ・カタツムリ」
25	2013	企画展「愛知県から消えた昆虫」
25	2013	企画展「東三河のジオサイト」
25	2013	企画展「サイエンス・イラストレーション」
25	2013	干支展「いろいろなウマ」
26	2014	企画展「動く恐竜と小田隆復元原画展」
26	2014	企画展「新発見!新標本!」
26	2014	トピック展示「ゴカクウミユリと合格海百合の葉」
26	2014	特別企画展「大地のめぐみとその魅力」
26	2014	企画展「教授を魅了した大地の結晶 北川隆司鉱物コレクション」
26	2014	企画展「ダンボール・アニマルワールドinのんほいパーク」
26	2014	企画展「毛皮ーフラットスキン標本となったけものたちー」
26	2014	干支展「アンモーンの石」
27	2015	企画展「オニ」
27	2015	企画展「平成26年度の新標本、新発見」
27	2015	トピック展示「総合動植物公園内で見られるセミとカタツムリ」

年		企画展内容
(平成)	(西暦)	
27	2015	トピック展示「ゴカクウミユリと合格海百合の葉」
27	2015	特別企画展「天空を制した巨大翼竜と鳥たち」
27	2015	企画展「日本の生物多様性とその保全」
27	2015	企画展「日本のトンボ・愛知県のトンボ」
27	2015	干支展「サル」
28	2016	企画展「ナキウサギ」
28	2016	企画展「新着資料展2015年度」
28	2016	トピック展示「トヨハシヒメカタゾウムシ」
28	2016	特別企画展「メガ恐竜展in豊橋」(市制施行110周年事業)
28	2016	企画展「ミニ水族館」
28	2016	企画展「極小昆虫と微小貝」
28	2016	干支展「酉にちなむ」
29	2017	企画展「平成28年度自然史博物館新蔵標本」
28	2016	トピック展示「愛知県の石」
29	2017	特別企画展「武器甲虫－クワガタ、カブトの進化を探る－」
29	2017	企画展「ボランティアが作った科学教材」
29	2017	企画展「丸山隆写真展 ホンドテン」
29	2017	干支展「戌－イヌにちなむ－」
30	2018	企画展「平成29年度自然史博物館新蔵標本」
29	2017	トピック展示「ナメクジウオ、スナガイ」
29	2017	トピック展示「総合動植物公園内で見られるカタツムリ」
29	2017	トピック展示「総合動植物公園内で見られるセミ」
29	2017	トピック展示「総合動植物公園内で見られるドングリ」
30	2018	開館30周年記念特別企画展「体感！恐竜ワールド」
30	2018	企画展「自然史博物館30年のあゆみ」
30	2018	企画展「博物館のウラワザ」
30	2018	干支展「亥－猪口つとイノシシー」
31	2019	企画展「ヘビー級標本」
30	2018	トピック展示「発見！新種巻貝化石」
30	2018	トピック展示「総合動植物公園内で見られるカタツムリ」
30	2018	トピック展示「総合動植物公園内で見られるセミ」
30	2018	トピック展示「キタミトホシカミキリ」
31	2019	トピック展示「宇宙からの訪問者 長良隕石」
31	2019	特別企画展「深海の玉手箱」
31	2019	企画展「新収蔵資料紹介展」
令和元	2019	企画展「世界のタガメ」
令和元	2019	企画展「ジオパークを知ろう！」
令和元	2019	トピック展示「総合動植物公園内で見られるカタツムリ」
令和元	2019	トピック展示「総合動植物公園内で見られるセミ」
令和元	2019	トピック展示「骨を愛でる－のんほいパークの至宝展－」
令和元	2019	企画展「豊橋周辺の植物化石」
令和元	2019	企画展「子－お正月までいくつ子(ね)る？－」

参 考 文 献

- 豊橋教育の源流 豊橋の教育史編集委員会
- 市政概要 豊橋市
- 豊橋市総合計画 豊橋市
- 豊橋市百年史 豊橋市
- 豊橋市公共施設白書 豊橋市
- 豊橋百科事典 豊橋市
- 豊橋市の教育 豊橋市教育委員会
- 教育とよはし 豊橋市教育委員会
- 豊橋市教育振興基本計画 豊橋市教育委員会
- 豊橋市小中高特連携教育推進協議会報告書 豊橋市教育委員会
- 豊橋市生涯学習推進計画 豊橋市教育委員会
- とよはしユースプラン 豊橋市教育委員会
- とよはし子ども・若者育成プラン 豊橋市教育委員会
- 生涯学習情報誌「glad」 豊橋市教育委員会
- とよはしハーモニープラン 2018-2022 豊橋市教育委員会
- 視聴覚教育センター年報 豊橋市教育委員会
- 豊橋市美術博物館年報 豊橋市美術博物館
- 豊橋市文化財センター年報 豊橋市文化財センター
- 豊橋市二川宿本陣資料館年報 豊橋市二川宿本陣資料館
- 図書館要覧 豊橋市図書館
- 豊橋市図書館 100 年のあゆみ 豊橋市図書館
- 食道楽 豊橋版 豊橋市図書館
- 豊橋市図書館所蔵拓本資料集 豊橋市図書館
- 豊橋の民話「片身のスズキ」 豊橋市図書館
- 豊橋市自然史博物館年報 豊橋市自然史博物館
- 豊橋市地下資源館年報 豊橋市地下資源館
- 豊橋市視聴覚教育センター・豊橋市地下資源館年報 科学教育センター
- 豊橋市立くすのき特別支援学校沿革史 くすのき特別支援学校
- 豊橋市立家政高等専修学校沿革史 家政高等専修学校
- 豊橋市立豊橋高等学校沿革史 豊橋高等学校
- とよはし体協創立 80 年・法人化 30 年史 (財)豊橋市体育協会

編集後記

第二次世界大戦と2つの世紀をまたいだ64年の長きにわたる昭和という激動の時代は、裕仁天皇の崩御とともにその幕を下ろしました。新たな元号は、時の小渕恵三官房長官が発表した「平成」でした。そして、1989年1月8日に始まり、2019年4月30日まで続いた平成の時代も、当時の菅義偉官房長官の手によって伝えられた「令和」に改元されました。

以前の豊橋市の教育については、1996年に夏目定寛先生らが『豊橋教育の源流』として戦後から平成8年までをまとめてみえます。そして、令和の時代を迎え、約30年続いた平成という時代の教育をまとめるべく、令和元年8月19日に第1回編集委員会が開催されました。会の初めに、山西正泰教育長から編集目的として、「『豊橋教育の30年史』を作成することで、後世に取り組みを伝えるとともに、教育委員会における30年間の取り組みをもとに新たな施策を考える機会とする」ことが伝えられました。

編集委員会には、補助執行などで市長部局に移った課を含めた9課から委員が集められ、事務局を含む14名で作業が進められました。それぞれの委員が、資料収集・整理、確認作業、原稿執筆、校正作業を行い、6回に及ぶ編集会議での確認、各課の内容についての意見交換を重ねました。とりわけ、最終段階ではこの機に豊橋教育の30年史をまとめる意義を各委員だけでなく各課の関係者が共有し、全体を見て遠慮なく課を超えた意見交換ができ、内容が充実していくことを皆さんが感じ、会も一段と熱気を帯びてきたことを思い出します。

本誌では、平成期の教育委員会の変遷を簡易な表にし、年表で豊橋の教育の歩みをまとめました。索引として本文での頁を入れ、課名は当時の課名と現在の課名を併記してあります。そして、本文として1章から9章までを課ごとにまとめ、資料編を付して参考に供しています。

令和元年度から令和2年度における大幅な委員の変更や現在の教育委員会に属していない課からの協力など、困難な状況もありましたが、各委員の尽力と各課の関係者の協力を得て充実した内容でまとめることができたと感じています。委員及びこの編集に関わり、ご協力いただいた皆さんに心からの感謝を申し上げます。

豊橋市教育委員会 教育監 駒木正清

令和元年度 豊橋市教育委員会「豊橋教育の平成30年史」 編集委員

	役職	所属	職名	氏名
1	委員長	豊橋市教育委員会	教育監	駒木 正清
2	副委員長	教育政策課	主幹	浅倉 淳志
3	委員	学校教育課	指導主事	松岡 史憲
4	委員	保健給食課	課長補佐	大塚 英之
5	委員	生涯学習課	主幹	伊藤 訓子
6	委員	美術博物館	事務長補佐	野澤 和久
7	委員	科学教育センター	事務長補佐	牧野 洋偉
8	委員	図書館	主幹	岡田 伸一
9	委員	「スポーツのまち」づくり課	主幹	山口 徳之
10	委員	自然史博物館	主幹	坂本 博一
11	事務局（顧問）	豊橋市教育委員会	教育部長	大林 利光
12	事務局	教育政策課	指導主事	加藤 友治
13	事務局	教育政策課	指導主事	古関 智子
14	事務局	教育政策課	主査	西口 勝
15	事務局	教育政策課	主事	近藤 俊輔

令和2年度 豊橋市教育委員会「豊橋教育の平成30年史」 編集委員

	役職	所属	職名	氏名
1	委員長	豊橋市教育委員会	教育監	駒木 正清
2	副委員長	教育政策課	主幹	浅倉 淳志
3	委員	学校教育課	指導主事	加藤 貴美子
4	委員	保健給食課	課長補佐	大塚 英之
5	委員	生涯学習課	主幹	大林 美依
6	委員	美術博物館	館長補佐	松井 伸浩
7	委員	科学教育センター	事務長補佐	吉川 博章
8	委員	図書館	主幹学芸員	岩瀬 彰利
9	委員	「スポーツのまち」づくり課	主幹	大村 信人
10	委員	自然史博物館	主幹	大澤 昌章
11	事務局（顧問）	豊橋市教育委員会	教育部長	大林 利光
12	事務局	教育政策課	指導主事	加藤 友治
13	事務局	教育政策課	指導主事	古関 智子
14	事務局	教育政策課	主査	西口 勝
15	事務局	教育政策課	主事	近藤 俊輔

豊橋教育の平成 30 年史

令和 3 年 1 月 27 日 初版第 1 刷 発行

編集・発行 豊橋市教育委員会©
〒440-8501 豊橋市今橋町 1
TEL (0532) 51-2819
FAX (0532) 56-5104
E-MAIL kyoikuseisaku@city.toyohashi.lg.jp
URL <https://www.city.toyohashi.lg.jp/44926.htm>

